

工事番号	
------	--

渡島総合振興局保健環境部環境生活課

大沼国定公園南大沼園地駐車場公衆トイレ建替工事（第二期）

---

## 特記仕様書

令和 6 年 3 月

渡島総合振興局保健環境部環境生活課

## 共通事項特記仕様書

- I 工事概要及び範囲
- II 各 工 事
- III 総合評価方式による必要事項
- 第 1 章 一般共通事項

## 新営工事特記仕様書

- 第 2 章 仮 設 工 事
- 第 3 章 土 工 事
- 第 4 章 地 業 工 事
- 第 5 章 鉄 筋 工 事
- 第 6 章 コンクリート工事
- 第 7 章 鉄 骨 工 事
- 第 8 章 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事
- 第 9 章 防 水 工 事
- 第10章 石 工 事
- 第11章 タイル工事
- 第12章 木 工 事
- 第13章 屋 根 工 事
- 第14章 金 属 工 事
- 第15章 左 官 工 事
- 第16章 建 具 工 事
- 第17章 カーテンウォール
- 第18章 塗 装 工 事
- 第19章 内 装 工 事
- 第20章 ユニット及びその他工事
- 第21章 そ の 他

I 工事概要及び範囲							
1. 工事場所		北海道亀田郡七飯町字大沼町					
2. 工事範囲		※ 下記●は、工事対象範囲を示す。					
	名 称	構造種別・階数	数 量	単 位	備 考		
●	公衆トイレ	木造平屋建て	59.41	m <sup>2</sup>	延べ面積(m <sup>2</sup> )		
○							
○							
○							
内訳							
	名 称	構造	階数	型別	戸 数	延べ面積(m <sup>2</sup> )	備 考
○				2DK	戸	m <sup>2</sup>	
				2LDK	戸	m <sup>2</sup>	
				3LDK	戸	m <sup>2</sup>	
				住戸部計	0 戸	m <sup>2</sup>	
○				2DK	戸	m <sup>2</sup>	
				2LDK	戸	m <sup>2</sup>	
				3LDK	戸	m <sup>2</sup>	
				住戸部計	0 戸	m <sup>2</sup>	
○				2DK	戸	m <sup>2</sup>	
				2LDK	戸	m <sup>2</sup>	
				3LDK	戸	m <sup>2</sup>	
				住戸部計	0 戸	m <sup>2</sup>	
3. 建設工事に係る資材の再資源化に関する法律の対象の有無		○ 有      ● 無					
4. 指定部分工事							
(1) 工事範囲		図示による。					
(2) 指定工期		契約日より      令和 6 年 7 月 31 日まで					
5. 別 途 工 事							
6. 施 工 区 分 (分離発注の場合のみ記入)							
		※ 下記●は、工事対象範囲を示す。					
項 目	工 種	建 築	電 気	暖 房	衛 生	備 考	
躯体の設備配管用のスリーブ、箱抜等及びバルブ等の充填		○	●	○	●	補強は建築	
上記の補強		●					
設備機器用天井、壁、床下地の開口及び開口補強		●				埋込電灯、ヒーター、ファン等	
設備機器用天井、壁、床仕上材の切込			●	●	●	補強は建築	
設備用天井、床点検口		●				点検口蓋のみ	
防火戸用煙感知器、自動閉鎖装置			○				
設備機器用基礎		○	○	○	○		
ルーフドレン排水金物		○			○	配管は衛生	
流し台、ユニットバスの排水トラップ		○				接続は衛生	
木製建具枠の取付け		○				木製建具枠のレールの欠込は建築	
換気扇等取付枠		●	○	○	○		
同上 防雪フード		●		○			
外壁面入排気ガラリ及び防風板		○		○			
水道検針盤			○	○	○		
灯油集中盤への配線接続			○	○	○		

## Ⅱ 各 工 事

1. 図面(工事数量総括表を含む)及び、この特記仕様書に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書 令和4年版(各工事編)」(以下「標準仕様書」という)、「公共建築改修工事標準仕様書 令和4年版(各工事編)」(以下、改修標準仕様書」という)、「建築物解体工事共通仕様書 令和4年版」(以下「解体共通仕様書」という)及び、「北海道建設部土木工事共通仕様書(令和4年10月版)」による。
2. 特記事項の適用については次による。
  - (1) 章は○印を、項目は▷印を塗りつぶしたものを適用する。
  - (2) 特記事項は○印を塗りつぶしたものを適用し、塗りつぶしのない場合は\*印をつけたものを適用する。
  - (3) 特記事項で○印を塗りつぶしたものと、\*印のつけたものがある場合は、共に適用する。
  - (4) 特記事項に記載の( )内表示番号は、標準仕様書の該当項目、該当図又は該当表を示す。
3. この特記仕様書に施工部位の記載のないものは図面によるものとする。
4. 本工事における工事監理業務委託の有無 \* 有 ● 無
5. 契約書に基づく履行報告に当たり、報告に用いる様式等は、下記による。 (1. 2. 4)
- (1) 落札後、直ちに提出する書類
  - ・口座登録所兼支払種別選択申出書
  - ・契約書
  - ・建設リサイクル別記の写し
  - ・経常建設共同企業体協定書(甲)の写し
  - ・付属協議書
  - ・契約保証書(原本)
  - ・建設リサイクル協議書及び同・別記
- (2) 契約後、速やかに提出する書類
  - ・工事工程表
  - ・請負代金内訳書
  - ・現場代理人等指定通知書
  - ・施工体制台帳1
  - ・1級等の施工管理技術検定合格証書の写し又は監理技術者証の写しもしくは経歴書
  - ・健康保険被保険者証または監理技術者証の裏面もしくは住民税特別徴収税額通知書
  - ・共同企業体編成表
  - ・積算労務単価報告書
  - ・下請契約額申出書
  - ・保険関係成立の証
  - ・建設業退職金共済制度掛金収納書(発注者用)
  - ・建設業退職金共済掛金収納書を提出しない理由書
- (3) 該当する場合、速やかに提出する書類
  - ・下請負人選定通知書
  - ・施工体制台帳2
  - ・施工体制台帳3
  - ・施工体制台帳4
  - ・下請契約書の写し
  - ・施工体系図
  - ・労務者配置予定表
  - ・火災保険等付保通知書
  - ・建設リサイクル変更協議書
  - ・瑕疵担保責任の履行の確保に関する届出

- (4) 施工中に必要な都度提出する書類
  - ・請求書（前払）
  - ・前払金使途変更申込書・承諾書
  - ・中間前金払認定請求予定通知書
  - ・中間前金払認定請求書
  - ・請求書（中間前払）
  - ・中間前払金保証に係る前払金使途変更申込書・承諾書
  - ・出来型部分等確認請求書
  - ・請求書（部分払）
  - ・VOC測定結果報告書
  - ・立会願
  - ・段階確認願
  - ・電気工作物の改修立ち入り協議書
  - ・中間検査実施可能日報告書
  - ・中間検査部分完了通知書
  - ・請負代金額変更請求書（単品スライド）
  - ・請負代金額変更請求書（インフレスライド）
  - ・社会保険等未加入建設業者等を下請け契約の相手方とした理由書
- (5) 工事検査前までに提出する書類（調査物）
  - ・木材仕様状況調査票
  - ・環境物品等の調達実施調査票
  - ・週休2日モデル工事アンケート調査票
  - ・快適トイレ設置工事アンケート調査票
  - ・工事特性・創意工夫・社会性等に関する実施状況
  - ・技能士選定通知書
  - ・再生資源利用促進計画書（COBRIS）
- (6) 工事完成時に提出する書類
  - ・工事完成通知書
  - ・建設業退職金共済証紙貼付実績書 1 号様式（元請用）
  - ・建設業退職金共済証紙貼付実績書 2 号様式（下請用）
  - ・建設業退職金共済証紙貼付実績書 3 号様式（内訳書）
  - ・住宅瑕疵担保責任保険の付保証明書
  - ・請求書（完成払）
- 6. 次の場合に該当し、発注者が必要と認める場合は、設計変更する。  
ただし、概数の確定による変更は除く。
  - (1) 設計図書間に不一致等がある場合
    - 7. 設計図書に記載されている内容が数量総括表等と一致しない、又は脱漏している場合等
  - (2) 設計図書と現場の状態とに不一致等がある場合
    - 7. 設計図書により示した条件と現場の状態が一致しないことにより施工方法・範囲の変更を必要とする場合等
  - 4. 設計図書のとおり施工することにより施設利用者又は使用者の利便性、安全性を損ねることが判明した場合等
  - 5. 受注者からの提案に基づく施工方法が設計図書のとおり施工することより経済性、工法的に合理性があると判明した場合等
- (3) 関係機関等との協議結果による工法変更及び仮設工変更等がある場合  
なお、大空間等の仮設工事において施工条件に変更が生じた場合や受注者からの提案がより経済性や工法的な合理性に優れていると認められる場合は、原則として設計変更の対象とする。

7. 関係法令等

(1) 受注者は、工事の施工に当たり、周辺環境の保全に努めるとともに適用を受ける関係法令等を遵守し、必要に応じて次の関係法令等に従い手続き等を行い、工事を適切に施工すること。

- ・ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律（以下「廃棄物処理法」という）
- ・ 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（以下「建設リサイクル法」という）
- ・ 資源の有効な利用の促進に関する法律（以下「リサイクル法」という）
- ・ ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別処置法（以下「PCB特別措置法」という）
- ・ 特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律（以下「フロン回収破壊法」という）
- ・ ダイオキシン類対策特別措置法
- ・ 労働安全衛生法
- ・ 大気汚染防止法
- ・ 騒音規制法
- ・ 振動規制法
- ・ 水質汚濁防止法
- ・ 石綿障害予防規則
- ・ 特定化学物質障害予防規則
- ・ 建築基準法
- ・ 環境基本法
- ・ 土壌汚染対策法
- ・ 建設副産物適正処理推進要綱

(2) 受注者は、「建設工事公衆災害防止対策要綱 建築工事等編」及び「建築物の解体工事における外壁の崩落等による公衆災害防止対策に関するガイドライン」を遵守し、災害防止に努めること。

8. 工事に係る留意事項及び施工条件は、次のとおりとする。

- 敷地内駐車場は公園利用者也使用する為、安全管理及び業務環境について十分配慮すること。
- 工程計画については、別途発注工事を含め施設管理者及び工事監督員と打合せの上計画すること。
- 近隣住民等周辺地域への安全対策に万全を期すとともに必要な工事状況の説明及び調整を十分に  
行うこと。
- 工事期間中の自然災害等への対応は、「建築局発注工事における危機対応マニュアル」による。
- 工事における樹木の枝払いにおいては、最小限とする。

Ⅲ 総合評価方式による必要事項

○ 標準型総合評価方式

技術提案について

1. 技術提案の保護

技術提案については、その後の工事において、その内容が一般的に使用されている状態となった場合は、北海道が無償で使用できるものとする。ただし、工業所有権等の排他的権利を有する事項が含まれる提案については、この限りではない。

2. 責任の所在

発注者が技術提案等を適正と認めることにより、設計図書において施工方法等を指定しない部分の工事に関する落札者の責任が軽減されるものではない。

3. 技術提案に係る履行確認及びペナルティ

○ 簡易型総合評価方式（施工計画審査タイプ）

技術評価項目について

1. 責任の所在

発注者が技術評価項目申請を適正と認めた場合においても、技術評価項目に係る施工に関する受注者の責任は軽減されるものではない。

2. 技術評価項目に係る履行確認

簡易な施工計画、配置予定技術者、担い手の育成・確保、地域の守り手確保に係る技術評価項目については、工事施工中又は工事完了時において履行状況について確認を行う。

3. 「地域の技能士等の活用」の履行確認

当該工事施工中に、工事監督員が施工の立会時に合わせて、技能士等の資格、居住地及び作業状況を確認し、その確認状況を受注者が写真撮影することを原則とし、技能士選定通知書に添付するものとする。

4. 技術評価項目に係るペナルティ

加點評価した技術評価項目を受注者の責により履行できない場合は、工事施行成績評定評点採点表の評定点合計から減点するものとし、その内訳は次のとおりとする。

但し、自然災害など受注者の責によらない場合はこの限りでない。

(1) 簡易な施工計画

7. 入札時に加點評価した簡易な施工計画について、不履行が発生し、入札時の評価が下がる場合に減点する。

1. 減点は、1項目当たり最大5点とする。

(2) 主任（監理）技術者

7. 主任（監理）技術者が交代し、新しく配置された技術者の資格、継続教育の評価の合計点が、入札時の評価より下がる場合に減点する。

なお、技術者の交代の理由が、死亡や健康上の理由、退職等、やむを得ない場合においても評価が下がれば減点する。

1. 減点は、評価が下がる項目の組合せに応じて、最大4点とする。

(3) 追加配置した技術者

追加配置した技術者が交代し、新しく配置された技術者が評価基準に該当しない場合は、5点減点する。

(4) 地域の技能士の活用、地域企業の活用、地域資材の活用、その他の評価項目の不履行による減点

7. 申請のあった計画に対して、明らかに不履行が認められ、入札時の評価が下がる場合に減点する。

1. 減点は、1項目当たり一律5点とする。

ウ. その他の評価項目については、履行確認が必要となる場合のみに適用する。

○ 簡易型総合評価方式（施工実績審査タイプ）

技術評価項目について

1. 責任の所在

発注者が技術評価項目申請を適正と認めた場合においても、技術評価項目に係る施工に関する受注者の責任は軽減されるものではない。

2. 技術評価項目に係る履行確認

配置予定技術者、担い手の育成・確保、地域の守り手確保に係る技術評価項目については、工事施工中又は工事完了時において履行状況について確認を行う。

3. 「地域の技能士等の活用」の履行確認

当該工事施工中に、工事監督員が施工の立会時に合わせて、技能士等の資格、居住地及び作業状況を確認し、その確認状況を受注者が写真撮影することを原則とし、技能士選定通知書に添付するものとする。

4. 技術評価項目に係るペナルティ

加點評価した技術評価項目を受注者の責により履行できない場合は、工事施行成績評定評点採点表の評定点合計から減点するものとし、その内訳は次のとおりとする。

但し、自然災害など受注者の責によらない場合はこの限りでない。

- (1) 主任（監理）技術者
7. 主任（監理）技術者が交代し、新しく配置された技術者の資格、継続教育の評価の合計点が、入札時の評価より下がる場合に減点する。
- なお、技術者の交代の理由が、死亡や健康上の理由、退職等、やむを得ない場合においても評価が下がれば減点する。
4. 減点は、評価が下がる項目の組合せに応じて、最大4点とする。
- (2) 追加配置した技術者
- 追加配置した技術者が交代し、新しく配置された技術者が評価基準に該当しない場合は、5点減点する。
- (3) 地域の技能士の活用、地域企業の活用、地域資材の活用、その他の評価項目の不履行による減点
7. 申請のあった計画に対して、明らかに不履行が認められ、入札時の評価が下がる場合に減点する。
4. 減点は、1項目当たり一律5点とする。
7. その他の評価項目については、履行確認が必要となる場合のみに適用する。

● 第 1 章 一般共通事項	
項 目	特 記 事 項
▶ 1. 道産材等の優先使用	<p>本工事に使用する主要資材は、道産資材及び北海道認定リサイクル製品を使用するよう努めること。（木材及び木材製品は除く。）</p> <p>受注者は本工事において、次の(1)から(4)を順守するとともに、北海道公共建築工事シックハウス対策マニュアルに基づき工事を行うこと。</p> <p>(1) 化学物質を放散させる建築材料等（※1）</p> <p>本工事に使用する建築材料等は、測定対象化学物質を含有していないものを基本とし、安全データシート（SDS）や成分組成表により確認を行うほか、次のアからウを満たすものとする。</p> <p>7. ホルムアルデヒド放散建築材料に指定されている材料は、JIS又はJASに定められたF☆☆☆☆を使用する。ただし、F☆☆☆☆の材料がない場合は工事監督員と協議すること。</p> <p>4. 接着剤は、フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用している環境対応型（配慮型）のものとする。</p> <p>7. 家具、建具類及び二次製品は、測定対象化学物質を含有しないか含有が極めて少ないものとする。</p> <p>※1 化学物質を放散する建築材料等          合板／木質系フローリング／構造用パネル／集成材／単板積層材／MDF／パーティクルボード／その他の木質建材／ユリア樹脂板／壁紙／保温材／緩衝材／断熱材／接着剤／塗料／仕上材料／表面処理用木材保存（防腐・防蟻）剤</p> <p>(2) 環境物品等の調達</p> <p>本工事の資材等に係る環境物品等の調達は、北海道グリーン購入基本方針に基づく現行の環境物品等調達方針により行うよう努める。</p> <p>上記における同調達方針として、資材（機材及び材料を含む）のこん包及び容器は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮したものを優先的に選択・使用するように努めること。</p>
▶ 2. 環境への配慮	



(3) 工事中の留意事項

7. 換気の励行

工事期間中は、室内や足場内等の通風、換気を十分に行い、室内に放散された化学物質を室外に放出させること。

4. 施設利用者にシックハウスを発症した場合の措置

改修工事期間中に当該施設利用者がシックハウス症候群となった場合は、工事監督員に速やかに報告するとともに、工事監督員、施設管理者と連携を図りながら原因究明に努めること。

また、施設管理者へ建築材料等の情報提供やVOC測定を行うなど工事監督員と協議の上、必要な措置を行うこと。

(4) 室内空気中の化学物質の濃度測定

室内空気中の化学物質の濃度を測定し、厚生労働省の指針値以下であることを確認の上、報告すること。

【測定対象化学物質の種類及び指針値】

測定対象化学物質	厚生労働省の指針値（25℃の場合）
ホルムアルデヒド	0.08ppm（100μg/m <sup>3</sup> ）
トルエン	0.07ppm（260μg/m <sup>3</sup> ）
キシレン	0.05ppm（200μg/m <sup>3</sup> ）
エチルベンゼン	0.88ppm（3,800μg/m <sup>3</sup> ）
スチレン	0.05ppm（220μg/m <sup>3</sup> ）
パラジクロロベンゼン	0.04ppm（240μg/m <sup>3</sup> ）

※パラジクロロベンゼンは文部科学省対象建築物のみ適用

濃度測定 ○ 行う ● 行わない

測定箇所 ( ) 箇所 ※測定する位置は、図示による。

測定回数 \* 1回 ○ 2回

測定時期 ※ 測定を行う時期は、工事監督員の指示による。

測定方式 拡散法（パッシブ方式）または厚生労働省が示す標準的な測定方法（アクティブ方式）により実施すること。

分析方法 厚生労働省の示している分析方法による。

（測定時の平均室温が20度に満たない場合は、厚生労働省が示す温度、湿度による補正（ホルムアルデヒド）を行うこと。

▶ 3. 地域材の優先使用

本工事に使用する木材または木材を原料とする資材を使用する場合は、地域材を優先的に使用することとし、使用した材料の種別、産地等を工事監督員に報告すること。

▶ 4. 合法木材の使用

地域材とは、道内の森林で産出され、道内で加工された木材をいう。

木材又は、木材を原料とする資材を使用する場合は、間伐材や合法性の証明された材を使用すること。

また、木材の合法性の証明は、「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン」（平成18年2月林野庁）に準拠し、資材納入業者から証明を受けるとともに、証明書類を工事完了年度から起算して5年間保存すること。

▶ 5. 特別な材料の工法

設計図書等に指定されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法とする。

▶ 6. 品質計画

建築基準法に定められた区分等

・ 風 速 (  $V_o = 34 \text{ m/s}$  )

・ 地表面粗度区分 ( ○ I ○ II ● III ○ IV )

・ 垂直積雪量 ( 90 cm )

▶ 7. 工事写真

工程写真及び完成写真は、北海道建設部建築局営繕工事記録写真撮影要領による。

本工事でデジタル工事写真の黒板情報電子化を行う場合は、工事契約後、工事監督員の承諾を得たうえでデジタル工事写真の黒板情報電子化対象工事とすることができる。この場合は、営繕工事記録写真撮影要領別添「デジタル工事写真の黒板情報電子化について」によるものとする。

<p>▶ 8. 技能士</p>	<p>(1) 技能士の適用は次の職種とし、従事する技能士の氏名・職種及び資格を記載した書面により工事監督員に報告すること。</p> <p>ただし、作業の軽微なものは、工事監督員との協議により省略することができる。</p> <p>なお、施工計画書等の記載事項や添付資料（資格証明等）により、選定技能士の内容が確認できる場合も「技能者選定通知書」の提出を省略できる。</p> <p>＜職種＞</p> <p>型枠施工・鉄筋施工・防水施工・内装仕上げ施工・サッシ施工・ガラス施工・表装・塗装・建築板金・石材施工・建築大工・とび・左官・ブロック建築・タイル張り・エーエルシーパネル施工・カーテンウォール施工・造園・樹脂接着剤注入施工・コンクリート圧送施工・冷凍空調機器施工・配管・熱絶縁施工・枠組壁建築、厨房設備施工、自動ドア施工、バルコニー施工、ウェルポイント施工、建具製作、畳製作</p> <p>(2) 技能士は、職業能力開発促進法による１級、２級若しくは単一等級の資格を有し、地域技能士会の発行する資格証明書又は、技能検定合格書の写し或いは、技能士手帳の写しを上記（１）の書面に添付すること。</p> <p>(3) 技能士は、適用する工事作業中、１名以上の者が自ら作業するとともに、他の技能者に対して、施工品質の向上を図るための作業指導を行うこと。</p>
<p>▶ 9. 施工中の安全確保及び環境保全等</p>	<p>受注者は、標準仕様書に定められた安全確保及び環境保全等のほか、特に次の事項に留意し、工事現場の事故防止に努めること。</p> <p>(1) 労働者の安全衛生教育を徹底すること。</p> <p>(2) 工事現場の安全パトロールを励行すること。</p> <p>(3) 建設機械器具などの危害防止処置を徹底すること。</p> <p>(4) 第三者に災害を及ぼしてはならない。</p> <p>(5) 公害防止に努めること。</p> <p>(6) 公道の汚染防止に努めること。</p> <p>(7) 善良な管理者の注意をもってしても、災害又は公害の発生の恐れがある場合の処置は、工事監督員と協議すること。</p>
<p>▶ 10. 交通安全管理</p>	<p>受注者は、工事の施工中の交通事故防止のため交通安全管理に努め、次の事項を遵守すること。</p> <p>(1) 工事施工中の安全管理（交通誘導員の配置日及び人数を含む）について、工事着手に先立ち作成する総合施工計画書で計画する。</p> <p>なお、計画は資材搬出入運行路線・点検体制・その他車両運行に係る安全対策等について道路管理者等関係機関と十分な事前協議を行い、以後も常に連絡を密にとりながら適切な処置を講じること。</p> <p>(2) 常に下請負人も含め工事施工中の交通安全管理状況の把握に努め、管理状況を適宜工事監督員に報告すること。</p> <p>(3) 工事に関連して交通事故が発生したときは速やかに書面により工事監督員に報告すること。</p> <p>(4) 運搬には、許可業者を選定するなどして、過積載又は過労運転等に伴う交通事故防止に努めること。</p> <p>(5) 建設機械（ブルドーザー、バックホ等）は、排出ガス対策型を使用し、かつ、低騒音・低振動型の車両を使用すること。</p>

<p>▶ 11. 工事完成時の提出図書等</p>	<p>工事完成時の提出図書等は、次により工事監督員に提出する。</p> <p>(1) 完成図関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 完成図（A3判） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育庁物件及び道営住宅物件 1部</li> <li>・ その他の物件 2部</li> </ul> </li> <li>● 新営工事（位置図・配置図・面積表・平面図）</li> <li>○ 改修工事（位置図・配置図・面積表・改修概要表・改修後平面図・立面図等）</li> <li>・ 完成図（A3判）を製本したもの 3部 （道営住宅など、指定管理者により管理するものは4部） <ul style="list-style-type: none"> <li>* 道営住宅物件は表紙をラミネート加工とする</li> </ul> </li> <li>・ 設計原図の貸与 * 有り ○ 無し</li> <li>・ CADデータの貸与 * 有り ○ 無し</li> <li>・ CADデータの貸与有りの場合 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 完成図のCADデータ及びPDFデータ CD-R等による</li> </ul> </li> </ul> <p>(2) 保全に関する資料（提出部数 * 1部 ○ 部）</p> <p>(3) 保守に関する指導案内書（機器取扱説明書）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 道営住宅物件に適用</li> </ul> <p>各設備の機能が十分発揮しうよう、主要機器を含めた装置の取扱説明及び保守についての事項を記載したものとする。</p> <p>指導案内書 A4判カラーを標準とする 建設戸数＋1部</p> <p>同上データ CD-R等による 1式</p> <p>(4) その他、必要とする書類については、工事監督員の指示による。</p>
<p>▶ 12. 工事特性・創意工夫・社会性等</p>	<p>受注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や社会性等及び技術力に関する事項について工事完了時までに所定の様式により提出することができる。</p>
<p>▶ 13. 電力基本料金</p>	<p>本受電から引渡しまでの電力基本料金 ○ 本工事 ○ 別途</p>
<p>▶ 14. 発生材の処理等</p>	<p>発生材の処理等は次により、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（以下「建設リサイクル法」という）、「資源の有効な利用の促進に関する法律」（以下「有効資源利用促進法」という）、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等の関係法令及び「建設副産物適正処理推進要綱」に従い適切に処理すること。</p> <p>処分を行った場合は、処分数量確定のため、その施設の許可書等（写し）、受入伝票又はマニフェスト伝票等（写し）を工事監督員に提示すること。なお、工事完成書類としてマニフェスト伝票等（写し）の提出は求めない。</p> <p>明示している処分場所については、受入可能な施設のうち、積算上運搬費等も含めて一番安価な処理施設としているが、処理施設場所を指定するものではない。</p> <p>受注者の提示する処理施設と積算上の処理施設が異なる場合においても設計変更の対象としない。</p> <p>ただし、異なる処理施設となった理由が受注者の責によるものでないと判断される場合は、設計変更の対象として扱う。</p> <p>なお、下記の内容を変更する場合は、別途、工事監督員と協議をする。</p> <p>(1) 発生材のうち、引き渡しを要する範囲は次による。工事監督員の指示する方法及び位置に堆積、整理し所定の発生材報告書により工事監督員に報告すること。</p> <p>引き渡しを要する範囲： _____</p> <p>(2) 受注者が処分する有価物の範囲は次による。</p> <p>有価物の範囲： _____</p> <p>なお、有価物は、次の登録又は許可業者で処分すること。</p> <p>7. 廃棄物再生事業者登録（知事登録）</p> <p>4. 金属くず商許可業者（警察許可）</p>

## (3) 特別管理産業廃棄物

種 類	
処理方法	<input type="radio"/> 中間処理 <input type="radio"/> 最終処分
処分場所	【 】 (総合) 振興局管内
	片道運搬距離 ( km)
種 類	
処理方法	
処分場所	【 】 (総合) 振興局管内
	片道運搬距離 ( km)

## (4) 再資源化を図るもの(特定建設資材廃棄物)

種 類	コンクリート塊
場所	【 】 (総合) 振興局管内
	片道運搬距離 ( km)
種 類	アスファルト・コンクリート塊
場所	【 】 (総合) 振興局管内
	片道運搬距離 ( km)
種 類	建設発生木材
場所	【 】 (総合) 振興局管内
	片道運搬距離 ( km)

※ 設計上、特定建設資材廃棄物は発生しない場合で、受注者の都合により実際に特定建設資材を発生させ、廃棄物として処分する場合は、当該特定建設資材廃棄物の再資源化等実施方法の確定後に、工事監督員の確認を受けること。

## (5) 再資源化を図るもの(特定建設資材廃棄物以外)

種 類	建設発生土
処理区分	<input checked="" type="radio"/> 縮減 <input type="radio"/> 現場で使用
場所	【 檜山 】 (総合) 振興局管内
	片道運搬距離 ( 67.9 km)

## (6) その他の発生材

種 類	
処理区分	<input type="radio"/> 中間処理 <input type="radio"/> 最終処分
処分場所	【 】 (総合) 振興局管内
	片道運搬距離 ( km)
種 類	
処理区分	<input type="radio"/> 中間処理 <input type="radio"/> 最終処分
処分場所	【 】 (総合) 振興局管内
	片道運搬距離 ( km)
種 類	
処理区分	<input type="radio"/> 中間処理 <input type="radio"/> 最終処分
処分場所	【 】 (総合) 振興局管内
	片道運搬距離 ( km)

## (7) 建設廃棄物の収集・運搬は、産業廃棄物収集運搬業の許可を受けた者とする。

当該運搬車には、次に掲げる表示を行い、環境省令で定める書面を備え付けること。

産業廃棄物収集運搬車	
業 者 名	( ○ ○ ○ ○ ○ ○ )
許可番号	× × × × ×

- (8) 「建設リサイクル法」対象工事及び「資源有効利用促進法」で定められた次の資材の搬入、副産物の搬出がある工事は、工事着手時に再生資源利用・利用促進計画書を提出し、提出時にその内容を説明するとともに、書面または映像（デジタルサイネージ）により工事現場の見やすい場所へ掲示し、可能な限りインターネットの利用により公表するよう努めなければならない。
- また、工事完了時に再生資源利用・利用促進実施書を提出し、工事監督員から請求があった時は、当該実施状況を報告すること。

資源有効利用促進法で定められた一定規模以上の工事  
(次表の一つでも該当するもの)

・ 再生資源利用計画書

次のような建築資材を搬入する工事

土 砂	500 m <sup>3</sup> 以上
砕 石	500 t 以上
加熱アスファルト混合物	200 t 以上

・ 再生資源利用促進計画書

次のような指定副産物を搬出する建設工事

土 砂	500 m <sup>3</sup> 以上
コンクリート塊	合計 200 t 以上
アスファルト・コンクリート塊	
建設発生木材	

▷ 15. 特殊な建築副産物

(1) 施工調査計画

特殊な建設副産物の施工調査は、次による。(7.1.3)

なお、分析調査の結果、設計図書と異なる場合は、工事監督員と協議する。

7. 使用状況について、設計図書及び目視により製造所名、製造年、型式、種類、数量等を調査する。

4. 分析調査

○ 行う ○ 行わない

▷ 16. 特殊な建築副産物の回収及び処分

特殊な建設副産物の回収及び処分は、次による。(7.3.1)

(1) フロン

7. 冷媒

関係法令等に従い、登録を受けた回収業者。

処理区分	* 回収
場所	【 】 (総合) 振興局管内
	片道運搬距離 ( km)

4. 建材用断熱材フロン

処理区分	* 焼却
場所	【 】 (総合) 振興局管内
	片道運搬距離 ( km)

(2) ハロン

ハロン消火設備のハロン容器は、ハロン消火設備設置業者等に処理を委託。

処理区分	* 処理
場所	業者名等：
	住 所：
	片道運搬距離 ( km)

(3) イオン化式感知器

製造業者に処理を委託。

処理区分	* 処理
場所	業者名等：
	住 所：
	片道運搬距離 ( km)

(4) 六ふっ化硫黄ガス

製造業者に回収を委託。

種類	<input type="radio"/> 絶縁開閉器	<input type="radio"/> 絶縁変圧器等の受変電機器
処理区分	* 処理	
場所	業者名等：	
	住 所：	
	片道運搬距離 ( km)	

(5) P F O S (ペルフルオロ (オクタンー 1ー スルホン酸))

種類	<input type="radio"/> 泡消火剤	<input type="radio"/> その他 ( )
処理区分	<input type="radio"/> 中間処理	<input type="radio"/> 最終処分
場所	【 】 (総合) 振興局管内	
	片道運搬距離 ( km)	

(6) その他の特殊な建設副産物

種類	<input type="radio"/>	
処理区分	<input type="radio"/> 処理	<input type="radio"/> その他の処理方法 ( )
場所	業者名等：	
	住 所：	
	片道運搬距離 ( km)	
	【 】 (総合) 振興局管内	
	住 所：	
	片道運搬距離 ( km)	

▶ 17. 北海道循環資源利用促進税

本工事で発生する産業廃棄物が、道内の最終処分場に直接搬入される場合、又は中間処理場に搬入される場合でも残さ等が発生し、最終処分場に搬出される場合は、循環税が課税されるので適正に処理すること。

▶ 18. 自主施工期間の施工条件

自主施工期間中は、低温時施工により品質管理上支障の起こす恐れのない工種は、これを積極的に活用できる。

ただし、支障の起こす恐れのある次の工種は、工法等を工事監督員と十分協議の上、施工するものとする。

<工種> コンクリート・屋外防水・屋上防水・タイル・左官・塗装・緑化工事その他これに類する工事

▶ 19. 季節労働者などの雇用

工事施工に際しては、職業安定機関と密接な連携を図り、季節労働者などの雇用の拡大に努める。

▶ 20. 下請負人等への支払いの適正化

下請負人及び資材業者に対する支払いは現金払いとし、やむを得ず手形払いとする時は、当該手形期間を短く(90日以内)するよう努める。

▶ 21. 火災保険等

工事着手から完成引渡までの間を契約金額に相当する保険等に参加するものとし、取扱は次による。

(1) 付保する保険

工事の内容により、火災保険、建設工事保険、組立保険等の1以上の保険を付保する。

なお、受注者自ら上記の保険に追加して付する特約等については、これを妨げるものではない。

(2) 保険金

原則として請負代金額とする。

(3) 保険の期間

保険の加入期間は原則として工事着手日から完成引渡しまでの間とする。

工事着手日 ~ 実際の工事のための準備工事(現場事務所等の建設又は測量を開始すること)の初日をいう。

完成引渡し ~ 工期に14日追加した日とする。

	<p>(4) 対象外工事 次に掲げる工事は、対象外工事として保険を付さない事ができる。</p> <p>(7) 解体、撤去、分解又は片づけ工事</p> <p>(1) 外構工事</p> <p>(5) 保険契約の変更 保険契約締結後に請負代金額の変更又は工期延長等があった場合は、相応の保険契約を変更しなければならない。</p> <p>(6) 保険証券等の提出 保険契約を締結（変更も含む）した場合は、当該保険証券等の写しを提出しなければならない。ただし、施工計画書等に添付された証券等の写し、保険会社の証明書等により、保険の内容が確認できる場合は、省略できるものとする。</p> <p>(7) 協議 この取扱いにより難い事項については、必要に応じて受注者は、発注者と協議するものとする。</p>
▶ 22. 法定外の労災保険の付保	<p>本工事の受注者は、下記に従い、法定外の労災保険に付さなければならない。</p> <p>(1) この特記仕様書における「法定外の労災保険」とは、従業員等が業務上の災害によって身体の障害（後遺障害、死亡を含む）を被った場合に、法定労災保険の給付に上乗せして雇用者が従業員等又はその遺族に支払う金額に対し、保険会社が雇用者に保険金を支払うことを定める契約を言う。</p> <p>(2) 受注者は、本請負工事の契約工期を包含する保険期間による「法定外の労災保険」（以下、「法定外労災保険」）を締結しなければならない。本請負工事に係る契約締結時において「法定外労災保険」の契約を締結していない場合は、工事着工の前に「法定外労災保険」を締結すること。</p> <p>(3) 受注者は「法定外労災保険」の保険証券の写し又は加入証明書の原本を、工事着手の前に、工事監督員を経由して支出負担行為担当者へ提出しなければならない。</p> <p>(4) 契約書第23条に基づき本請負工事の工期を変更したことにより、工期が「法定外労災保険」の保険適用外に及んだ場合、受注者は速やかに変更後の工期による保険期間の変更又は保険の追加契約を行い、変更又は追加して契約した「法定外労災保険」の保険証券の写し又は加入証明書の原本を、工事監督員を経由して支出負担行為担当者へ提出しなければならない。</p> <p>(5) 本請負工事で求める「法定外労災保険」については、保険契約に定める保険金額の多寡や特約の有無等の契約内容は問わず、保険契約の事実のみを求めるものとする。</p>
▶ 23. 現場環境改善	<p>魅力ある建設工事を推進するため、工事現場の環境改善に努めること。</p>
▷ 24. 快適トイレの設置	<p>本工事は、「快適トイレ設置工事」の対象工事である。</p> <p>(1) 受注者が当該工事の現場に仮設トイレを設置する場合は、建設現場を男女ともに働きやすい職場環境へと改善することを目的に、快適トイレの設置を検討すること。</p> <p>(2) 快適トイレとは、次の7.及びイ.の各項目を全て満たすものとする。ウ.については、必須ではないが、装備していればより快適になると思われる項目なので、設置を検討すること。</p> <p>7. 快適トイレに求める標準仕様</p> <p>(7) 洋式（洋風）便器</p> <p>(1) 水洗機能（簡易水洗、し尿処理装置付き含む）</p> <p>(ウ) 臭い逆流防止機能（フラPPER機能：必要に応じて消臭剤等活用し臭い対策をすること）</p>

	<p>(エ) 容易に開かない施錠機能（二重ロック等：二重ロックの備えがなくとも容易に開かないことを製造者が説明出来るもの）</p> <p>(オ) 照明設備（電源がなくとも良いもの）</p> <p>(カ) 衣類掛け等のフック付、又は、荷物置き場設備機能（耐荷重 5 kg 以上）</p> <p>イ. 快適トイレとして活用するために備える付属品</p> <p>(ア) 現場に男女がいる場合に男女別の明確な表示</p> <p>(イ) 周囲からトイレの入口が直接見えない工夫</p> <p>(ウ) サニタリーボックス</p> <p>(エ) 鏡付きの洗面台</p> <p>(オ) 便座除菌シート等の衛生用品</p> <p>ウ. 推奨する仕様、付属品</p> <p>(ア) 便房内寸法900×900mm 以上（半畳程度以上）</p> <p>(イ) 擬音装置</p> <p>(ウ) 着替え台</p> <p>(エ) フラッパー機能の多重化</p> <p>(オ) 窓など室内温度の調整が可能な設備</p> <p>(カ) 小物置き場等（トイレトペーパー予備置き場）</p> <p>(3) 従来品相当額（10,000円／基・月）を差し引いた設置費用（実費用）が51,000円／基・月（基準額）未満の場合は、その額で設計変更を行う。  ただし、地域事情など特別な理由があり、実費用が基準額を超える場合は、受発注者協議のうえ、その理由が妥当と判断できる場合に限り、基準額に協議した金額を加算して設計変更を行う。  なお、ハウス型等で男女別トイレが一体となった快適トイレ（一体型）である場合に限り、基準額の金額を102,000円／基・月と、従来品相当額の金額を20,000円／基・月と読み替える。</p> <p>(4) 快適トイレの設置にあたっては、次に留意する。</p> <p>ア. 男女別で各 1 基ずつ設置することを原則とする。ただし、女性が現場にいない場合はこの限りではない。  なお、設計変更数量の上限は、男女別で各 1 基ずつ 2 基／現場まで、一体型で 1 基／現場までとする。</p> <p>イ. 具体的な実施内容や設置時期については、工事着手前の施工計画書提出時に、(2)の項目を満たすことを確認できる資料（見積書を含む）を工事監督員に提出し、規格・設置基数等の詳細について、協議のうえ決定すること。</p> <p>ウ. 手配が困難な場合は、工事監督員と協議のうえ設置しないことができる。</p>
▶ 25. 建設業退職金共済制度	<p>工事現場には「建設業退職金共済制度適用事業主工事現場」の標識を掲示すること。</p>



▶ 26. 工事標識

受注者は、着工後速やかに公衆の見やすい場所に工事標識を掲示する。

↑ 1,200 ↓	工 事 標 識	
	工 事 名	
	発 注 者	(注1)
	工 事 期 間	令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日
	受 注 者	
	設 計 者	北海道建設部建築局建築整備課 〇〇〇〇〇設計事務所(注2)
	工事監理者	北海道建設部建築局建築整備課 〇〇〇〇〇設計事務所(注2)
↓ 1,350 ←	工 事 現 場 連 絡 所	
	〇〇〇〇〇現場事務所 (電話) × × 局 × × × ×	

注1 北海道、北海道教育委員会又は北海道警察本部と記載する。

注2 設計又は工事監理を設計事務所に委託した場合、事務所名も併せて記載する。

▶ 27. 公共事業労務費調査に対する協力

- (1) 本工事が北海道の実施する公共事業労務費調査の対象工事となった場合、受注者は、調査票等に必要事項を正確に記入し北海道に提出する等、必要な協力を行わなければならない。また、本工事の工期経過後においても、同様とする。
- (2) 調査票等を提出した事業所を北海道が事後に訪問して行う調査・指導の対象に受注者がなった場合、受注者は、その実施に協力しなければならない。また、本工事の工期経過後においても、同様とする。
- (3) 公共事業労務費調査の対象工事となった場合に正確な調査票等の提出が行えるよう、受注者は、労働基準法等に従って就業規則を作成すると共に賃金台帳を調製・保存する等、日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行っておかななければならない。
- (4) 受注者が本工事の一部について下請契約を締結する場合、受注者は、当該下請負人（当該下請工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む。）が前3項と同様の義務を負う旨を定めなければならない。

▶ 28. 工事实績情報の登録

受注者は、受注時、変更時及び完了時に（10日以内）工事实績情報システム（CORINS）に基づき、「工事カルテ」を作成し、工事監督員の確認を受けた後に、（財）日本建設情報総合センターに登録申請しなければならない。

また、同センター発行の「工事カルテ受領書」の写しを工事監督員に、提出しなければならない。

（対象工事：請負代金額500万円以上の全工事）

▶ 29. 施工体制台帳の整備

建設業法に基づく施工体制台帳を作成し、施工管理体制に関する事項を工事監督員に提出しなければならない。（対象工事：工事1件の請負代金額が200万以上の工事）ただし、200万円未満の工事であっても下請契約を締結する場合は、提出すること。

また、公衆の見やすい場所に施工体系図を掲示する。

▷ 30. 中間検査の実施

(1) 中間検査の実施

本工事において、次の段階で中間検査を実施する。

実施対象建物名称	実施部位	実施時期
○ _____	○ 基礎工事	○ 配筋完了時
○ _____	○ _____ 階	○ 躯体完了時
○ _____	○ _____ 階	○ 鉄骨建方 完了時
○ _____	○ _____ 階	○ _____ 完了時
○ _____	○ _____	○ _____ 完了時

	<p>(2) 上記のほか、発注者が中間検査の実施を必要と認めた場合は、別途文書により通知する。</p> <p>(3) 受注者は、中間検査実施可能日について、その１４日前までに工事監督員に報告し、検査に際して「営繕工事中間検査実施基準」（北海道建設部建築局）に掲げる関係資料を準備する。</p>									
▷ 31. 抜き打ち検査の実施	<p>(1) 抜き打ち検査の実施</p> <p>本工事において、次の段階で抜き打ち検査を実施する。</p> <table><tr><th>実施対象建物名称</th><th>実施部位</th><th>実施時期</th></tr><tr><td>○</td><td>○ 杭工事</td><td>杭工事施工中</td></tr><tr><td>○</td><td>○</td><td></td></tr></table>	実施対象建物名称	実施部位	実施時期	○	○ 杭工事	杭工事施工中	○	○	
実施対象建物名称	実施部位	実施時期								
○	○ 杭工事	杭工事施工中								
○	○									
▶ 32. 暴力団員等による不当介入を受けた場合の対応	<p>(1) 受注者は、暴力団員等による不当要求又は工事（業務）妨害（以下「不当介入」という。）を受けた場合は、断固としてこれを拒否しなければならない。</p> <p>また、不当介入があった時点で速やかに警察に通報するとともに、捜査上必要な協力を行わなければならない。</p> <p>(2) 受注者は、前記により警察へ通報を行った際には、速やかにその内容を工事監督員に報告しなければならない。</p> <p>(3) 受注者は、暴力団員等による不当介入を受けたことにより、工程に遅れが生じる等の被害が発生した場合は、工事監督員と協議するものとする。</p>									
▶ 33. 重点的な監督業務の実施	<p>公共工事の品質確保のために、重点的な監督業務の対象工事に指定された場合は、「建設部建築局営繕工事重点監督実施要領」を適用する。</p> <p>なお、対象工事に指定した場合は、別途文書により通知する。</p>									
▷ 34. 特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律への対応	<p>受注者は、「特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律」に基づき、保険への加入又は保証金の供託を行うこと。</p>									
▶ 35. 電子納品	<p>北海道建設部建築局制定の「営繕工事電子納品運用ガイドライン」（以下、「ガイドライン」という。）に基づき、工事書類を電子成果品として納品する。</p> <p>(1) 電子納品の対象書類</p> <p>電子納品の対象書類は、工事写真及び完成図面を基本とするが、詳細については「ガイドライン」を参考にし、工事監督員と協議の上、決定するものとする。</p> <p>(2) 情報共有</p> <p>ア. 情報共有の対象書類は「ガイドライン」に示すとおりとするが、詳細については工事監督員と協議の上、決定する。</p> <p>イ. 本工事における情報共有は、電子メールを利用する。なお、受注者側の通信環境などから、施工・管理する上で効率化が期待できない場合は、工事監督員との協議によりデータ授受の方法やデータ種類を決定する。</p> <p>(3) 要領・基準</p> <p>電子納品は、「ガイドライン」に基づき実施するほか、特に記載のない限り国土交通省で定めている「営繕工事電子納品要領」及び「官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕工事編】」を準用する。</p> <p>(4) 電子納品・情報共有実施に伴う環境整備</p> <p>ア. 受注者は、電子納品及び情報共有を行うにあたり、必要なハード環境及びソフト環境を予め保有している、又は手配可能であること。</p> <p>イ. 本工事の契約締結後、受注者は「ガイドライン」に基づき、着手時チェックシートによりインターネット環境や利用ソフト、情報共有対象書類、電子納品対象書類等について工事監督員と協議すること。</p>									

	<p>(5) 電子納品 本工事の電子納品対象書類は、電子媒体（ＣＤ－Ｒ等）により２部を市販ファイル（Ａ４判）に綴じて提出する。</p> <p>(6) 調査への協力 受注者は、電子納品及び情報共有等に関し、工事監督員から調査依頼があった場合、特段の理由がない限りその調査に応じなければならない。</p> <p>(7) その他 電子納品及び情報共有の遂行にあたり疑義が生じた場合は、工事監督員と十分協議すること。</p>
▶ 36. 「営繕工事における地域外（遠隔地）からの建設資材調達費用の積算方法等」の試行について	<p>地域外（遠隔地）からの建設資材調達に係る設計変更について（試行）</p> <p>(1) 建設資材の安定的な確保を図るために地域外（遠隔地）から調達せざるを得ない場合には、事前に工事監督員と協議すること。その場合、購入費用及び輸送費等に要した費用について、証明書類（実際の取引伝票等）を工事監督員に提出し、設計変更の内容について協議するものとする。</p> <p>(2) 本試行の対象となる建設資材は、生コンクリート・鉄筋・鉄骨・アスファルト合材・石材等（砂、砂利、割栗石等）及び仮設材（運搬に要する費用のみ）とする。</p> <p>(3) 受注者の責に帰すべき理由による増加費用については、設計変更の対象としない。</p> <p>(4) 受注者から提出された資料に虚偽の申告があった場合については、法的措置及び指名停止等の措置を行う場合がある。</p>
▶ 37. 「営繕工事における地域外（遠隔地）からの労働者確保に要する費用の積算方法等」の試行について	<p>(1) 本工事は、今後、不足する技術者や技能者を広域的に確保せざるを得ない場合も考えられることから、契約締結後、労働者確保の方策について変更が生じ、適正な工事の実施が困難となる場合に、必要となる費用について支出実績を踏まえ、設計変更により対応する試行工事である。 なお、当該試行による変更項目は、次による。</p> <p>（実績変更対象項目） 共通仮設費：共通仮設費率に含まない項目の費用 現場管理費：労務管理費（募集及び解散に要する費用、賃金以外の食事、通勤費等に要する費用）</p> <p>※労働者確保が出来ず、安易に地域外から確保しても、工事施工箇所の地域において労務のひっ迫状況が確認されなければ、労働者確保に要する費用の設計変更はできない。</p> <p>(2) 受注者から協議を受け、設計変更が必要と認められる場合は、次のとおりとする。</p> <p>7. 発注者は、実績変更対象項目について特記仕様書により、積算方法を明確にすることとする。</p> <p>4. 受注者は、労働者確保に要する方策に変更が生じ、北海道建設部営繕工事共通費積算基準等の金額相当では適正な工事の実施が困難になった場合は、実績変更対象費の支出実績を踏まえて最終変更時点で設計変更をすることがあるので、受注者は、労働者確保に要する費用の設計変更を希望する場合は、工事着手日までに「労働者確保に係る実施計画書」（様式1-2）及び「労働者確保に係る実施計画書（詳細内訳）」（様式1-3）を工事施工打ち合わせ簿に添付し工事監督員に提出する。受注者は、「労働者確保に係る実施計画書」等の提出時には、入札時に立案した予算計画における各費用の内訳がわかる資料（見積書等）を整理し保管すること。 ただし、労働者確保に要する方策に変更が生じて、設計変更を希望しない場合は、上記様式の提出は不要とし、工事打合せ記録簿で確認を行う。</p>

- ウ. 工事着手日までに「労働者確保に係る実施計画書」等を工事監督員に提出出来ない場合は、原則、労働者確保に要する費用の設計変更は行わない。
- エ. 工事着手日までに「労働者確保に係る実施計画書」等を工事監督員に提出した受注者は、労働者確保に要する方案に変更が生じた場合、速やかに、適正な工事の実施が困難になった理由を工事打合せ記録簿に記載し、工事監督員に提出し協議を行う。
- オ. 受注者は、工事監督員と協議を行い、労働者確保に要する費用の設計変更が必要と認められた場合、最終精算変更時点において、実績変更対象費の支出実績を踏まえて設計変更を請求する際は、実績変更対象費に係る費用の内訳を記載した「労働者確保に係る実績報告書」（様式2-1）、「労働者確保に係る実績報告書（詳細内訳）」（様式2-2）及び実績変更対象費について実際に支払った全ての証明書類（領収書、領収書の出ないものは金額の適切性を証明する金額計算書など。）を、工期末の30日前までに工事監督員に提出し、設計変更の内容について協議するものとする。
- カ. 受注者の責めによる工事工程の遅れ等受注者の責めに帰すべき事由による増加費用については、設計変更の対象としない。
- キ. 受注者から提出された資料に虚偽の申告があった場合については、法的措置及び指名停止等の措置を行う場合がある。

費目		実績変更対象項目	当初 積算方法
共通仮設費	仮設用借地料 （準備費）	（地域外労働者確保に要する） 現場事務所（敷地外）、試験室、 労働者宿舎、倉庫、材料保管場所 等の敷地借上げに要した地代及び 建物を建築する代わりに貸しビ ル、マンション、民家等を長期借 上げした場合に要した費用	○当初積算では計上していない。
	宿舎費 （仮設建物費）	（地域外労働者確保に要する） 労働者が、旅館、ホテル等に宿泊 した場合に要した費用 （労働者送迎費：労働者をマイク ロバス等で日々当該現場に送迎輸 送するために要した費用（運転手 賃金、車両損料、燃料費等含 む））	○当初積算では計上していない。
現場管理費	募集及び解散に要す る費用 （労務管理費）	（地域外労働者確保に要する） 労働者の赴任手当、労働者の帰省 旅費・手当	○当初積算では計上していな い。 （地域外労働者以外にかかる 募集及び解散に要する費用につ いては現場管理費率に含む）
	賃金以外の食事、通 勤等に要する費用 （労務管理費）	（地域外労働者確保に要する） 労働者の食事補助、交通費の支給	○当初積算では計上していな い。 （地域外労働者以外にかかる 賃金以外の食事、通勤等に要す る費用については現場管理費率 に含む）

▷ 38. 週休2日モデル工事

- (1) 建築、電気及び管工事のうち、受注者が希望する工事を「週休2日モデル工事」の対象とする。
- (2) 受注者は、週休2日による施工を希望する場合、契約後、工事監督員に申し出のうえ「週休2日モデル工事」として施工できる。
- (3) 週休2日とは、対象期間において、土日・祝日に関わらず、4週8休以上の現場閉所を行ったと認められる状態をいう。
- (4) 対象期間とは、工期内において、現場における準備作業（現場事務所や仮設資材の搬入・設置等）に着手した日から後片付け作業（現場事務所や仮設資材の撤去・搬出等）を終えた日までの期間をいう。なお、年末年始6日間（12月29日～1月3日）及び夏季休暇3日間（8月13日～15日）、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間のほか、発注者があらかじめ対象外としている内容に該当する期間（受注者の責によらず現場作業を余儀なくされる期間など）は含まない。
- (5) 4週8休以上とは、対象期間における現場閉所日数の割合（以下、「現場閉所率」という。）が、28.5%（8日/28日）以上の水準に達する状態をいう。なお、降雨、降雪等による予定外の閉所日についても、現場閉所日数に含めるものとする。  
 [現場閉所率の算定方法]  

$$K(\%) = A / B$$
 ※ K：現場閉所率（%）  
 A：対象期間における現場閉所日数  
 B：対象期間の日数
- (6) 現場閉所とは、現場作業を行っていない日とするため、巡回パトロールや保守点検等の現場管理上必要な作業や現場事務所での書類整理等の事務的内業を除き、1日を通して現場が閉所された状態をいう。
- (7) 週休2日の確保の取組は、将来の担い手確保、入職しやすい環境づくりを目指すものであることから、週休2日による施工を実施する受注者は、その趣旨に沿った休日の取得に努めるものとする。
- (8) 発注者は、以下のア～ウまでの現場閉所の状況に応じた補正係数により労務費（予定価格のもととなる工事費の積算に用いる複合単価、市場単価及び物価資料の掲載価格（材工単価）の労務費）を補正し、請負代金額を変更する。なお、4週6休に満たない場合は、変更の対象としない。
  - ア. 4週8休以上（現場閉所率28.5%（8日/28日）以上）  
補正係数1.05
  - イ. 4週7休以上4週8休未満（現場閉所率25%（7日/28日）以上28.5%未満）  
補正係数1.03
  - ウ. 4週6休以上4週7休未満（現場閉所率21.4%（6日/28日）以上25%未満）  
補正係数1.01
- (9) 週休2日の実施の確認方法は、次によるものとする。
  - ア. 工事着手前
    - ・ 受注者は、現場閉所予定日を記載した計画工程表を施工計画書に添付し工事監督員へ提出する。
    - ・ 工事監督員は、受注者より受領した計画工程表により、週休2日が確保されていることを確認する。
    - ・ 「対象期間」の設定として、現場における準備作業（現場事務所や仮設資材の搬入・設置等）に着手した日及び後片付け作業（現場事務所や仮設資材の撤去・搬出等）を終えた日、必要に応じて工場製作のみを実施した期間などの対象外とする期間を受注者との協議により決定する。

▶ 39. 「執務並行改修工事における時間外及び深夜の作業に係る労務費の積算方法等」の試行について

イ. 工事着手後

- ・ 受注者は、工事監督員による現場閉所の状況等の確認のため工事週報等に「現場閉所日」を記載し、工事監督員に提出する。
- ・ 工事監督員は、受注者が作成する「現場閉所日」が記載された工事週報等により、定期的に現場閉所の状況、対象期間における現場閉所日数を確認する。

(10) 受注者を対象としたアンケート調査の依頼があった場合は協力するものとする。

(1) 執務並行改修工事において、施設管理者の要望等により施工時期や施工時間が制限され、工期等を遵守するためやむを得ず時間外及び深夜（以下、時間外等という。）の作業をせざるを得ない場合において、必要な時間外労働及び深夜労働に係る労務費の割増分に相当する費用について次により設計変更を行う。  
なお、設計図書に施工時期・施工時間等の施工条件について記載があるもの及び小規模な修繕工事は除く。

(2) 受注者は、時間外等の作業を行う計画がある場合、事前に工事監督員と協議すること。  
その場合、工事監督員に次の書類を提出し、設計変更の内容について協議するものとする。

ア. 施設管理者からの要望等の内容を記載した打合せ記録簿

イ. 制限される施工時期・施工時間により遅延する工程を記載した工事工程表

ウ. 時間外等作業の計画を記載した時間外等作業計画書

エ. その他、工事監督員が求める書類

(3) 受注者は、設計変更の手続き後に時間外等作業を実施すること。また、時間外等作業終了後は、工事監督員に次の書類を提出又は提示し、実施状況を報告すること。

ア. 時間外等作業の実施内容を記載した時間外等作業実施報告書

イ. ア.の状況が確認できる作業日報等の作業記録の提示

(4) 工事監督員等との協議の結果設計変更が認められない場合、受注者は再度施設管理者と調整を行う。

(5) 時間外等作業に係る割増分労務費の算出方法は次のとおりとする。

時間外（深夜）割増分労務費 ＝（労務単価 × K）× 作業時間数口

※ K（割増賃金係数）＝ 割増対象賃金比 × 1／8 × 割増係数

※ 労務単価及び割増対象賃金比は、「公共工事設計労務単価表（農林水産省・国土交通省）」の職種別単価及び別表-1「割増対象賃金比」の数値を採用する。

※ 割増係数は、時間外0.25、深夜0.25とする。（積算標準単価に平均的能力の作業員による標準作業量の労務費が含まれているため、時間外労務費の割増係数は、割増分のみ（1.25-1=0.25）とする。）

(6) 受注者の責に帰すべき理由による時間外等作業については、設計変更の対象としない。

(7) 受注者から提出された資料に虚偽の申告があった場合については、法的措置及び指名停止等の措置を行う場合がある。

防寒養生は、次の範囲とする。

(1) 養生期間

1月10日から3月10日を原則とする。

ただし、1月10日から3月10日以降において品質確保の観点から防寒養生の実施が必要となる期間については設計変更できるものとする

なお、寒中コンクリートの養生期間については、第6章コンクリート工事の期間

▷ 40. 防寒養生

	<p>(2) 養生方法</p> <p>7. 仮囲    <input type="radio"/> 上家仮囲                    ( * 単管足場+コンパネ+シート程度 )</p> <p style="text-align: right;"><input type="radio"/> _____ )</p> <p style="text-align: center;"><input type="radio"/> 側 仮 囲                    ( * ビニールシート    <input type="radio"/> コンパネ )</p> <p>4. 採暖    <input type="radio"/> 外部採暖                    <input type="radio"/> 内部採暖</p> <p>次に示した項目は、必要に応じて設計変更できるものとする。</p> <p>(1) 対象期間</p> <p style="padding-left: 20px;">* 夏期(6月1日～8月31日)</p> <p>(2) 対象項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遮光ネット</li> <li>・ ドライミスト</li> <li>・ 暑さ指数(WBGT値)の計測値の設置</li> </ul> <p style="padding-left: 40px;">※ いずれの項目もリース代を対象とする</p>
▶ 41. 夏期の熱中症対策	
▶ 42. 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策の取り扱いについて(令和2年4月28日付け事務連絡)に基づき、追加で費用を要する新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を実施する場合には、実施内容について発注者と協議を行い、必要と認められる対策については、変更施工計画書(又は変更業務計画書)を提出すること。</p> <p>なお、必要と認められる対策については設計変更の対象とする。</p>
▶ 43. 北海道インフラゼロカーボン試行工事について	<p>(1) 本工事は、受注者の発案によるカーボンニュートラルに資する取組を推進する「北海道インフラゼロカーボン試行工事」の対象工事である。</p> <p>(2) 工事契約後、受注者は、当該工事において、カーボンニュートラルに資する取組を提案・協議し取組を実施することができる。 実施要領については、北海道建設部計画管理課ホームページで確認すること。</p> <p>(3) 試行を実施する場合は、次のとおりとする。</p> <p>7. 受注者は計画書を作成し、この計画書を工事打合せ記録簿に添付し、工事監督員と協議する。</p> <p>4. 工事監督員(総括監督員)は、7.の協議があった場合には、評価できる提案内容であるか確認し受注者に回答する。評価できない提案があった場合、受注者は提案を再協議できる。</p> <p>ウ. 受注者は、4.で提案・協議した内容に取り組むとともに、実施状況がわかる写真を撮影する。</p> <p>エ. 受注者は、工事完成に先立ち、工事監督員(総括監督員)に「実施状況報告書」を提出する。「実施状況報告書」には、ウ.で撮影した写真を添付する。</p> <p>オ. 工事監督員(総括監督員)は、「実施状況報告書」により、4.で提案・協議された内容が適切に実施されていることが確認できた場合には、工事施行成績評定の「6. 社会性等」の該当評価項目を加点評価する(ただし、工事施工成績評定を行わない場合を除く。)。 なお、適切に実施されていない場合や「実施状況報告書」の提出がない場合等により実施状況が確認できない場合又は4.の提案・協議がない場合には、加点評価は行わない。</p> <p>(4) 本試行に係る費用については、原則、受注者負担によるものとする。</p>

<p>▷ 44. ゴム製品等に係る品質確認について</p>	<p>(1) ゴム製品等の品質確認等  受注者は、東洋ゴム化工品(株)、ニッタ化工品(株)で製造された製品や材料(以下、ゴム製品等とする。)を用いる場合には、同社が製造するゴム製品等に対して受注者が指定した第三者(東洋ゴム化工品(株)、ニッタ化工品(株)と資本金・人事面で関係がない者)によって作成された品質を証明する書類を提出し、工事監督員の確認を得るものとする。  なお品質証明において、以下の試験及び検査を行う際、製品に応じて必要な規格(計測項目)について取得するものとする。  通常状態での試験(常態試験)～ 硬さ、比重、引張強度、伸び  熱老化試験～ 熱老化前後での変化率(硬さ、比重、引張強度、伸び)  圧縮永久ひずみ試験～ 圧縮による残留歪み  製品検査～ 外観、寸法、性能</p> <p>(2) ゴム製品等の品質確認をした場合における瑕疵担保の取扱い  第三者による品質証明書類を提出し工事監督員の確認を得た場合であっても、後に製品不良等が判明した場合に受注者の瑕疵担保責任が免責されるものではない。</p>
<p>▷ 45. 建設キャリアアップシステム活用モデル工事の実施について</p>	<p>(1) 本工事は、建設キャリアアップシステム(以下「CCUS」という。)の活用を促進するため、CCUSの活用に関する評価対象項目を設定し、その達成状況に応じた工事施行成績評価を実施する試験工事である。</p> <p>(2) 本工事において使用する用語の定義は以下のとおりとする。  ・技能者：元請企業及び下請企業の従業員で、建設技能者として就労する者をいい、一人親方を含む。  ・カードリーダー：CCUSに対応したICカードリーダーをいう。  ・現場利用料：CCUSのシステム利用料のうち、技能者の就業履歴回数(カードタッチ)ごとに発生する料金であり、元請として現場を登録する事業者が支払を行う費用をいう。  ・対象期間：CCUS活用モデル工事の現場において技能者の就業履歴を蓄積すべき期間のことをいい、工期から準備期間、不稼働日及び後片付け期間を除いた期間とする。ただし、現場着手日までに事業者登録、技能者登録及び管理者ID(現場管理者)登録が完了していない場合は、これらの登録が全て完了した日の翌日を期間の始まりとする。</p> <p>(3) 本工事において、受注者が工事着手前に発注者に対してCCUSの活用に取り組む旨を希望し、下記の評価対象項目ごとの判断基準(以下「基準」という。)を全て達成した場合、工事施行成績評価において加点評価を行うものとする。</p> <p>〈評価対象項目〉</p> <p>①事業者登録  ②管理者ID(現場管理者)登録  ③技能者の就業履歴の蓄積  ④アンケートの提出</p> <p>〈判断基準〉</p> <p>①元請企業の登録  ②当該現場の登録  ③対象期間の日数の50%以上蓄積  ④工事完成までに発注者に提出</p> <p>※既に事業者登録を終えている場合は、①の基準を満たしているものとする。</p>



- (4) 発注者は、受注者に対して(3)に掲げる基準の達成状況を記載した資料の提出を求めることにより、基準の達成状況を確認するものとする。

〈提出資料の例〉

就業履歴一覧（月別カレンダー）など

- (5) 受注者が、(3)に掲げる全ての基準を達成した場合は、工事施行成績評価基準の工事成績採点の審査項目別運用表における評価項目「5. 創意工夫－■施工関係」の「その他」欄に「CCUS活用モデル工事の基準達成」と記載して、加点评価することとする。
- (6) CCUS活用のためのカードリーダー設置費用及び現場利用料（カードタッチ費用）について、次のとおり、設計変更時に支出実績に基づき、共通仮設費として計上することとする。

この際、これらの費用は現場管理費率及び一般管理費等率の対象外とする。

#### ア カードリーダー設置費用

カードリーダーの購入等の費用について、購入又はリースを証する領収書等による支出実績と現場での使用実績を確認し、現場で使用するOSがWindowsの場合は1台あたり1万円、iOSの場合は1台あたり3万円を上限として、支出実績に基づき費用を計上する。原則として、1工事あたり2台を上限とするが、施工箇所が点在する工事の場合など入構箇所等の事情により、2台を超えるカードリーダーが設置されている場合、受発注者協議を行い、必要と認められる場合は、2台を上回る費用を計上することができるものとする。このほか、カードリーダーではなく、顔認証カメラや顔認証型のリーダーで入構管理を行う場合についても、OSがWindowsの場合は1台あたり1万円、iOSの場合は1台あたり3万円を上限として、支出実績に基づき費用を計上する。

また、カードリーダーではなく、スマートフォンや携帯電話等を活用した入退場管理サービスを使用する場合は、1工事あたり3万円を上限として、支出実績に基づき費用を計上する。

なお、ここに示す上限額は全て税抜き価格とし、カードリーダー以外の機器（パソコン、タブレット）や通信費は計上しない。

#### イ 現場利用料（カードタッチ費用）

現場における現場利用料は、受注者が提出する当該現場に係る現場利用料の明細に基づき、共通仮設費として計上することとする。

なお、現場でカードタッチを忘れた場合の事後補正については、（一財）建設業振興基金による請求に含まれる範囲に限り対象とする。

- (7) 受注者は、別に定めるアンケートを工事完成までに発注者に提出するものとする。
- (8) 本条に定めのない事項については、必要に応じて受発注者の協議により定めるものとする。

## ▷ 46. 遠隔臨場の試行工事

- (1) 当該工事は、「建築局発注営繕工事における遠隔臨場の試行工事（以下「試行工事」という。）」の対象工事である。
- 受注者における「段階確認に伴う手待ち時間の削減や確認書類の簡素化」や発注者（工事監督員）における「現場臨場の削減による効率的な時間の活用」等を目指し、モバイル端末等による映像と音声の双方向通信を使用して「材料確認」と「立会」の遠隔臨場を行うものである。
- なお、本試行工事は、「建築局発注営繕工事における遠隔臨場の試行実施要領（案）」の内容に従い実施する。

	<p>(2) 試行内容</p> <p>ア 材料確認、立会での確認</p> <p>(7) 受注者がモバイル端末等により撮影した映像と音声を工事監督員等へ同時配信を行い、双方向の通信により会話しながら確認し、必要な場合は録画する。試行内容については、受注者との協議により実施するものとする。</p> <p>(4) モバイル端末等の使用は、「材料確認」と「立会」だけではなく、現場不一致、事故などの報告時等でも活用効果が期待されることから、自発的に実施する行為を妨げるものではない。</p> <p>イ 機器の準備</p> <p>本試行工事に要するモバイル端末等の映像と音声の配信に必要な機器等は受注者が手配、設置するものとし、詳細については、工事監督員と協議し決定するものとする。</p> <p>ウ 効果の検証</p> <p>本試行工事に関するアンケート調査の協力依頼があった場合には協力するものとする。</p> <p>エ 費用</p> <p>試行にかかる費用については、共通仮設費に積上げ計上することとし、原則として最終の設計変更時に行うものとする。なお、これらの費用は現場管理費及び一般管理費等率の対象外とする。</p> <p>なお、従来の立会・確認に要する費用は、共通仮設費として率計上されているため、本試行にあたっては、従来の費用から追加が必要となる費用を計上するものとする。</p>
▶ 公園利用者向け仮設トイレ（指定仮設）	<p>下記条件により、公園利用者が利用するための仮設トイレの設置及び管理を行う。</p> <p>仕様： 簡易水洗、洋式、計6台（内最低2台は女性専用とする）</p> <p>期間： 令和6年5月1日～7月31日</p> <p>週1回の汲み取り、洗浄水給水、消臭剤補給を含む</p> <p>なお、設置日数及び補充した消臭剤の数量は概数として取扱い、概数の確定による設計変更の際に数量を確定するものとする。</p>

● 第 2 章 仮 設 工 事								
項 目	特 記 事 項							
▶ 1. 監督員事務所及び備品等	(1) 監督員事務所 ● 設ける * 設けない ( ● 10㎡ ○ 20㎡ ○ 35㎡ ○ 65㎡ ○ 100㎡ ) 程度							
▶ 2. 工事用水	(2) 備品等は工事監督員との協議による。 構内既存の施設 ○ 利用できる ( * 有償 ○ 無償 ) * 利用できない							
▶ 3. 工事用電力	構内既存の施設 ○ 利用できる ( * 有償 ○ 無償 ) * 利用できない							
▶ 4. 指定仮設	仮設計画図による。							
▶ 5. 足場	足場を設ける場合には、「「手すり先行工法に関するガイドライン」について」(厚生労働省平成21年4月策定)の「手すり先行工法に関するガイドライン」によるものとし、足場の組立、解体、変更の作業時及び使用時には、常時、すべての作業床について手すり、中さん及び幅木の機能を有するものを設置しなければならない。							
▶ 6. 交通誘導警備員	建設機械及び車両等の出入りの際には、出入口に交通誘導警備員を配置し、一般通行者及び一般車両の安全を確保すること。 なお、配置位置及び交通誘導警備員の区分は、次による。 配置位置：図面による。 警備員詰所：( ○ 設ける ● 設けない ) 表 工事現場の位置と交通誘導警備員区分 <table border="1"> <tr> <td>工事現場の出入り口を設ける道路(路線)</td> <td>交通誘導警備員区分</td> </tr> <tr> <td>市街地(DID)内の路線</td> <td rowspan="2">交通誘導警備員A</td> </tr> <tr> <td>北海道(各方面)公安委員会告示による認定路線</td> </tr> <tr> <td>上記以外の路線</td> <td>交通誘導警備員B</td> </tr> </table> <p>市街地内の路線及び認定路線の場合は、交通誘導警備業務を行う場所ごとに交通誘導警備員Aを1人以上配置する。</p> <p>交通誘導警備員Aを配置できない場合で、やむを得ず受注者自らが交通誘導を行う場合は、工事監督員と協議すること。</p>	工事現場の出入り口を設ける道路(路線)	交通誘導警備員区分	市街地(DID)内の路線	交通誘導警備員A	北海道(各方面)公安委員会告示による認定路線	上記以外の路線	交通誘導警備員B
工事現場の出入り口を設ける道路(路線)	交通誘導警備員区分							
市街地(DID)内の路線	交通誘導警備員A							
北海道(各方面)公安委員会告示による認定路線								
上記以外の路線	交通誘導警備員B							

● 第 3 章 土 工 事	
項 目	特 記 事 項
▶ 1. 埋戻し及び盛土	○ A種 * B種 ○ C種 ○ D種 (3.2.3)(表3.2.1) C種の場合(建設発生土受入量： _____ ㎡ (発生場所： _____ )
▶ 2. 建設発生土等の処理	● 場外搬出 (約 49.5 km (3.2.5) (捨て場所住所： (株)狸々谷建設 ) (管 理 者： _____ ) 捨て土均し( ○ 有り ○ 無し )
▷ 3. 山留め壁等	○ 構内敷均し ○ 構内指示の場所に堆積(図示による) ○ 工法その他： _____ (3.3.3) * 存置しない ○ 存置する ○ 山留め鋼材抜き跡の処理 * 砂充填 ○ _____

● 第 4 章 地 業 工 事			
項 目		特 記 事 項	
▷ 1. 試験杭	(1) 試験杭の位置・数量は、杭伏図等による。(4.2.2)		
	(2) 元請建設業者及び基礎杭工事の施工体制に係る全ての下請業者の主任技術者が立ち会うこと。		
	(3) 電流値の変化、根固め液の調合及び注入量、付着している土砂、支持層等の位置等について確認すること。		
	(4) 元請建設業者は、試験杭の結果を基に、本杭の施工における孔径、掘削深さ、建込み中の鉛直度、高止まり量、セメントミルク量、施工時間等の管理基準値を定めること。		
	杭の種類・断面・長さは本杭と同じとする。		
▷ 2. 工事監督員の立会い	(1) 工事監督員が立会いする杭は次による。		
	○ 試験杭		
	○ 地盤の状態等を踏まえ、発注者と受注者が協議して定める杭		
▷ 3. 杭の載荷試験	* 行わない ○ 行う (4.2.3)		
	(1) 試験の種類 (○ 鉛直載荷試験 ○ 水平載荷試験)		
	(2) 試験の方法 _____		
	(3) 試験箇所 _____		
▷ 4. 地盤の載荷試験	* 行わない ○ 行う (4.2.4)		
	(1) 試験の種類 (* 平板載荷試験)		
	(2) 試験の方法 _____		
	(3) 試験箇所 _____		
▷ 5. 既製コンクリート杭地業	(1) 本杭の位置・数量・種別・断面・長さ及び長期設計支持力は、杭伏図等による。		
	(2) 本工事に使用する杭の種類等は、次による。(4.3.3)		
	該当	種類の記号	種類
	○		区分
	○		
	○		
	○		
	(3) 施工方法		
	○ セメントミルク工法（支持地盤は図面による）(4.3.4)		
	○ 特定埋込杭工法（支持地盤は図面による）(4.3.5)		
	○ プレボーリング拡大根固工法		
	(杭周固定液 ○ 使用する ○ 使用しない)		
	○ _____		
	○ _____		
	(杭の水平方向の位置ずれは、 mm以下とする。)		
	(ずれが、 mmを超えた場合は、工事監督員の指示を受けること。)		
	○ 継手 (4.3.6)		
	○ アーク溶接		
	○ 機械式継手		
	工法： _____		
	(4) 杭頭の処理 (4.3.8)		
	○ 処理しない		
	○ 処理する		
	処理方法（切断を伴う補強方法含む）：		
	* 図示による ○ _____		

	<p>(5) 施工にあたって、次に掲げる事項について工事監督員の承諾を受けること。</p> <p>7. 施工体制</p> <p>(7) 下請業者の体制（やむを得ずアナログ式電流計を使用する場合は、必ず電流計の動作確認や記録紙の保管を行う専属の担当者を配置する。）</p> <p>(イ) トラブル時の連絡体制</p> <p>4. 施工方法</p> <p>(7) 元請建設業者の立ち会い</p> <p>(イ) 電流計データの取得方法（積分電流計）</p> <p>(ウ) 支持層等到達の判断方法</p> <p>(エ) トラブル時の対処方法</p> <p>(オ) 施工状況の報告</p> <p>(6) 施工状況の報告時期、報告内容及び報告方法は、工事監督員の指示による。</p>
▷ 6. 鋼杭地業	<p>(1) 本杭の位置・数量・種別・断面・長さ及び長期設計支持力は、杭伏図等による。</p> <p>(2) 施工方法 (4. 3. 5) (4. 4. 4)</p> <p>○ 特定埋込杭工法</p> <p>○</p> <p>(3) 杭の継手の工法 (4. 4. 3) (4. 4. 5) (7. 2. 5)</p> <p>○ アーク溶接継手</p> <p>溶接材料： * 標準仕様書7. 2. 5 (1) (2) による</p> <p>○</p> <p>○ 機械式継手</p> <p>(4) 杭頭の処理 (4. 3. 8) (4. 4. 6)</p> <p>○ 処理しない</p> <p>○ 処理する</p> <p>処理方法（切断を伴う補強方法含む）：</p> <p>* 図示による ○ _____</p>
▷ 7. 場所打ちコンクリート杭地業	<p>(1) セメントの種類 (4. 5. 4)</p> <p>* 高炉セメントB種 ○ _____</p> <p>(2) コンクリートの種別 ○ A種 ○ B種 (4. 5. 4) (表4. 5. 1)</p> <p>(3) 設計基準強度 _____ N/mm<sup>2</sup> (4. 5. 4)</p> <p>(4) 掘削工法（支持地盤は図面による） (4. 5. 5)</p> <p>○ アースドリル工法 (4. 5. 5)</p> <p>（安定液 * 使用する ○ 使用しない） (4. 5. 5)</p> <p>○ リバース工法 (4. 5. 5)</p> <p>○ オールケーシング工法 (4. 5. 5)</p> <p>（孔内の水張 * 行う ○ 行わない）</p> <p>○ _____</p> <p>(5) 孔壁測定</p> <p>○ 行う（○ 超音波測定器 ○ _____）</p> <p>○ 行わない</p>
▶ 8. 砂利地業	<p>(1) 材料 (4. 6. 2)</p> <p>● 再生クラッシャーラン ○ 切込砂利 ○ 切込碎石</p> <p>(2) 粒度 C-40程度</p> <p>(3) 砂利地業の厚さ * 60mm ● 150mm (4. 6. 3)</p>
▷ 9. 砂地業	<p>(1) 材料 (4. 6. 2)</p> <p>○ 山砂 ○ 川砂 ○ 砕砂</p> <p>(2) 砂地業の厚さ * 60mm ○ _____mm (4. 6. 3)</p>
▷ 10. 床下防湿層	<p>* 適用する（範囲は図示による） (4. 6. 5)</p>
▶ 11. 捨コンクリート地業	<p>(1) コンクリートの厚さ * 50mm ○ _____mm (4. 6. 4)</p> <p>(2) コンクリートの種別は6章14節「無筋コンクリート」に定める。</p>

第 5 章 鉄 筋 工 事		済																
項 目	特 記 事 項																	
▶ 1. 鉄筋の種類	鉄筋の規格 (5. 2. 1) * JIS G 3112規格品 ○ 建築基準法第37条の規定に基づき認定を受けたせん断補強筋 鉄筋の種類の記号 ● SD295 (D 10 ~ D 13 ) ○ SD345 (D ~ ~ ) ○ SD (D ~ ~ )																	
▷ 2. 溶接金網	網目形状及び寸法 * 100×100mm ○ (5. 2. 2) 鉄線の径 * 6mm ○																	
▶ 3. 鉄筋の継手及び定着	(1) 鉄筋の継手の方法等 (5. 3. 4) <table border="1"> <thead> <tr> <th>部位</th> <th>継手の方法</th> <th>呼び径 (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">柱及び梁主筋</td> <td>○ ガス圧接 ○ 機械式継手</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○ 溶接継手 ○ 重ね継手</td> </tr> <tr> <td>耐力壁の鉄筋</td> <td>○ 重ね継手 ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎、耐力スラブ、土圧壁</td> <td>● 重ね継手 ○ ガス圧接</td> <td>D10、D13</td> </tr> <tr> <td>上記以外 ( )</td> <td>○ 重ね継手 ○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> (2) 鉄筋の継手の位置: 構造図面による (5. 3. 4) (3) 柱及び梁の主筋並びに耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さ: (5. 3. 4) * 図示 ○ _____ (4) 鉄筋の定着の長さ: (5. 3. 4) * 図示 ○ _____		部位	継手の方法	呼び径 (mm)	柱及び梁主筋	○ ガス圧接 ○ 機械式継手		○ 溶接継手 ○ 重ね継手	耐力壁の鉄筋	○ 重ね継手 ○		基礎、耐力スラブ、土圧壁	● 重ね継手 ○ ガス圧接	D10、D13	上記以外 ( )	○ 重ね継手 ○	
部位	継手の方法	呼び径 (mm)																
柱及び梁主筋	○ ガス圧接 ○ 機械式継手																	
	○ 溶接継手 ○ 重ね継手																	
耐力壁の鉄筋	○ 重ね継手 ○																	
基礎、耐力スラブ、土圧壁	● 重ね継手 ○ ガス圧接	D10、D13																
上記以外 ( )	○ 重ね継手 ○																	
▶ 4. 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔	(1) 軽量コンクリートで土に接する部分 (5. 3. 5) ○ なし ○ 有り 適用箇所 _____ 最小かぶり厚さに加える厚さ _____ mm (2) 耐久性上不利な部分 (塩害等を受けるおそれのある部分等) ● なし ○ 有り 適用箇所 _____ (5. 3. 5) 最小かぶり厚さに加える厚さ _____ mm (3) 鉄筋相互のあき (機械式継手及び溶接継手の場合) (5. 5. 3) (5. 6. 3) * 図示 ○ _____																	
▷ 5. 機械式継手	(1) 機械式継手の種類及び工法 (5. 5. 3) ○ _____ (2) 品質の確認方法 (5. 5. 5) * 図示 ○ _____ (3) 不良となった継手の修正方法等 (5. 5. 5) * 図示 ○ _____																	
▷ 6. 溶接継手	(1) 溶接継手の工法 (5. 6. 3) ○ _____ (2) 品質の確認方法 (5. 6. 5) * 図示 ○ _____ (3) 不良となった継手の修正方法等 (5. 6. 5) * 図示 ○ _____																	
▷ 7. 既製コンクリート杭の杭頭補強	* 構造図面による。																	
▶ 8. 補強筋	(1) 壁開口部 * 構造図面による。 (2) 床開口部 * 構造図面による。 (3) 梁貫通孔 * 構造図面による ○ 建設技術評審査証明を取得したもの (4) その他 * 構造図面による。																	
▷ 9. 圧接完了後の試験	* 超音波探傷試験 ○ 引張試験 (5. 4. 10)																	

第 6 章 コンクリート工事	
済	
項 目	特 記 事 項
▶ 1. コンクリートの種類	<p>(1) コンクリートの種類 (6. 2. 1) (表6. 2. 1)</p> <p>* I 類      ○ II 類</p> <p>※ JIS認定表示工場で、かつ、(社)コンクリート工学協会から認定されたコンクリート主任技士又はコンクリート技士あるいはこれらと同等以上の技術者が常駐しており、配合設計及び品質管理等を適切に実施できる工場（全国品質管理監査会議の策定した統一監査基準に基づく監査に合格した工場等）から選定することとし、これにより難しい場合は工事監督員と協議すること。</p> <p>(2) 気乾単位容積質量による種類 (6. 2. 1)</p> <p>* 普通コンクリート      ○ 軽量コンクリート</p> <p>(3) 建築基準法第37条第二号の規定に基づき国土交通大臣の認定を受けたコンクリート (6. 2. 1)</p> <p>○ _____</p>
▶ 2. コンクリートの強度	<p>(1) 設計基準強度 <math>F_c</math> (N/mm<sup>2</sup>) の値は次のとおりとする。 (6. 2. 2)</p> <p>○ 18 N/mm<sup>2</sup>      施工部位 : _____</p> <p>● 21 N/mm<sup>2</sup>      施工部位 : ピット・基礎・土間 _____</p> <p>* 24 N/mm<sup>2</sup>      施工部位 : _____</p> <p>○ _____ N/mm<sup>2</sup>      施工部位 : _____</p> <p>(2) 調合管理強度及び調合強度 (6. 3. 2)</p> <p>* 標準仕様書6. 3. 2による</p> <p>(3) スラップ (6. 2. 4) (表6. 2. 2)</p> <p>基礎、基礎梁、土間スラブ * 15 cm      ○ 18 cm</p> <p>柱、梁、スラブ、壁 * 18 cm</p> <p>(4) 住棟部分のコンクリートの水セメント比は、50%以下とすること。</p> <p>(住宅性能評価 劣化対策等級 (構造躯体等) 等級3)</p>
▶ 3. 構造体コンクリートの仕上り	<p>(1) コンクリート表面の仕上がり状態 (6. 2. 5) (表6. 2. 4)</p> <p>○ A種      ● B種      ○ C種</p> <p>(2) コンクリートの仕上がりの平たんさ (6. 2. 5) (表6. 2. 5)</p> <p>○ a種      ● b種      ○ c種</p>
▶ 4. コンクリートの材料	<p>(1) セメント (6. 3. 1)</p> <p>7. セメント (表6. 3. 1)</p> <p>* 普通ポルトランドセメント</p> <p>○ セメント名称 _____</p> <p>4. 高炉セメントB種及びフライアッシュセメントB種の適用箇所 (6. 3. 1)</p> <p>○ _____</p> <p>(2) 骨材 (6. 3. 1)</p> <p>7. 砂利及び砂のアルカリシカ反応性区分 * A      ○ B</p> <p>4. 碎石及び砕砂のアルカリシカ反応性区分 * A      ○ B</p> <p>※ 試験機関は、公的機関又はこれに準ずる機関（大学、都道府県の試験機関、公益法人である民間試験機関、中小企業近代化促進法又は中小企業近代化資金助成法に基づく構造改善計画等によって設立された共同試験場、その他信頼に値する機関）であること。</p> <p>(3) 粗骨材の最大寸法 ● 20 mm      ○ 25 mm      ○ 40 mm</p> <p>(4) 混和剤</p> <p>7. 混和剤の種類 (6. 3. 1 (4))</p> <p>* JIS A 6204 AE 剤、AE 減水剤又は高性能 AE 減水剤</p> <p>化学混和剤の塩化物イオン量による区分 I 種</p> <p>○ その他 ( )</p>

## 5. コンクリートの調査

(1) 構造体強度補正值 (S) は次による

(6.3.2) (表6.3.2)

セメントの種類	コンクリート打込から材齢28日までの期 平均気温 $\theta$ の範囲 (°C)	
普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種 フライアッシュセメントA種	$0 \leq \theta < 8$	$8 \leq \theta$
早強ポルトランドセメント	$0 \leq \theta < 5$	$5 \leq \theta$
中庸熱ポルトランドセメント	$0 \leq \theta < 11$	$11 \leq \theta$
低熱ポルトランドセメント	$0 \leq \theta < 14$	$14 \leq \theta$
高炉セメント B種	$0 \leq \theta < 13$	$13 \leq \theta$
フライアッシュセメント B種	$0 \leq \theta < 9$	$9 \leq \theta$
普通工セメント	$0 \leq \theta < 6$	$6 \leq \theta$
構造体強度補正值 (S) (N/mm <sup>2</sup> )	6	3

目地寸法

(6.6.4)

\* 図示

○

## 6. 打継ぎ

## 7. 型枠

(1) 型枠一般

(6.8.1)

外部に面するコンクリートの打増し厚さ

\* 図示

○

ひび割れ誘発目地の位置、形状及び寸法

\* 図示

○

(2) 材料

(6.8.2)

○ 「コンクリート型枠用合板の規格」による表面加工品

● 「コンクリート型枠用合板の規格」によるB-C

厚さ \* 12mm ○ mm

○ 床型枠用鋼製デッキプレート

(6.8.2)

\* 図示

○

(建設技術評価「鉄筋コンクリート建築物等における床型枠用鋼製デッキプレートの開発」において評価取得したもの)

○ 断熱材兼用型枠材

○ 材種

厚さ mm

施工箇所:

○ ハーフPC床版 施工箇所: \* 図示

○ MCR工法用シート

\* 合成樹脂気泡性緩衝シート

○

○ その他 ( )

施工箇所: \* 図示

○

(3) スリーブの材料

\* 材種及び規格は次による

(表6.8.1)

材種	規格等	
鋼管	JIS G 3452 (配管用炭素鋼鋼管) の白管	
硬質ポリ塩化ビニル管	JIS K 6741 (硬質ポリ塩化ビニル管) のVU	
溶融亜鉛めっき鋼板	径200mm以下	厚 0.4mm以上
	径200mmを超え350mm以下	厚 0.6mm以上
つば付鋼管	JIS G 3452の黒管に厚さ6mm以上、つば幅50mm以上の鋼板を溶接したもの	
紙チューブ	※条件は標準仕様書6.8.2による	





項 目	特 記 事 項																																																														
▷ 1. アスファルト防水	<p>屋根保護防水 (9. 2. 2) (9. 2. 3) (表9. 2. 3～表9. 2. 6)</p> <p>(1) 防水層の種別</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th><th>施工箇所</th><th>断熱材</th><th>絶縁用シート</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ A-1</td><td></td><td rowspan="5" style="text-align: center;">/</td><td rowspan="5">* ポリエチレンフィルム厚さ 0. 15mm以上又はフ ラットヤーンクロス70g/m<sup>2</sup> 程度</td></tr> <tr><td>○ A-2</td><td></td></tr> <tr><td>○ A-3</td><td></td></tr> <tr><td>○ B-1</td><td></td></tr> <tr><td>○ B-2</td><td></td></tr> <tr> <td>○ AI-1</td><td></td><td>(厚さ)</td><td rowspan="6">* フラットヤーンクロス70g/m<sup>2</sup> 程度</td></tr> <tr> <td>○ AI-2</td><td></td><td>○ mm</td></tr> <tr> <td>○ AI-3</td><td></td><td>○ mm</td></tr> <tr> <td>○ BI-1</td><td></td><td>○ mm</td></tr> <tr> <td>○ BI-2</td><td></td><td>○ mm</td></tr> <tr> <td>○ BI-2</td><td></td><td>○ mm</td></tr> </tbody> </table> <p>(2) 改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ (9. 2. 2)</p> <p>標準仕様書表9. 2. 3及び表9. 2. 4による</p> <p>JIS A 6013 に基づく種類及び厚さ</p> <p>用途による区分 ○ _____</p> <p>材料構成による区分 ○ R種 ○ N種</p> <p>厚さ ○ mm以上</p> <p>(3) 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ</p> <p>標準仕様書表9. 2. 5及び表9. 2. 6による (9. 2. 2)</p> <p>JIS A 6013 に基づく種類及び厚さ</p> <p>用途による区分 ○ _____</p> <p>材料構成による区分 ○ R種 ○ N種</p> <p>厚さ ○ mm以上</p> <p>(4) 押え金物の材質及び形状寸法 (9. 2. 2)</p> <p>* アルミニウム製L-30×15×2. 0mm程度</p> <p>○ _____</p> <p>(5) 立上り部への断熱材及び絶縁用シートの設置</p> <p>○ 適用する ○ 適用しない</p> <p>屋根露出防水 (9. 2. 2) (9. 2. 3) (表9. 2. 3～表9. 2. 6)</p> <p>(1) 防水層の種別</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th><th rowspan="2">施工箇所</th><th rowspan="2">断熱材</th><th colspan="2">仕上塗材</th></tr> <tr> <th>種類</th><th>使用量</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ D-1</td><td></td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3">○</td><td rowspan="3">* 製造所の 仕様によ る</td></tr> <tr><td>○ D-2</td><td></td></tr> <tr><td>○ D-3</td><td></td></tr> <tr> <td>○ D-4</td><td></td><td>○ (種類)</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3">○</td></tr> <tr> <td>○ DI-1</td><td></td><td>○ mm</td></tr> <tr> <td>○ DI-2</td><td></td><td>○ mm</td></tr> </tbody> </table> <p>(2) 改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ (9. 2. 2)</p> <p>標準仕様書表9. 2. 8による</p> <p>JIS A 6013 に基づく種類及び厚さ</p> <p>用途による区分 ○ _____</p> <p>材料構成による区分 ○ R種 ○ N種</p> <p>厚さ ○ mm以上</p>	種別	施工箇所	断熱材	絶縁用シート	○ A-1		/	* ポリエチレンフィルム厚さ 0. 15mm以上又はフ ラットヤーンクロス70g/m <sup>2</sup> 程度	○ A-2		○ A-3		○ B-1		○ B-2		○ AI-1		(厚さ)	* フラットヤーンクロス70g/m <sup>2</sup> 程度	○ AI-2		○ mm	○ AI-3		○ mm	○ BI-1		○ mm	○ BI-2		○ mm	○ BI-2		○ mm	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗材		種類	使用量	○ D-1			○	* 製造所の 仕様によ る	○ D-2		○ D-3		○ D-4		○ (種類)		○	○ DI-1		○ mm	○ DI-2		○ mm
種別	施工箇所	断熱材	絶縁用シート																																																												
○ A-1		/	* ポリエチレンフィルム厚さ 0. 15mm以上又はフ ラットヤーンクロス70g/m <sup>2</sup> 程度																																																												
○ A-2																																																															
○ A-3																																																															
○ B-1																																																															
○ B-2																																																															
○ AI-1		(厚さ)	* フラットヤーンクロス70g/m <sup>2</sup> 程度																																																												
○ AI-2		○ mm																																																													
○ AI-3		○ mm																																																													
○ BI-1		○ mm																																																													
○ BI-2		○ mm																																																													
○ BI-2		○ mm																																																													
種別	施工箇所	断熱材	仕上塗材																																																												
			種類	使用量																																																											
○ D-1			○	* 製造所の 仕様によ る																																																											
○ D-2																																																															
○ D-3																																																															
○ D-4		○ (種類)		○																																																											
○ DI-1		○ mm																																																													
○ DI-2		○ mm																																																													

(3) 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ  
標準仕様書表9.2.7及び表9.2.8による (9.2.2)

JIS A 6013 に基づく種類及び厚さ

用途による区分 ○ \_\_\_\_\_  
材料構成による区分 ○ R種 ○ N種  
厚さ ○ \_\_\_\_\_mm以上

(4) 押え金物の材質及び形状寸法 (9.2.2)

\* アルミニウム製L-30×15×2.0mm程度

○ \_\_\_\_\_

(5) 絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び装置数量 (9.2.3)

種類 \* アスファルトルーフィング類の製造所の指定

○ \_\_\_\_\_

設置数量 \* アスファルトルーフィング類の製造所の指定

○ \_\_\_\_\_個

屋内防水 (9.2.2) (9.2.3) (表9.2.9)

(1) 防水層の種別

種別	施工箇所	種別	施工箇所
○ E-1		○ E-2	

(2) 保護層 (9.2.3)

○ 設ける ( ○ 図示 ○ \_\_\_\_\_ )

○ 設けない

(3) E-1の工程3を行う場合の部位 (表9.2.9)

\* 貯水槽、浴槽等の常時水に接する部位

○ \_\_\_\_\_

施工 (9.2.4)

(1) 防水層の下地のモルタル塗り (9.2.4)

○ 適用する ( 施工範囲 ○ 図示 ○ \_\_\_\_\_ )

○ 適用しない

(2) 防水層の下地、立上りコンクリート打放し仕上げ

\* 標準仕様書表6.2.4のB種

○ \_\_\_\_\_

(3) 屋根露出防水絶縁断熱工法

ルーフトレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置

\* 図示

○ \_\_\_\_\_

(4) 保護層等の施工 (9.2.5)

屋上排水溝の設置

○ 設ける (図示) ○ 設けない

▷ 2. 改質アスファルト  
シート防水

(1) 防水層の種別 (9.3.2) (9.3.3) (表9.3.1～表9.3.3)

種別	施工箇所	断熱材	仕上塗材		
			種類	種類	使用量
○ AS-T1				○	製造所 * の仕様 による
○ AS-T2					
○ AS-T3					
○ AS-T4					
○ AS-J1		○ (種類)	○ 設ける		○
○ ASI-T1		○ mm	○ 設けない		
○ ASI-J1		○ mm			

(2) 改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ (9.3.2)

\* 標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による

○ \_\_\_\_\_

3. 合成高分子系  
ルーフィング  
シート防水

(3) 粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ (9. 3. 2)

\* 標準仕様書表9. 3. 2から表9. 3. 3による

○

(4) 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ (9. 3. 2)

\* 標準仕様書表9. 3. 2から表9. 3. 3による

○

(5) 押え金物の材質及び形状寸法 (9. 3. 2)

\* アルミニウム製L-30×15×2. 0mm程度

○

(6) 屋根露出防水絶縁工法、屋根露出防水絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び装置数量 (9. 2. 3)

種類 \* 改質アスファルトシートの製造所の指定

○

設置数量 \* 改質アスファルトシートの製造所の指定

○ 個

(1) 防水層の種類 (9. 4. 2～9. 4. 4) (表9. 4. 1) (表9. 4. 2)

種別	施工箇所	可塑剤移行防止シートの材質	断熱材	歩行の仕様	仕上げ塗装	
					種類	使用量
○ S-F1				* 非歩行用 ○ 軽歩行用	○	* 製造所の仕様による
○ S-F2				○ 非歩行用 ○ 軽歩行用		
○ S-M1				* 非歩行用 ○ 軽歩行用	○	* 製造所の仕様による
○ S-M2				○ 非歩行用 ○ 軽歩行用		
○ SI-F1			(種類) ○ (厚さ) ○ mm		○	* 製造所の仕様による
○ SI-F2						
○ SI-M1			(種類) ○ (厚さ) ○ mm		○	* 製造所の仕様による
○ SI-M2		○ 発泡ポリエレンシート ○	○ mm			

(2) 屋内防水層の種類 (9. 4. 2～9. 4. 4) (表9. 4. 3)

種別	施工箇所	保護層		
		平場のモルタル塗り		立上り部の保護
		塗厚 (mm)	工法	モルタル塗り厚さ
○ S-C1	○	○	○ 床塗り ○ 下地モルタル塗り	* 7mm以下 ○

(3) ルーフィングシートの種類及び厚さ (9. 4. 2)

\* 標準仕様書表9. 4. 1から表9. 4. 3による

○

▷ 4. 塗膜防水

- (4) 固定金具の材質及び形状 (9. 4. 2)
- 材質 \* 防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面又は両面に樹脂を積層加工したもの  
○ \_\_\_\_\_
- 表面仕上 \*
- 寸法形状 \* 厚さ0. 4mm以上  
○ \_\_\_\_\_
- (5) 接着工法の場合の脱気装置の種類及び装置数量 (9. 4. 3)
- 種類 \* ルーフィングシートの製造所の仕様  
○ \_\_\_\_\_
- 設置数量 \* ルーフィングシートの製造所の仕様  
○ \_\_\_\_\_ 個
- (6) 断熱工法 (SI-M1、SI-M2の場合) の防湿用フィルム (表9. 4. 2)
- 設置する ○ 設置しない
- (7) 接着工法の場合のPCコンクリート部材防水下地の目地処理 (9. 4. 4)
- 行う ( ○ 図示 ○ \_\_\_\_\_ ) ○ 行わない
- (8) PCコンクリート下地の入隅部の増張り (S-F1、SI-F1の場合) (9. 4. 4)
- 行う ( ○ 図示 ○ \_\_\_\_\_ ) ○ 行わない
- (9) 機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け (9. 4. 4)
- 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法  
\* 図示

(1) 防水層の種類 (9. 5. 3) (表9. 5. 1) (表9. 5. 2)

種別	施工箇所	仕上塗材		保護層
		種類	使用量	
○ X-1		○	* 製造所の仕様による ○	
○ X-2		○	* 製造所の仕様による ○	
○ Y-1	○ 地下街壁防水 ○			
○ Y-2	○ 屋内防水 ○			○ ○

- (2) ウレタンゴム系塗膜防水X-1 (絶縁工法) の脱気装置の種類及び装置数量 (9. 5. 3)
- 種類 \* 主材料の製造所の仕様  
○ \_\_\_\_\_
- 設置数量 \* 主材料の製造所の仕様  
○ \_\_\_\_\_ 個

▷ 5. ケイ酸質系塗布防水

- (1) 防水層の下地 (壁及び天井) (9. 6. 4)
- \* コンクリート打放し仕上げ (標準仕様書 表6. 2. 4のB種)  
○ \_\_\_\_\_
- (2) 下地処理 (9. 6. 4)
- コンクリートの打継箇所の処理  
\* 標準仕様書 9. 6. 4 (2) (ア) による  
標準仕様書 9. 6. 4 (2) (イ) 及び (ウ) 以外の下地処理  
○ 図示

▶ 6. シーリング	(1) 材料 (9. 7. 2) 種類及び施工箇所 下表以外は、標準仕様書 表9. 7. 1による ただし、外壁タイル接着剤張り目地の場合のシーリングは11章に、カーテンウォール目地の場合のシーリングは17章による <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <th style="width: 50%;">施工箇所</th> <th style="width: 50%;">シーリング材の種類（記号）</th> </tr> <tr> <td>外部羽目板張り際（外壁）</td> <td>MS-2</td> </tr> <tr> <td>外部羽目板張り際（軒天）</td> <td>MS-2</td> </tr> <tr> <td>内部羽目板張り際（天井）</td> <td>MS-2</td> </tr> </table> 仕上げを行わない施工箇所 ( ) (2) シーリング材の目地寸法 (9. 7. 3) * 標準仕様書 9. 7. 3(1)による ○ _____ (3) 接着性試験 (9. 7. 5) * 簡易接着性試験 ○ 引張接着性試験 ○ _____ 種類 : 亀裂自閉性樹脂塗膜防水 PTX-B2同等 施工箇所 : 基礎外周部 種類 : _____ 施工箇所 : _____	施工箇所	シーリング材の種類（記号）	外部羽目板張り際（外壁）	MS-2	外部羽目板張り際（軒天）	MS-2	内部羽目板張り際（天井）	MS-2
施工箇所	シーリング材の種類（記号）								
外部羽目板張り際（外壁）	MS-2								
外部羽目板張り際（軒天）	MS-2								
内部羽目板張り際（天井）	MS-2								
▶ 7. その他の防水	(1) 防水工事の保証期間 * 10年 ○ _____ 年								
▶ 8. 保証									

●	<b>第 1 1 章</b>	<b>タイル工事</b>
---	----------------	--------------

項 目	特 記 事 項
▶ 1. 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 ▶ 2. 見本焼、試験施工 ▶ 3. セメントモルタルによるタイル張り	(1) 位置 * 標準仕様書 表11. 1. 1による (11. 1. 3) ○ 図示 (1) 見本焼き ○ 行う ○ 行わない (11. 1. 4) (2) 試験張り ○ 行う ○ 行わない (1) タイルの形状、寸法等 (11. 2. 2)

施行箇所	種類	形状寸法 (mm)	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色		耐凍害性		耐滑り性
			I 類	II 類	III 類	施ゆう	無ゆう	有	無	標準	特注	有	無	
アプローチ	磁器質	100 × 100	●	○	○	●	●	○	●	●	○	●	○	●
男子トイレ	磁器質	100 × 100	●	○	○	○	●	○	●	●	○	●	○	●
女子トイレ	磁器質	100 × 100	●	○	○	○	●	○	●	●	○	●	○	●
バリアフリートイレ	磁器質	100 × 100	●	○	○	○	●	○	●	●	○	●	○	●

- (2) 既調合モルタル (11. 2. 3)  
 ● 既調合モルタルの製造所の仕様による  
 ○
- (3) 下地モルタル塗りのコンクリート素地面の下地処理方法 (11. 2. 6)  
 ● 目荒し方法（標準仕様書15. 3. 4(4)による）  
 ○ MCR工法（標準仕様書6. 8による）  
 ○



## (3) 製材

(12. 2. 1) (表12. 2. 2)

## 7. JAS 1083 (製材) に基づく製材

## (7) 下地用製材 (JAS 1085-5)

施工箇所	寸法	等級	含水率	保存処理
屋根下地	45×60	* 2級 ○	20%以下	
天井下地	45×45	* 2級 ○	20%以下	
外壁下地	18×45	* 2級 ○	20%以下	

## (4) 造作用製材 (JAS 1083-2)

施工箇所	寸法	等級	含水率	保存処理
外壁	18×98	● 上小節 ○ 小節以上	15%以下	
外部天井	18×98	● 上小節 ○ 小節以上	15%以下	
内部天井	12×98	● 上小節 ○ 小節以上	15%以下	
天井ルーバー	30×120	● 上小節 ○ 小節以上	15%以下	

## (ウ) 広葉樹製材 (JAS 1083-6)

施工箇所	寸法	等級	含水率	保存処理
		* 1等 ○	10%以下	
		* 1等 ○	10%以下	
		* 1等 ○	10%以下	

## 4. JAS 1083以外による製材

施工箇所	寸法	材面の品質	防虫処理	含水率
			○ 適用する ○ 適用しない	
			○ 適用する ○ 適用しない	
			○ 適用する ○ 適用しない	

造作材の材面の品質： \* A種 ○ B種 (表12. 2. 2)

代用樹種を使用できない箇所：

ウ. 針葉樹製材は、JAS 乾燥認定工場から出荷された木材は、出荷証明書を、その他の工場から出荷された木材は、北海道林産物検査会が発行する検査証明書を提出すること。

エ. カラマツの使用範囲は、原則として束・母屋・土台・大引きとする。

オ. 表面処理用防腐剤は工事監督員の承諾するものとする。

## (4) 造作用集成材等 (12. 2. 1)

## 7. 「集成材の日本農林規格」による造作用集成材等

## (7) 造作用集成材

施工箇所	品名	樹種	寸法 (mm)	見付材 け面	見付材面の品質
					* 1等 ○ 2等
					* 1等 ○ 2等
					* 1等 ○ 2等

## (4) 化粧ばり造作用集成材

施工箇所	品名	樹種	寸法 (mm)	化粧薄板 の厚さ (mm)	見付材 け面	見付材面の品質
		化粧薄板：				* 1等 ○ 2等
		芯材：				* 1等 ○ 2等
		化粧薄板：				* 1等 ○ 2等
		芯材：				* 1等 ○ 2等
		化粧薄板：				* 1等 ○ 2等
		芯材：				* 1等 ○ 2等



(5) 「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材等

7. 造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	見付け材面の品質	含水率
				* 15%以下 ○
				* 15%以下 ○
				* 15%以下 ○

4. 化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ (mm)	見付け材面の品質	含水率
	化粧薄板： 芯材：				* 15%以下 ○
	化粧薄板： 芯材：				* 15%以下 ○

(6) 造作用単板積層材

(12. 2. 1)

7. JAS 0701による造作用単板積層材

(7) 造作用単板積層材

施工箇所	品名	寸法	表面の品質	防虫処理
			○ 有り ( 加工： ○ 天然木化粧加工 ) ○ 塗装加工 ○ 無し (等級： )	○ 適用する ○ 適用しない
			○ 有り ( 加工： ○ 天然木化粧加工 ) ○ 塗装加工 ○ 無し (等級： )	○ 適用する ○ 適用しない

4. JAS 0701以外の造作用単板積層材

(12. 2. 1)

(7) 造作用単板積層材

施工箇所	寸法	表面の品質	含水率	防虫処理
		○ 有り ( 加工： ○ 天然木化粧加工 ) ○ 塗装加工 ○ 無し ( )	* 14%以下 ○	○ 適用する ○ 適用しない
		○ 有り ( 加工： ○ 天然木化粧加工 ) ○ 塗装加工 ○ 無し ( )	* 14%以下 ○	○ 適用する ○ 適用しない

(7) 直交集成板 (JAS 3079)

(12. 2. 1)

品名	強度等級	種別	接着性能	樹種	寸法

(8) 合板等

7. 下地用合板

(12. 2. 1)

(7) 「合板の日本農林規格」の普通合板

施工箇所	品名	厚さ (mm)	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理
		* 5.5 ○		* 1類 ○ 2類	広葉樹 * 2等 ○ 1等 針葉樹 * C-D ○	○ 適用する ○ 適用しない
		* 5.5 ○		* 1類 ○ 2類	広葉樹 * 2等 ○ 1等 針葉樹 * C-D ○	○ 適用する ○ 適用しない

イ. 構造用合板 (12. 2. 1)

(7) 「合板の日本農林規格」の構造用合板・化粧ばり構造用合板

施工箇所	品名	厚さ (mm)	接着の 程度	等級	板面の 品質	単板の樹 種名	保存 処理	防虫処理	強度等級
屋根 野地板	構造用 合板	* 12 ● 18	* 1類 ○ 2類 * ※特類	* 2級 ○ 1級	* C-D ○	針葉樹		○ 適用する ( ) ● 適用しない	○ 適用する ( ) ● 適用しない
			* 1類 ○ 2類 * ※特類	* 2級 ○ 1級	* C-D ○			○ 適用する ( ) ○ 適用しない	○ 適用する ( ) ○ 適用しない

※常時湿潤状態となる場所の接着の程度は特類とする

(イ) 天然木化粧合板 (12. 2. 1)

施工箇所	厚さ (mm)	接着の程度	単板の樹種名	防虫処理	防虫処理
	* ○	* 1類 ○ 2類			

(ウ) 特殊加工化粧合板 (12. 2. 1)

施工箇所	品目	厚さ (mm)	接着の 程度	単板の 樹種名	化粧加工の方法	防虫処理
		* 5.5 ○	* 1類 ○ 2類		○ オーバーレイ ○ プリント ○ 塗装等	
		* 5.5 ○	* 1類 ○ 2類			

ウ. パーティクルボード (JIS A 5908) (12. 2. 1)

施工箇所	表裏面の状態 による区分	曲げ強さに よる区分	耐水性による 区分	難燃性に よる区分	厚さ (mm)
外壁 外周部	RS(研磨板)	* 13タイプ ● S18タイプ	○ MR1(M) ● MR2(P)		* 15 ● 9

エ. ミディアムデンシティファイバーボード (MDF) (JIS A 5905)

施工箇所	表裏面の状態 による区分	曲げ強さに よる区分	接着剤に よる区分	難燃性に よる区分	厚さ (mm)
		○ 13タイプ ○ 15タイプ ○ 25タイプ ○ 30タイプ	○ P ○ M ○ U		* 15  ○

オ. JAS 0360の構造用パネル (12. 2. 1)

施工箇所	品名	厚さ (mm)

2. 接合具等

(1) 釘等 (12. 2. 2)

\* 隠し釘打ち ○ \_\_\_\_\_

(2) 諸金物 (12. 2. 2)

諸金物の形状・寸法・材質

\* 表12. 2. 3～12. 2. 5による

コンクリート埋込部を除き表14. 2. 2のF種程度

○ \_\_\_\_\_

(3) 接合具等の接着剤： (12. 2. 2)

ホルムアルデヒド放散量： \* F☆☆☆☆ ○ \_\_\_\_\_

(4) 木れんがの接着工法に使用する接着剤： (12. 2. 3)

ホルムアルデヒド放散量： \* F☆☆☆☆ ○ \_\_\_\_\_

▶ 3. 防腐・防蟻・防虫処理	(1) 防腐・防蟻処理 (12. 3. 1)															
	7. 防腐・防蟻処理が不要な樹種による製材 適用部位 ( )															
	4. 工場における薬剤の加圧注入処理等 (12. 3. 1)															
	<table border="1"> <tr> <th>適用部位</th> <th colspan="4">保存処理性能区分</th> </tr> <tr> <td>土台</td> <td>○ K 2</td> <td>● K 3</td> <td>○ K 4</td> <td>○ インサインク*</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ K 2</td> <td>○ K 3</td> <td>○ K 4</td> <td>○ インサインク*</td> </tr> </table>	適用部位	保存処理性能区分				土台	○ K 2	● K 3	○ K 4	○ インサインク*		○ K 2	○ K 3	○ K 4	○ インサインク*
	適用部位	保存処理性能区分														
	土台	○ K 2	● K 3	○ K 4	○ インサインク*											
		○ K 2	○ K 3	○ K 4	○ インサインク*											
7. 薬剤の塗布等 (12. 3. 1)																
<table border="1"> <tr> <th>適用部位</th> <th>処理の方法</th> </tr> <tr> <td>外周部</td> <td>* 薬剤の製造所の仕様による ● GL+1.0mまで</td> </tr> </table>	適用部位	処理の方法	外周部	* 薬剤の製造所の仕様による ● GL+1.0mまで												
適用部位	処理の方法															
外周部	* 薬剤の製造所の仕様による ● GL+1.0mまで															
1. ボード原料接着剤への薬剤混入による防腐・防蟻処理 適用部位 ( )																
8. 合板等の加圧注入による防腐・防蟻処理 ○ 使用する (K 3の防虫処理) ○ 使用しない																
▶ 4. 鉄筋コンクリート造等の内部間仕切り軸組及び床組	(2) 防虫処理 (12. 3. 2)															
	ラワン材等 ○ 使用する (K 1の防虫処理) ○ 使用しない															
	(1) 間仕切り軸組に用いる木材 (12. 4. 1)															
	* 杉又は松 ○															
	(2) 床組に用いる木材															
	* 杉又は松 ○															
	土間スラブ類の場合の土台転ばし大引及び転ばし根太 * ひのき又は3節による保存処理木材 ○															
▶ 5. 窓、出入り口その他	(1) 窓、出入り口その他に用いる木材															
	* 吊元枠、水掛かりの下枠及び敷居：ひのき その他：松又は杉															
▶ 6. 床板張り	(1) 縁甲板及び上がりがまちに用いる木材 * ひのき ○															
▶ 7. 壁及び天井下地	(1) 木材 * 杉又は松 ○															

● 第13章 屋根工事及びとい工事		済																	
項 目	特 記 事 項																		
▶ 1. 長尺金属板葺	(1) 材料 (13. 2. 2) (13. 2. 3) (表13. 2. 1)																		
	<table border="1"> <tr> <th>施行箇所</th> <th>板及びコイルの種類</th> <th>塗膜の耐久性の種類、めっき付着量等</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>屋根葺形式</th> <th>葺板の寸法・厚さ</th> <th>下地</th> <th>留め付け方法</th> </tr> <tr> <td>屋根</td> <td>JIS G 3322の * 屋根用コイル  ○</td> <td>0.054</td> <td>0.3</td> <td>● 立て平葺 ○ 心木なし瓦棒葺 ○ 横葺 ○</td> <td>働き幅 455mm</td> <td>野地板</td> <td>蟻掛け</td> </tr> </table>	施行箇所	板及びコイルの種類	塗膜の耐久性の種類、めっき付着量等	厚さ (mm)	屋根葺形式	葺板の寸法・厚さ	下地	留め付け方法	屋根	JIS G 3322の * 屋根用コイル  ○	0.054	0.3	● 立て平葺 ○ 心木なし瓦棒葺 ○ 横葺 ○	働き幅 455mm	野地板	蟻掛け		
施行箇所	板及びコイルの種類	塗膜の耐久性の種類、めっき付着量等	厚さ (mm)	屋根葺形式	葺板の寸法・厚さ	下地	留め付け方法												
屋根	JIS G 3322の * 屋根用コイル  ○	0.054	0.3	● 立て平葺 ○ 心木なし瓦棒葺 ○ 横葺 ○	働き幅 455mm	野地板	蟻掛け												
	(2) 下葺材料 ● アスファルトルーフィング940 ○ 改質アスファルトルーフィング下葺材 ○ 一般タイプ ○ 複層基材タイプ ○ 粘着層付タイプ																		

▷ 2. 折板葺	(3) 工法 (13. 2. 3) 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">済</span> ● 図示 ○ 横葺の場合のけらば納め ● つかみ込み納め ○ けらば包み納め 雪止め ○ 設置する ( ○ 図示 ○ )																									
	(1) 材料 (13. 3. 2) (表13. 2. 1) <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">施行箇所</th> <th rowspan="2">形式</th> <th colspan="2">山高・山ピッチによる区分</th> <th rowspan="2">耐力による区分</th> <th rowspan="2">材料による区分</th> <th rowspan="2">厚さ(mm)</th> <th rowspan="2">軒先面戸板</th> </tr> <tr> <th>山高</th> <th>山ピッチ</th> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>( ) 種</td> <td>* 鋼板製 ○</td> <td></td> <td>○ 有 ○ 無</td> </tr> </table> (2) 材質の種類 ( ) (3) 塗膜の耐久性の種類、めっき付着量等 ( ) (4) 断熱材 ○ 有り ( 種別 : 厚さ(mm) : 防火性能 : 時間) ○ 無し (5) 工法 (13. 3. 3) 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ○ 図示 ○ 耐雪性能に応じた工法 ○ 適用する ( ○ 図示 ○ ) ○ 適用しない (6) 折板のけらば納め * けらば包みによる方法 ○	施行箇所	形式	山高・山ピッチによる区分		耐力による区分	材料による区分	厚さ(mm)	軒先面戸板	山高	山ピッチ		○			( ) 種	* 鋼板製 ○		○ 有 ○ 無							
施行箇所	形式			山高・山ピッチによる区分						耐力による区分	材料による区分	厚さ(mm)	軒先面戸板													
		山高	山ピッチ																							
	○			( ) 種	* 鋼板製 ○		○ 有 ○ 無																			
▷ 3. とい	(1) 材料 (13. 5. 2) (表13. 5. 1) といの種類 ○ 配管用鋼管 ○ 硬質ポリ塩化ビニル管 ○ ○ 表面処理鋼板 ○ 表面及び裏面の塗膜の種類 ( ) ○ 耐酸被膜鋼板 ○ といの受金物 といの受金物の材類、形状、取付け間隔 * 標準仕様書 表13. 5. 2による ○ 足金物の材類、形状、取付け間隔 * 標準仕様書 表13. 5. 2による ○ ○ 多雪地域の場合の軒といの取付間隔0. 5m以下 ○ 図示 防露材のホルムアルデヒド放散量 * F☆☆☆☆ ○ (2) 工法 (13. 5. 3) ○ 鋼管製といの場合の防露巻きの工法 ○ 標準仕様書 13. 5. 4による ○ JCW 301 によるルーフドレインの種類及び呼び (13. 5. 2)																									
	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">種類</th> <th>呼び</th> <th>施行箇所</th> </tr> <tr> <td>○ ろく屋根用たて形Ⅰ型</td> <td>ねじ込み式</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ ろく屋根用横形Ⅰ型</td> <td>ねじ込み式</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ パルコニー中継用</td> <td>○ ねじ込み式</td> <td rowspan="2">○</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○ 差し込み式</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ パルコニー用</td> <td>○ ねじ込み式</td> <td rowspan="2">○</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○ 差し込み式</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table>	種類		呼び	施行箇所	○ ろく屋根用たて形Ⅰ型	ねじ込み式	○		○ ろく屋根用横形Ⅰ型	ねじ込み式	○		○ パルコニー中継用	○ ねじ込み式	○		○ 差し込み式	○ パルコニー用	○ ねじ込み式	○		○ 差し込み式	○		○
種類		呼び	施行箇所																							
○ ろく屋根用たて形Ⅰ型	ねじ込み式	○																								
○ ろく屋根用横形Ⅰ型	ねじ込み式	○																								
○ パルコニー中継用	○ ねじ込み式	○																								
	○ 差し込み式																									
○ パルコニー用	○ ねじ込み式	○																								
	○ 差し込み式																									
○		○																								
▷ 4. ルーフドレイン																										

● 第14章 金属工事																																						
項 目	特 記 事 項																																					
▷ 1. アルミニウム及び アルミニウム合金の 表面処理	(1) 表面処理 (14. 2. 1) (表14. 2. 1) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>施行箇所 (成型板、笠木、建具以外)</th> <th>色合い等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>○ AB-1種</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○ AB-2種</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○ AC-1種</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○ AC-2種</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○ BA-1種</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○ BA-2種</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○ BB-1種</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○ BB-2種</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○ BC-1種</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○ BC-2種</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○ C種</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> ○ 常温乾燥形の塗装の場合 ( ) (2) 陽極酸化皮膜による着色方法 * 二次電解着色 ○ 三次電解着色		種別	施行箇所 (成型板、笠木、建具以外)	色合い等	○ AB-1種			○ AB-2種			○ AC-1種			○ AC-2種			○ BA-1種			○ BA-2種			○ BB-1種			○ BB-2種			○ BC-1種			○ BC-2種			○ C種		
種別	施行箇所 (成型板、笠木、建具以外)	色合い等																																				
○ AB-1種																																						
○ AB-2種																																						
○ AC-1種																																						
○ AC-2種																																						
○ BA-1種																																						
○ BA-2種																																						
○ BB-1種																																						
○ BB-2種																																						
○ BC-1種																																						
○ BC-2種																																						
○ C種																																						
▷ 2. 鉄鋼の亜鉛めっき	(1) 鉄鋼の亜鉛めっき (14. 2. 2) (表14. 2. 2) <table border="1"> <thead> <tr> <th>表面処理方法</th> <th>種別</th> <th>施行箇所 (手すり、タラップ以外)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">溶融亜鉛めっき</td> <td>○ A種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ B種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ C種</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">電気亜鉛めっき</td> <td>○ D種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ E種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ F種</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		表面処理方法	種別	施行箇所 (手すり、タラップ以外)	溶融亜鉛めっき	○ A種		○ B種		○ C種		電気亜鉛めっき	○ D種		○ E種		○ F種																				
表面処理方法	種別	施行箇所 (手すり、タラップ以外)																																				
溶融亜鉛めっき	○ A種																																					
	○ B種																																					
	○ C種																																					
電気亜鉛めっき	○ D種																																					
	○ E種																																					
	○ F種																																					
▷ 3. 軽量鉄骨天井下地	(1) 野縁等の種類 (14. 4. 2) (表14. 4. 1) 屋外 * 25型 ○ 19型 屋内 * 19型 ○ 25型 ○ 屋外の場合の形式及び寸法 (14. 4. 3) 野縁受、つりボルト、インサートの間隔及び周辺部端からの距離 ○ 図示 ○ _____  野縁の間隔 ○ 図示 ○ _____ 断熱インサート 床及び壁等で内部断熱を施した面の、内面アンカーに使用 (2) 工法 (14. 4. 4) ○ つりボルトの間隔が900mmを超える場合 補強方法 ○ 図示 ○ _____ ○ 天井のふところが3.0mを超える場合 補強方法 ○ 図示 ○ _____ ○ 天井下地材における耐震性を考慮した補強 補強箇所、補強方法 ○ 図示 ○ _____ ○ 屋外の軒、ピロティ等の天井における耐風圧性を考慮した補強 補強箇所、補強方法 ○ 図示 ○ _____																																					
▷ 4. 軽量鉄骨壁下地	(1) スタッド、ランナ等の種類 (14. 5. 3) * 標準仕様書 表14. 5. 1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類 ○ 図示 (2) スタッドの高さが5.0mを超える場合 ○ 図示 ○ _____ (3) 出入口及びこれらに準ずる開口部の補強 (14. 5. 4) * 標準仕様書 14. 5. 4(5)による ○ 図示																																					

<div>▶ 5. 金属成形板張り</div> <div>▶ 6. アルミニウム製笠木</div>	<div> (1) 種別                   ● 図示   ○ _____ (14. 6. 2)  (2) 表面処理           ● 図示   ○ _____  (3) 取付け用下地  * 標準仕様書 14. 4による       ● 図示  (4) 伸縮調整継手 (14. 6. 3)  ○ 設ける (施行箇所   ○ 図示   ○ _____)  ● 設けない  (1) 部材の種類 (14. 7. 2) (表14. 7. 1)  ○ 250形       ○ 300形       ○ 350形       ○ _____  (2) 表面処理 種別 (                   ) 種 (14. 7. 2) (表14. 2. 1)  色合等       ○ 標準色 (                   )  ○ 特注色 (                   )  (3) 笠木の固定金具の工法等  建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法  ○ 図示   ○ </div>
<div>● 第15章 左官工事</div>	
<div>▶ 1. ラス系下地</div>	<div> (1) 下地の種類 (15. 2. 4)  ○ 通気構法 (   ○ 二層下地       ○ 単層下地       )  ○ 直張り工法  (   ○ ラスモルタル下地       ○ ラスシートモルタル下地   )  ○ 図示 (   外張断熱工法で断熱材の外側に胴縁を施工する形式の通気構法を行う場合)  (2) 材料 (15. 2. 4)  ラス材及び補強用平ラス  材料記号 (   * K   ○ _____)  種類及び単位面積当たりの質量  ○ 二層下地通気構法  ○ 波形ラス (W700)   ○ こぶラス (K800)  ○ カ骨付きラス (BP700)  ○ 単層下地通気構法  ○ リプラスC (RC800) に下張りシートのある裏打ち材など一体化したラス  ○ _____  ラスシートの山高、山ピッチ、質量及び溶接ピッチによる区分  * LS4 (耐力壁の場合)   ○ _____  ステーブルの形状及び寸法  リプラス  * L925TS以上 (リプラスC (RC800) の場合)  ○ _____  (3) 施工 (15. 2. 4)  二層下地通気構法  換気口部の措置   * 講ずる   ○ _____  直張り工法 (ラスシートモルタル下地の場合)  建築基準法に基づく耐力壁として使用する場合のラスシートの施工  ○ 図示   ○ _____ </div>

- ▷ 2. せっこうボード、  
その他のボード下地
- ▷ 3. こまい下地
- ▷ 4. 木ずり下地
- ▶ 5. モルタル塗り

(1) 材料 (15. 2. 5)  
せっこうボード、せっこうラスボード及び木質系セメント板の種類及び厚さ

せっこうボード 種類 ( ) 厚さ ( mm)  
せっこうラスボード 種類 ( ) 厚さ ( mm)  
木質系セメント板 種類 ( ) 厚さ ( mm)

(1) 建築基準法に基づく耐力壁の指定 ○ なし ○ あり (15. 2. 6)

(1) 材料 (15. 2. 7)

木ずり用小幅板の材種 \* 杉 (心去り材) ○

(1) モルタル ● 現場調合材料 ○ 既調合材料 (15. 3. 2)

(2) 既製目地材 (15. 3. 2)

○ 設ける 施行箇所 ( )  
形状 ( ○ 図示 ○ )

● 設けない

(3) 床の目地

○ 設ける 目地幅 \* 2m程度 (最大目地間隔3m程度)

○

種類 \* 押し目地 ○

○ 設けない

(4) 外装タイル張り下地等の下地モルタル塗り及び下地調整塗材塗りの接着力試験 (15. 3. 5)

○ 行う ● 行わない

(1) 建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 (15. 6. 2)

\* F☆☆☆☆ ○

(2) 材料 (15. 6. 2)

● 薄付け仕上塗材 (表15. 6. 1) (その1)

呼び名	仕上りの形状	工法	吸放湿性	防火材料
○ 外装薄塗材Si	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状 ○ さざ波状	○ 吹付け ○ ローラー塗り		○ 適用する ○ 適用しない
可とう形 ○ 外装薄塗材Si	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状 ○ さざ波状	○ 吹付け ○ ローラー塗り		○ 適用する ○ 適用しない
○ 外装薄塗材E	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状 ○ 平たん状 ○ 凹凸状 ○ さざ波状 ○ 着色骨材砂壁状	○ 吹付け ○ こて塗り ○ ローラー塗り		○ 適用する ○ 適用しない
● 可とう形 ● 外装薄塗材E	● 砂壁状 ○ ゆず肌状 ○ 平たん状 ○ 凹凸状 ○ さざ波状	● 吹付け ○ こて塗り ○ ローラー塗り		○ 適用する ● 適用しない
○ 防水形外装薄塗材E	○ ゆず肌状 ○ さざ波状 ○ 凹凸状	○ 吹付け ○ ローラー塗り		○ 適用する ○ 適用しない
○ 外装薄塗材S	○ 砂壁状	○ 吹付け		○ 適用する ○ 適用しない
○ 内装薄塗材C	○ 凹凸状 ○ 平たん状	○ 吹付け ○ こて塗り	○ 適用する ○ 適用しない	○ 適用する ○ 適用しない
○ 内装薄塗材L	○ ゆず肌状 ○ さざ波状	○ ローラー塗り		
○ 内装薄塗材Si	○ 砂壁状じゅらく ○ ゆず肌状	○ 吹付け ○ こて塗り	○ 適用する ○ 適用しない	○ 適用する ○ 適用しない

○ 内装薄塗材E	○ 平たん状 ○ 凹凸状 ○ さざ波状	○ ローラー塗り		
○ 内装薄塗材W	○ 京壁状じゅらく ○ ゆず肌状 ○ 平たん状 ○ 凹凸状	○ 吹付け ○ こて塗り	○ 適用する ○ 適用しない	○ 適用する ○ 適用しない

○ 厚付け仕上塗材

(表15. 6. 1) (その2)

呼び名	仕上げの形状	工法	吸放湿性	防火材料
○ 外装厚塗材C	○ 吹放し ○ 凸部処理 ○ 平たん状 ○ 凹凸状 ○ ひき起こし ○ かき落とし	○ 吹付け ○ こて塗り		○ 適用する ○ 適用しない
○ 外装厚塗材Si ○ 外装厚塗材E	○ 吹放し ○ 凸部処理 ○ 平たん状 ○ 凹凸状 ○ ひき起こし	○ 吹付け ○ こて塗り ○ ローラー塗り		○ 適用する ○ 適用しない
○ 内装厚塗材C	○ 吹放し ○ 凸部処理 ○ 平たん状 ○ 凹凸状 ○ ひき起こし ○ かき落とし	○ 吹付け ○ こて塗り		○ 適用する ○ 適用しない
○ 内装厚塗材L	○ 平たん状 ○ 凹凸状 ○ ひき起こし ○ かき落とし	○ こて塗り	○ 適用する ○ 適用しない	○ 適用する ○ 適用しない
○ 内装厚塗材G	○ 平たん状 ○ 凹凸状 ○ ひき起こし ○ かき落とし	○ こて塗り	○ 適用する ○ 適用しない	○ 適用する ○ 適用しない
○ 内装厚塗材Si ○ 内装厚塗材E	○ 吹放し ○ 凸部処理 ○ 平たん状 ○ 凹凸状 ○ ひき起こし	○ 吹付け ○ こて塗り ○ ローラー塗り	○ 適用する ○ 適用しない	○ 適用する ○ 適用しない

外装厚塗材Cにおける上塗材がセメントスタッコ以外の場合

( )

外装厚塗材Si、外装厚塗材Eにおける上塗材の適用

○ 適用する      ○ 適用しない

○ 複層仕上塗材

(表15. 6. 1) (その3)

○ 軽量骨材仕上塗材

呼び名	仕上げの形状	工法	吸放湿性	防火材料
○ 複層塗材CE ○ 複層塗材RE ○ 複層塗材Si ○ 複層塗材E	○ 凸部処理 ○ 凹凸状 ○ ゆず肌状	○ 吹付け ○ ローラー塗り	○ 耐候形3種 ○	○ 適用する ○ 適用しない
○ 可とう形複層塗材CE	○ 凸部処理 ○ 凹凸状 ○ ゆず肌状	○ 吹付け ○ ローラー塗り	○ 耐候形3種 ○	○ 適用する ○ 適用しない



<input type="radio"/> 防水形複層塗材CE	<input type="radio"/> 凸部処理	<input type="radio"/> 吹付け	<input type="radio"/> 耐候形3種	<input type="radio"/> 適用する
<input type="radio"/> 防水形複層塗材RE	<input type="radio"/> 凹凸状	<input type="radio"/> ローラー塗り	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> 適用しない
<input type="radio"/> 防水形複層塗材E	<input type="radio"/> ゆず肌状			
<input type="radio"/> 吹付用軽量塗材	<input type="radio"/> 砂壁状	<input type="radio"/> 吹付け		<input type="radio"/> 適用する
				<input type="radio"/> 適用しない
<input type="radio"/> こて塗用軽量塗材	<input type="radio"/> 平たん状	<input type="radio"/> こて塗り		<input type="radio"/> 適用する
				<input type="radio"/> 適用しない

複層仕上げ塗材の上塗材 (15. 6. 2) (表15. 6. 2)

樹脂 ☐ アクリル系 ☐ シリカ系 ☐ ポリウレタン系

☐ アクリルシリコン系 ☐ ふっ素系

外観 ☐ つやあり ☐ つやなし ☐ メタリック

溶媒 ☐ 溶剤系 ☐ 弱溶剤系 ☐ 水系

(1) 種別 ☐ A種 ☐ B種 (15. 7. 2) (表15. 7. 1)

▷ 7. マスチック塗材塗り

▷ 8. しっくい塗り

(1) 下地の種類 ( ) (15. 10. 1)

☐ 標準仕様書15. 10. 1による場合以外の下地への適用

( )

(2) 材料 (15. 10. 2)

☐ 標準仕様書15. 10. 2(1) (7), (4)による

色しっくい ☐ 適用する ☐ 適用しない

☐

(3) 調合及び塗厚 (15. 10. 3) (表15. 10. 1～表15. 10. 4)

既調合しっくい \* 標準仕様書15. 10. 3(1)による

☐

現場調合しっくい \* 標準仕様書15. 10. 3(2)による

☐

(4) 既調合しっくいの上塗り仕上げ工法 (15. 10. 4) (表15. 10. 5)

☐ なで切り仕上げ ☐ パターン仕上げ

▷ 9. こまい壁塗り

(1) 材料 (15. 11. 2)

土壁用ののりの種類 \* つのまた ☐ ふのり

☐ ぎんなんそう ☐ 粉末海藻

砂壁用ののりの種類 \* ふのり ☐ つのまた

☐ こんにゃくのり ☐ にかわ

☐ 合成高分子系混和剤

色土の種類 ☐ 土物仕上げ ( )

☐ 大津仕上げ ( )

色砂の種類 ☐ 天然砂と岩石の砕砂

☐ 人工的に着色・製造したもの

(2) 調合 下塗りの調合 \* 標準仕様書表15. 11. 2による (15. 11. 3)

☐

(3) 塗厚 \* 標準仕様書表15. 11. 8による (15. 11. 4)

☐ 建築基準法に基づく耐力壁の指定がある場合

☐ 図示 ☐

(4) 工程 こまい壁 \* A種 ☐ B種 (15. 11. 5) (表15. 11. 9)

(5) 土物仕上げの工法 (15. 11. 7)

☐ 土物仕上げの工法

☐ 水こね土物1工法 ☐ 水こね土物2工法

☐ のりさし土物工法 ☐ のりごね土物工法

☐ 砂壁仕上げ工法

☐ 切返し仕上げ工法

(6) 大津仕上げの工法 (15. 11. 8)

☐ 普通大津仕上げ工法 ☐ 大津みがき工法

(7) ちりじゃくり ☐ 図示 ☐ (15. 11. 7) (15. 11. 8)

▷ 10. ロックウール吹付け	(1) ロックウールのホルムアルデヒド放散量 (15. 12. 2) * F☆☆☆☆ ○ _____ (2) 接着剤のホルムアルデヒド放散量 * F☆☆☆☆ ○ _____ (3) 仕上げ吹付け厚さ (mm) (15. 12. 3) * 図示 ○ _____
-----------------	--

## ● 第16章 建具工事

項 目	特 記 事 項																																			
▷ 1. 防火戸	(1) 防火戸の適用： (16. 1. 3) ○ 適用する 適用箇所（＊ 建具表による ○ _____） ○ 適用しない (2) ヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器との連動： (16. 1. 3) ＊ 建具表による ○ _____																																			
▷ 2. 見本の製作等	(1) 建具見本の製作： ＊ 行わない (16. 1. 4) ○ 行う（建具表により指定する。） (2) 特殊な建具の仮組： ＊ 実施しない (16. 1. 4) ○ 実施する																																			
▷ 3. 防犯建物部品	(1) 防犯建物部品： ＊ 適用する (16. 1. 6) ○ 適用しない																																			
▶ 4. アルミニウム製建具	(1) 外部に面する建具の性能等級等 (16. 2. 1～5) （コンクリート系下地及び鉄骨下地） (表16. 2. 1) <table><tr><th>種 別</th><th>＊ A種</th><th>○ B種</th><th>○ C種</th></tr><tr><td>枠の見込み寸法（mm）</td><td>＊ 70</td><td>○ 100</td><td>100</td></tr><tr><td>耐 風 圧 性</td><td>S－4</td><td>S－5</td><td>S－6</td></tr><tr><td>気 密 性</td><td colspan="2">A－3</td><td>A－4</td></tr><tr><td>水 密 性</td><td colspan="2">W－4</td><td>W－5</td></tr></table> (木下地) (表16. 2. 2) <table><tr><th>種 別</th><th>＊ D種</th><th>○ E種</th></tr><tr><td>枠の見込み寸法（mm）</td><td>＊ 70</td><td>○ 100</td></tr><tr><td>耐 風 圧 性</td><td>S－2</td><td>S－3</td></tr><tr><td>気 密 性</td><td colspan="2">A－3</td></tr><tr><td>水 密 性</td><td colspan="2">W－3</td></tr></table> (2) 防音ドア、防音サッシとする場合の 遮音性の等級 （ ○ _____ ） (3) 断熱ドア、断熱サッシとする場合の 断熱性の等級 （ ○ _____ ）  (4) アルミニウムの表面処理 (16. 2. 4) 外部に面する建具 (表14. 2. 1) 種別 ○ BB-1種 ● BB-2種 着色 ● 標準色 ○ 特注色 （ ○ ブラウン系 ○ ブラック ● ステンカラー ） 屋内の建具 (表14. 2. 1) 種別 ○ BC-1種 ○ BC-2種 着色 ○ 標準色 ○ 特注色 （ ○ ブラウン系 ○ ブラック ○ ステンカラー ） (5) ステンレス鋼板の種類 (16. 2. 3) (16. 6. 3) ＊ SUS304, SUS430JIL, SUS443J1 ○ (6) ステンレス製くつづりの仕上げ (16. 2. 4) (16. 4. 4) ＊ HL ○ (7) 結露水の処理方法 ＊ 図示 ○ (16. 2. 4)	種 別	＊ A種	○ B種	○ C種	枠の見込み寸法（mm）	＊ 70	○ 100	100	耐 風 圧 性	S－4	S－5	S－6	気 密 性	A－3		A－4	水 密 性	W－4		W－5	種 別	＊ D種	○ E種	枠の見込み寸法（mm）	＊ 70	○ 100	耐 風 圧 性	S－2	S－3	気 密 性	A－3		水 密 性	W－3	
種 別	＊ A種	○ B種	○ C種																																	
枠の見込み寸法（mm）	＊ 70	○ 100	100																																	
耐 風 圧 性	S－4	S－5	S－6																																	
気 密 性	A－3		A－4																																	
水 密 性	W－4		W－5																																	
種 別	＊ D種	○ E種																																		
枠の見込み寸法（mm）	＊ 70	○ 100																																		
耐 風 圧 性	S－2	S－3																																		
気 密 性	A－3																																			
水 密 性	W－3																																			

▷ 5. 網戸

(8) 水切り板、ぜん板等 \* 図示 ☐ \_\_\_\_\_ (16. 2. 5)

(9) 木下地の内付け建具 (16. 2. 5)

\* 適用する (建具の製造所の仕様) ☐ 適用しない

▷ 6. 樹脂製建具

(1) 防虫網の材質 (16. 2. 3)

\* 合成樹脂製

☐ ガラス繊維入り合成樹脂製 ☐ ステンレス製 (SUS316)

線径 \* 0. 25mm以上 ☐ mm以上

網目 \* 16～18メッシュ ☐ メッシュ

(1) 外部に面する建具の性能等級等 (16. 3. 2)

(コンクリート系下地及び鉄骨下地) (表16. 3. 1)

種 別	<input type="radio"/> A 種	<input type="radio"/> B 種	<input type="radio"/> C 種
耐 風 圧 性	S-4	S-5	S-6
気 密 性	A-4		
水 密 性	W-4	W-5	

(木下地) (表16. 3. 2)

種 別	<input type="radio"/> D 種	<input type="radio"/> E 種
耐 風 圧 性	S-2	S-3
気 密 性	A-4	
水 密 性	W-4	

(2) 枠の見込み寸法: \* 建具表による ☐ \_\_\_\_\_ (16. 3. 4)

(3) 防音ドア、防音サッシとする場合の遮音性能の等級 (16. 3. 2)

☐ T-1 ☐ T-2

(4) 断熱ドア、断熱サッシとする場合の断熱性の等級

\* 外部に面する建具の断熱性の等級 (表16. 3. 3)

☐ 適用する ( ☐ H-4 ☐ H-5 ☐ H-6 )

☐ H-7 ☐ H-8 )

☐ 適用しない

☐ \_\_\_\_\_

(5) ガラス: \* 複層ガラス ☐ 単板ガラス ☐ 三重ガラス (16. 3. 3)

(6) 表面色: ☐ 標準色 (白) ☐ 特注色 (16. 3. 4)

(7) 水切り板、ぜん板等 \* 図示 ☐ \_\_\_\_\_ (16. 2. 5)

(8) 木下地の内付け建具 (16. 3. 5) (16. 2. 5)

☐ 適用する (建具の製造所の仕様) ☐ 適用しない

(9) 外部に面する建具の日射熱取得性の等級 (16. 3. 2)

☐ N-1 ☐ N-2 ☐ N-3

▶ 7. 鋼製建具

(1) 簡易気密型ドアセットの気密性等級、水密性等級 (16. 4. 2)

☐ 標準仕様書表16. 4. 1による ☐ 建具表による

(2) 外部に面する建具の耐風圧性の等級 (表16. 2. 1)

● S-3 ☐ S-4 ☐ S-5 ☐ S-6

(3) 防音ドア、防音サッシとする場合 (16. 2. 2)

遮音性の等級 ( ☐ )

(4) 断熱ドア、断熱サッシとする場合 (16. 2. 2)

断熱性の等級 ( ☐ )

(5) 耐震ドアとする場合 (16. 4. 2)

面内変形追随性の等級 ( ☐ )

(6) ステンレス鋼板の種類 (16. 4. 3) (16. 6. 3)

\* SUS304, SUS430JIL, SUS443J1 ☐

(7) 点検口の類のくつづりの材料 ☐ (16. 4. 3)

(8) 鋼板の厚さ \* 標準仕様書16. 4. 4表16. 4. 2による (16. 4. 4)

☐ 図示

(9) ステンレス製のくつづりの仕上げ \* HL ☐ (16. 4. 4)

(10) 標準型鋼製建具の有効内法寸法 (表16. 4. 5による) (16. 4. 6)

☐ 適用する (建具符号、形式及び寸法は建具表による)

▷	8. 鋼製軽量建具	(1) 簡易気密型ドアセット	○ A-3	(16. 5. 2)
			○ 建具表による	
		(2) 防音ドア、防音サッシとする場合		(16. 2. 2)
		遮音性の等級	( ○ )	
		(3) 断熱ドア、断熱サッシとする場合		(16. 2. 2)
		断熱性の等級	( ○ )	
		(4) 耐震ドアとする場合		(16. 5. 2)
		面内変形追随性の等級	( ○ )	
		(5) 戸の鋼板		(16. 5. 3)
		○ 亜鉛めっき鋼板	○ ビニル被覆鋼板	
▷	9. ステンレス製建具	○ カラー鋼板	○ ステンレス鋼板	
		(6) 召合わせ、縦小口包み板等の材質		(16. 5. 3)
		○ ステンレス鋼板	* 鋼板	○ アルミニウム合金
		(7) 鋼板類の厚さ		(16. 5. 4)
		* 標準仕様書16. 5. 4表16. 5. 1による		
		○ 図示		
		(8) ステンレス製のくつづりの仕上げ		(16. 5. 4) (16. 4. 4)
		* HL	○	
		(9) 標準型鋼製建具の有効内法寸法(表16. 4. 5による)		(16. 5. 6)
		○ 適用する(建具符号、形式及び寸法は建具表による)		
▷	10. 木製建具	(1) 性能値等(建具符号は建具表による)		(16. 6. 2)
		耐風圧性等級、気密性等級、水密性等級		
		* 建具表による	○	
		(2) 外部に面する建具の耐風圧性の等級		(表16. 2. 1)
		○ S-4	○ S-5	○ S-6
		(3) 防音ドア、防音サッシとする場合		
		遮音性の等級	( ○ )	
		(4) 断熱ドア、断熱サッシとする場合		
		断熱性の等級	( ○ )	
		(5) 耐震ドアとする場合		(16. 4. 2)
		面内変形追随性の等級	( ○ )	
		(6) ステンレス鋼板の種類		(16. 6. 3)
		* SUS304, SUS430JIL, SUS443J1	○ _____	
		(7) 表面仕上げ	* HL	○ (16. 6. 4)
		(8) ステンレス製のくつづりの仕上げ		(16. 5. 4) (16. 4. 4)
		* HL	○	
		(9) 曲げ加工	* 普通曲げ	○ 角出し曲げ (16. 6. 5)
		(1) 建具材の加工、組立時の含水率		(16. 7. 2) (表16. 7. 1)
		* A種	○ B種	
		(2) 接着剤のホルムアルデヒド放散量		(16. 7. 2)
		* F☆☆☆☆	○ _____	
		(3) 枠及びくつずりの材料		(16. 7. 2)
		○ 建具表による	○	
		○ フラッシュ戸		(16. 7. 2) (表16. 7. 2)
		表面材の合板の種類		
		合板の種類	表面材の品質等	
		○ 普通合板	接着の程度 * 水掛り箇所を1類、その他2類以上 ○ 板面の品質 * 広葉樹1等 ○	
		○ 天然木化粧合板	接着の程度 * 水掛り箇所を1類、その他2類以上 ○	

○ 特殊加工化粧合板	接着の程度 * 水掛り箇所を1類、その他2類以上 ○
○ ミディアムデンシティファイバーボード (MDF)	表裏面の状態による区 ( ) 曲げ強さによる区 ( ) 接着剤による区分 ( ) 難燃性による区分 ( )

表面材の材料のホルムアルデヒド放散量

\* 標準仕様書16.7.2(2)(イ)(a)による ○ \_\_\_\_\_

表面板の厚さ (16.7.3)

\* 標準仕様書表16.7.6による ○

引戸の定規縁 (16.7.4)

○ 召し合せかまちをいんろう付きとする

○ かまち戸 (16.7.2)(16.7.3)(表16.7.7)

かまち樹種 ( ) 鏡板樹種 ( )

見込み寸法 \* 36mm ○ 建具表による ○

○ ふすま (16.7.2)(表16.7.3)(16.7.3)(表16.7.7)(16.7.4)(表16.7.10)

種別、工法

下張り ○ I型 ○ II型

上張り、縁仕上 ○ 鳥の子 ○ 新鳥の子又はビニル紙程度

○ 生地縁 (ウレタンクリヤー塗装)

見込み寸法 \* 19.5mm ○ 建具表による ○

○ 戸ふすま (16.7.2)(16.7.3)(表16.7.7)(16.7.4)

表面材の種類、品質等 ( )

見込み寸法 \* 30mm ○ 建具表による ○

○ 紙張り障子 (16.7.3)(表16.7.7)

見込み寸法 \* 30mm ○ 建具表による ○

## ▶ 11. 建具用金物

(1) 取付け施工 (16.8.3)

取っ手類の取付け高さは、床仕上げ面からの高さとし、図示  
 その他指示のない場合は、建具製造所の仕様による。

(2) 金物の種類・見え掛り部の材質等 (16.8.2)

\* 標準仕様書 表16.8.1及び適用 (備考欄の特記事項も含め)  
 は、建具表による ○ \_\_\_\_\_

(3) 金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ

\* 標準仕様書 表16.8.2による ○ \_\_\_\_\_

(4) 樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ

\* 標準仕様書 表16.8.3による ○ \_\_\_\_\_

(5) 木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ

\* 標準仕様書 表16.8.4による ○ \_\_\_\_\_

(6) 木製建具に使用する戸車及びレール

\* 標準仕様書 表16.8.5による ○ \_\_\_\_\_

(7) マスターキー ● 製作する \* 製作しない (16.8.4)  
 ○ 既存のマスターキーに合わせる

(8) 鍵: \* 3本1組 ○ \_\_\_\_\_ (16.8.4)

(9) 鍵箱: ○ 無し ○ 有り (16.8.4)

(10) 建具表で指示のない建具金物は16章8節による。

## ▶ 12. 自動ドア開閉装置

(1) 引き戸用駆動装置の性能 (16.9.2)(表16.9.1)

○ SSLD-1 ○ SSLD-2

○ DSLD-1 ○ DSLD-2

防錆の適用 ○ 適用する ○ 適用しない

(2) 車椅子使用者用便所出入口に設置される引き戸用駆動装置の性能

\* 標準仕様書16.9.2表16.9.2による ○ \_\_\_\_\_

防錆の適用 ○ 適用する ○ 適用しない

(3) 開閉方法は、建具表による。 (16.9.2)

	(4) 検出装置の性能 (16. 9. 2)
	* 表16. 9. 3による ○
	(5) 戸の開閉方式
	* 図示 ○
	(6) 引き戸用検出装置の種類 (表16. 9. 4)
	○ 光線（反射）センサー ○ 熱線センサー
	○ 音波センサー ○ 光電センサー
	○ 電波センサー
	○ タッチスイッチ
	( ○ 無線式タッチスイッチ ○ 光電式タッチスイッチ )
	○ 押しボタンスイッチ
	○ 車椅子使用者便房スイッチ
	( ○ 大形(開・閉)押しボタンスイッチ ○ 非接触スイッチ )
	(7) 凍結防止措置 (16. 9. 2)
	○ 適用する ○ 適用しない
▷ 13. 自閉式上吊り引戸装置	(1) 性能等
	* 標準仕様書16. 10. 3表16. 10. 1による。
	○ 図示
▷ 14. 重量シャッター	(1) シャッターの種類 (16. 11. 2)
	○ 管理用シャッター ○ 外壁用防火シャッター
	○ 屋内用防火シャッター ○ 防煙シャッター
	(2) 耐風圧強度 (16. 11. 2)
	管理用シャッター _____ pa
	外壁用防火シャッター _____ pa
	(3) シャッターケース（管理用シャッター） (16. 11. 2)
	○ 設ける ○ 設けない
	(4) 開閉方式 * 電動式（手動併用） (16. 11. 2) (表16. 11. 1)
	○ 手動式
	(5) 安全装置
	急降下制動装置又は急降下停止装置、
	障害物感知装置、危険防止機構の設置箇所
	○ 図示 ○
	(6) 注意喚起装置 ○ 音声発生装置 ○ 注意灯の設置
	○ シャッターへの危険表示
	○ シャッターの下降位置の表示
	(7) 吹雪止め 吹き込み防止用サイドシール（3方）を設置
	(8) 鋼板の種類及びめっきの付着量 (16. 11. 3)
	種類 ○ JIS G 3302 ○ JIS G 3312
	付着量 * Z12又はF12 ○ _____
	(9) ステンレス鋼板 (16. 11. 3) (16. 6. 3)
	* SUS304, SUS430JIL, SUS443J1 ○ _____
▷ 15. 軽量シャッター	(1) 開閉形式 * 手動式 (16. 12. 2) (表16. 12. 1)
	○ 電動式（手動併用）
	(2) 耐風圧強度 _____ pa (16. 12. 2)
	(3) 電動式の場合の安全装置
	障害物感知装置の設置箇所 ○ 図示 ○ _____
	(4) スラットの材質 (16. 12. 3)
	○ JIS G 3312 めっき付着量 * Z06又はF06 ○ _____
	○ JIS G 3322 めっき付着量 * AZ90 ○ _____
	(5) スラットの種類
	○ インターロッキング形
	○ オーバーラッピング形

▷ 16. オーバーヘッドドア

(16.13.2)

セクション材料による区分	風圧力区分 (Pa)	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材料
* スチールタイプ	○ 125 ○ 100	* バランス式 ○ チェーン式	○ スタンダード形 ○ ロケット形	溶融亜鉛めっき鋼板
○ アルミニウムタイプ	○ 75 ○ 50	○ 電動式	○ ハイリフト形 ○ パーチカル形	○ ステンレス鋼板
○ ファイバーグラスタイプ				

電動式の場合の障害物感知装置の設置箇所 ○ 図示 (16.11.2)

▷ 17. ガラス

(1) 板ガラス (16.14.2)

7. 標準仕様書の規定による品質・規格を満たす材料とする。

1. ガラスの種類及び厚さは建具表による。

(2) ガラス留め材（防火戸以外） (16.14.2)

該当	建具の種類	材 種
○	アルミニウム製建具	* シーリング材 ○ 建築用がスケツト
○	鋼製建具	* シーリング材
○	ステンレス製建具	* シーリング材
○	鋼製軽量建具	* シーリング材
○	木製建具	* 押縁
○	樹脂製建具	* 建築用がスケツト

(3) 板ガラスをはめ込む溝の大きさ (16.14.3) (図16.14.1)

\* 建具の製造所の仕様による ○

▷ 18. ガラスブロック積み

(1) 表面形状 図示 (16.14.5)

呼び寸法 図示

厚さ 図示

(2) 壁用金属枠、補強材 (16.14.5)

○ 設ける（形状 ○ 図示 ○ ） ○ 設けない

(3) 力骨の材質、寸法、形状： (16.14.5)

材質 \* ステンレス鋼(SUS304) ○

寸法 \* 径5.5mm ○

形状 \* はしご形状複筋及び単筋 ○

(4) 金属製化粧カバーの材質、寸法、形状 (16.14.5)

材質 ○ ステンレス製 ○ アルミニウム製

寸法 ○ 図示 ○

形状 ○ 図示 ○

(5) 化粧目地モルタル 色 (16.14.5)

(6) シーリングの種類 \* 図示 (16.14.5)

(7) 建築基準法に基づく風圧力に対応した工法： (16.14.5)

\* 図示 ○

(8) 壁用金属枠

木下地の場合： mm

(9) ガラスブロックの目地幅の寸法(mm) (16.14.5)

7. 平積み

\* 8~15 ○ 15~25

1. 曲面積み

\* 曲率半径をガラスブロックの幅寸法の10倍以上とし、外側15mm以下、内側6mm以上

○

(10) 伸縮調整目地の位置： (16.14.5)

\* 幅6m以下ごとに10~25mm ○ 図示

(11) 目地部の横力骨の納まり (16.14.5)

\* ガラスブロック製作所の仕様 ○ 図示

● 第18章 塗 装 工 事

項 目	特 記 事 項																																		
▶ 1. 材 料	(1) 屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量： (18. 1. 3) * F☆☆☆☆ ○ 規制対象外 (2) 防火材料： (18. 1. 3) * 防火材料の指定は図面による ○																																		
▶ 2. 素地ごしらえ	種別 (18. 2. 2～18. 2. 7) (表18. 2. 1～表18. 2. 7) <table><tr><th colspan="2">下地面等</th><th>種 別</th></tr><tr><td rowspan="2">木部</td><td>不透明塗装塗りの場合</td><td>* A種 ○ B種</td></tr><tr><td>透明塗りの場合</td><td>* B種 ○ A種</td></tr><tr><td rowspan="2">鉄鋼面</td><td>耐候性塗料塗り (DP) の場合</td><td>* B種 ○ A種 ○ C種</td></tr><tr><td>上記以外の場合</td><td>* C種 ○ A種 ○ B種</td></tr><tr><td colspan="2">亜鉛めっき鋼面</td><td>○ A種 ○ B種</td></tr><tr><td colspan="2">モルタル面及びせっこうプラスター面</td><td>* B種 ○ A種</td></tr><tr><td colspan="2">コンクリート面 (DP以外) 及びALCパネル面</td><td>* B種 ○ A種</td></tr><tr><td colspan="2">コンクリート面 (DP) の場合</td><td>* A種 ○ B種</td></tr><tr><td colspan="2">押出成形セメント板面</td><td>* B種 ○ A種</td></tr><tr><td rowspan="2">せっこうボード面及びその他ボード面</td><td>目地：継目処理工法</td><td>* A種 ○ B種</td></tr><tr><td>目地：継目処理工法以外</td><td>* B種 ○ A種</td></tr></table>	下地面等		種 別	木部	不透明塗装塗りの場合	* A種 ○ B種	透明塗りの場合	* B種 ○ A種	鉄鋼面	耐候性塗料塗り (DP) の場合	* B種 ○ A種 ○ C種	上記以外の場合	* C種 ○ A種 ○ B種	亜鉛めっき鋼面		○ A種 ○ B種	モルタル面及びせっこうプラスター面		* B種 ○ A種	コンクリート面 (DP以外) 及びALCパネル面		* B種 ○ A種	コンクリート面 (DP) の場合		* A種 ○ B種	押出成形セメント板面		* B種 ○ A種	せっこうボード面及びその他ボード面	目地：継目処理工法	* A種 ○ B種	目地：継目処理工法以外	* B種 ○ A種	
下地面等		種 別																																	
木部	不透明塗装塗りの場合	* A種 ○ B種																																	
	透明塗りの場合	* B種 ○ A種																																	
鉄鋼面	耐候性塗料塗り (DP) の場合	* B種 ○ A種 ○ C種																																	
	上記以外の場合	* C種 ○ A種 ○ B種																																	
亜鉛めっき鋼面		○ A種 ○ B種																																	
モルタル面及びせっこうプラスター面		* B種 ○ A種																																	
コンクリート面 (DP以外) 及びALCパネル面		* B種 ○ A種																																	
コンクリート面 (DP) の場合		* A種 ○ B種																																	
押出成形セメント板面		* B種 ○ A種																																	
せっこうボード面及びその他ボード面	目地：継目処理工法	* A種 ○ B種																																	
	目地：継目処理工法以外	* B種 ○ A種																																	
▷ 3. 錆止め塗装塗り	種別 (18. 3. 2) (18. 3. 3) (表18. 3. 1～表18. 3. 4) <table><tr><th colspan="2">下地面等</th><th>錆止め塗料の種別</th><th>工程の種別</th></tr><tr><td rowspan="6">鉄鋼面</td><td rowspan="3">見え係り部分</td><td>SOP</td><td>A種 * A種 ○ B種</td></tr><tr><td>DP</td><td>1回目C種 標準仕様書 2, 3回目D種 表18. 3. 4</td></tr><tr><td>EP-G</td><td>* B種 ○ A種 * A種 ○ B種</td></tr><tr><td rowspan="3">見え隠れ部分</td><td>SOP</td><td>A種 * B種 ○ A種</td></tr><tr><td>DP</td><td>1回目C種 標準仕様書 2, 3回目D種 表18. 3. 4</td></tr><tr><td>EP-G</td><td>* B種 ○ A種 * B種 ○ A種</td></tr><tr><td rowspan="6">亜鉛めっき鋼面</td><td rowspan="3">鋼製建具等</td><td>SOP</td><td>* A種 ○ B種 * A種 ○ B種</td></tr><tr><td>DP</td><td>B種 標準仕様書 表18. 3. 6</td></tr><tr><td>EP-G</td><td>C種 * A種 ○ B種</td></tr><tr><td rowspan="3">鋼製建具以外</td><td>SOP</td><td>* B種 ○ A種 * B種 ○ A種</td></tr><tr><td>DP</td><td>B種 標準仕様書 表18. 3. 6</td></tr><tr><td>EP-G</td><td>C種 * B種 ○ A種</td></tr></table>	下地面等		錆止め塗料の種別	工程の種別	鉄鋼面	見え係り部分	SOP	A種 * A種 ○ B種	DP	1回目C種 標準仕様書 2, 3回目D種 表18. 3. 4	EP-G	* B種 ○ A種 * A種 ○ B種	見え隠れ部分	SOP	A種 * B種 ○ A種	DP	1回目C種 標準仕様書 2, 3回目D種 表18. 3. 4	EP-G	* B種 ○ A種 * B種 ○ A種	亜鉛めっき鋼面	鋼製建具等	SOP	* A種 ○ B種 * A種 ○ B種	DP	B種 標準仕様書 表18. 3. 6	EP-G	C種 * A種 ○ B種	鋼製建具以外	SOP	* B種 ○ A種 * B種 ○ A種	DP	B種 標準仕様書 表18. 3. 6	EP-G	C種 * B種 ○ A種
下地面等		錆止め塗料の種別	工程の種別																																
鉄鋼面	見え係り部分	SOP	A種 * A種 ○ B種																																
		DP	1回目C種 標準仕様書 2, 3回目D種 表18. 3. 4																																
		EP-G	* B種 ○ A種 * A種 ○ B種																																
	見え隠れ部分	SOP	A種 * B種 ○ A種																																
		DP	1回目C種 標準仕様書 2, 3回目D種 表18. 3. 4																																
		EP-G	* B種 ○ A種 * B種 ○ A種																																
亜鉛めっき鋼面	鋼製建具等	SOP	* A種 ○ B種 * A種 ○ B種																																
		DP	B種 標準仕様書 表18. 3. 6																																
		EP-G	C種 * A種 ○ B種																																
	鋼製建具以外	SOP	* B種 ○ A種 * B種 ○ A種																																
		DP	B種 標準仕様書 表18. 3. 6																																
		EP-G	C種 * B種 ○ A種																																
▶ 4. 塗 料	種別 (18. 4. 1～18. 12. 2) (表18. 4. 1～表18. 12. 1) <table><tr><th colspan="2">塗 装</th><th>種 別</th></tr><tr><td rowspan="4">合成樹脂調合ペイント塗り (SOP)</td><td>木部屋外</td><td>* A種 ○ B種</td></tr><tr><td>木部屋内</td><td>* B種 ○ A種</td></tr><tr><td>鉄鋼面</td><td>* B種 ○ A種</td></tr><tr><td>亜鉛めっき鋼面</td><td>標準仕様書 表18. 4. 3</td></tr><tr><td colspan="2">クリアラッカー塗り (CL)</td><td>* B種 ○ A種</td></tr><tr><td colspan="2">アクリル樹脂系非水分散型塗装塗り (NAD)</td><td>* B種 ○ A種</td></tr></table>	塗 装		種 別	合成樹脂調合ペイント塗り (SOP)	木部屋外	* A種 ○ B種	木部屋内	* B種 ○ A種	鉄鋼面	* B種 ○ A種	亜鉛めっき鋼面	標準仕様書 表18. 4. 3	クリアラッカー塗り (CL)		* B種 ○ A種	アクリル樹脂系非水分散型塗装塗り (NAD)		* B種 ○ A種																
塗 装		種 別																																	
合成樹脂調合ペイント塗り (SOP)	木部屋外	* A種 ○ B種																																	
	木部屋内	* B種 ○ A種																																	
	鉄鋼面	* B種 ○ A種																																	
	亜鉛めっき鋼面	標準仕様書 表18. 4. 3																																	
クリアラッカー塗り (CL)		* B種 ○ A種																																	
アクリル樹脂系非水分散型塗装塗り (NAD)		* B種 ○ A種																																	



耐候性塗料塗り (DP)	鉄鋼面	標準仕様書 表18.7.1
	亜鉛めっき鋼面	標準仕様書 表18.7.2
	コンクリート面及び押出 成形セメント板面	○ A種 ○ B種 ○ C種
つや有合成樹脂エマル ジョンペイント塗り (EP- G)	コンクリート面、モルタル面 等	* B種 ○ A種
	木部	標準仕様書 表18.8.2
	屋内の鉄鋼面	* B種 ○ A種
	亜鉛めっき鋼面	標準仕様書 表18.8.4
合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP)		* B種 ○ A種
ウレタン樹脂ワニス塗り (UC)		* B種 ○ A種
ステイン塗り	ピグメントステイ ン塗り	—
	オイルステイン塗 り (OS)	—
木材保護塗料塗り (WP)	屋外	* B種 ○ A種

塗料の種類等 (表18.5.1)

- ・ クリアラッカー塗り (CL)  
種別がA種の場合における、標準仕様書 表18.5.1の工程2
- ・ 塗料の種類 ( )
- ・ 耐候性塗料塗り (DP) (表18.7.2)  
上塗り塗装の等級 鉄鋼面 ( ) 級  
亜鉛めっき鋼面 ( ) 級
- ・ ウレタン樹脂ワニス塗り (UC) (表18.10.1)  
標準仕様書 表8.10.1の工程の着色 ○ 着色する
- ・ オイルステイン塗り (OS) の仕様 (表18.11.2)  
\* 図示による ○

## ● 第19章 内 装 工 事

項 目	特 記 事 項			
▷ 1. ビニル床シート張り	ビニル床シート (JIS A 5705) (19.2.2)			
施工部位	種 類	色 柄	厚 さ (mm)	工 法
	* F S ○	○ マーブル ○ フレーン	* 2.0 ○	○ 突付け * 熱溶接
	○	○ マーブル ○ フレーン	* 2.0 ○	○ 突付け * 熱溶接
	○	○ マーブル ○ フレーン	* 2.0 ○	○ 突付け * 熱溶接
▷ 2. ビニル床タイル張り	ビニル床タイル (JIS A 5705) (19.2.2)			
施工部位	種 類	色 柄	寸 法	厚 さ (mm)
	* K T ○	○ マーブル ○ フレーン		○ 2.5 * 2.0
	* K T ○	○ マーブル ○ フレーン		○ 2.5 * 2.0
	* K T ○	○ マーブル ○ フレーン		○ 2.5 * 2.0

3. 特殊機能床材

(1) 帯電防止床シート、帯電防止床タイル (19. 2. 2)

施工部位	種 類	性 能	厚さ等 (mm)
	帯電防止床シート	体積抵抗値 ( ) Ω 以下	
	帯電防止床タイル		

(2) 視覚障害者用床タイル (19. 2. 2)

区分	施工部位	種 類	寸 法 (mm)
屋外		○ 塩化ビニル系	○ 300×300
		○ レジンコンクリート系	○
		○ 磁器質タイル	
屋内		○ 塩化ビニル系	○ 300×300
		○ 磁器質タイル	○

※ 色は周囲の床材と識別しやすいものとする。

(3) 耐動荷重性床シート (19. 2. 2)

施工部位	種類	厚さ (mm)	備考

(4) 防滑性床シート、防滑性床タイル (19. 2. 2)

施工部位	種 類	厚さ (mm)

(5) ビニル幅木 : (19. 2. 2)

厚さ (mm) \* 1.5以上 ○ \_\_\_\_\_  
高さ (mm) \* 60 ○ \_\_\_\_\_

(6) ゴム床タイル : (19. 2. 2)

種類 ○ \_\_\_\_\_ 色柄 ○ \_\_\_\_\_  
厚さ (mm) ○ \_\_\_\_\_ 寸法 ○ \_\_\_\_\_

(7) 接着剤 : (19. 2. 2) (表19. 2. 1)

ホルムアルデヒド放散量 \* F☆☆☆☆ ○ 規制対象外  
施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別と施工箇所  
種別 ○ \_\_\_\_\_  
施工箇所 ○ \_\_\_\_\_

(8) ゴム床タイル用接着剤 : (19. 2. 2) (表9. 2. 2)

ホルムアルデヒド放散量 \* F☆☆☆☆ ○ 規制対象外  
施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別と施工箇所  
種別 ○ \_\_\_\_\_  
施工箇所 ○ \_\_\_\_\_

4. 工法

(1) 標準仕様書19. 2. 3以外の下地工法 (19. 2. 3)

○ 図示 ○

(1) 織じゅうたん (19. 3. 2) (表19. 3. 1) (表19. 3. 2)

該当	種 別	織り方	パイルの形状	帯電性
○	○ A種	ウルトン ダブルフェース アキスインター	○ ループ	○ 適用する (性能 : * 人体帯電圧3kv 以下 ○ ○ 適用しない
	○ B種		○ カット	
	* C種		○ 併用	

(2) タフテッドカーペット (19. 3. 2) (表19. 3. 2)

該当	パイルの形状	パイル長	帯電性	工 法
○	○ ループ		○ 適用する (性能 : * 人体耐電圧3kV 以下 ○ ○ 適用しない	○ クリップパー * 全面接着
	○ カット			
	○ 併用			

Page(58/87)

建築新営202304適用

## (3) タイルカーペット (19.3.2) (表19.3.2)

該当	種類	パイルの形状	寸法	総厚さ
○	* 第一種 ○ 第二種	* ループ ○ カット ○ 併用	* 500mm角 ○	* 6.5mm ○

(4) 下敷き材 : \* 第2種2号 ○ (19.3.2)

\* 呼び厚さ8mm ○

(5) 見切り、押さえ金物の材質、種類、形状 : 図示 (19.3.2)

(6) 接着剤 : (19.3.2)

ホルムアルデヒド放散量 \* F☆☆☆☆ ○ 規制対象外

(7) 織りじゅうたんの接合方法 (19.3.3)

\* ヒートボンド工法 ○

(8) タイルカーペット全面接着工法の敷き方 : (19.3.3)

平場 \* 市松敷き ○ 模様流し ○

階段部分 \* 模様流し ○ 市松敷き ○

## ▷ 6. 合成樹脂塗床

(1) 厚膜型塗床材(弾性ウレタン樹脂系塗床材) (19.4.3) (表19.4.4)

施 工 部 位	区分	仕上げの種類	厚さ
	* 水系 ○ 無溶剤系 ○ 溶剤系	* 平滑 ○ 防滑 ○ つや消し	
	* 水系 ○ 無溶剤系 ○ 溶剤系	* 平滑 ○ 防滑 ○ つや消	

(2) ホルムアルデヒド放散量 : (19.4.2)

\* F☆☆☆☆ ○ 規制対象外

(3) 厚膜型塗床材(エポキシ樹脂系塗床材) (19.4.3) (表19.4.5~7)

施 工 部 位	区分	工法	仕上げの種類	厚さ
	* 水系 ○ 無溶剤系 ○ 溶剤系	○ 薄膜流しのべ ○ 厚膜流しのべ ○ 樹脂モルタル	○ 平滑 ○ 防滑	
	* 水系 ○ 無溶剤系 ○ 溶剤系	○ 薄膜流しのべ ○ 厚膜流しのべ ○ 樹脂モルタル	○ 平滑 ○ 防滑	

(4) ホルムアルデヒド放散量 : (19.4.2)

\* F☆☆☆☆ ○ 規制対象外

(5) 薄膜型塗床材(エポキシ樹脂塗床材) (19.4.3) (表19.4.8)

施 工 部 位	区分	工法	仕上げの種類	厚さ
			* 平滑	

(6) 薄膜型塗床材のホルムアルデヒド放散量 : (19.4.2)

\* F☆☆☆☆ ○ 規制対象外

## ▷ 7. フローリング張り

(1) ○ 適用しない (19.5.5)

○ 適用する

○ フローリングボード(直張用) (表19.5.5)

樹種 : \* なら ○

○ 複合フローリング(直張用) (表19.5.6)

種別 : ○ A種 ○ B種 ○ C種

樹種 : \* なら ○ さくら ○ ひのき、まつ

○ フローリングブロック

樹種 : \_\_\_\_\_

厚さ : \_\_\_\_\_

幅 : \_\_\_\_\_

長さ : \_\_\_\_\_

▷ 8. 畳敷き

▶ 9. せっこうボード及びその他のボード及び合板張り

▷ 10. 合板張り

(2) フローリング裏面の不陸緩和材 (19. 5. 5)

\* 合成樹脂発泡シート

○

(3) 特殊フローリング

品 名	表面材の材種	仕上げ塗装
○ 屋内体育館アリーナ床 (JIS A 6519)	* なら ○	
○ 柔剣道場の床 (JIS A 6519)	* なら ○	

(4) フローリング及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 (19. 5. 2)

\* F☆☆☆☆・接着剤等不使用 ○

(5) 接着工法におけるフローリング裏面の緩衝材： (19. 5. 5)

\* 合成樹脂発泡シート ○

フローリングブロック

樹種	厚さ	大きさ	適用

(1) 普通畳の種別 (19. 6. 2) (表19. 6. 1)

○ A種 ○ B種 ○ C種 \* D種

D種の場合の畳床 ○ KT-I ○ KT-II \* KT-III

○ KT-K ○ KT-N

(2) 柔道畳

畳床は、JIS A 5901 (畳床) の2級品とし、畳表は、柔道用レザー表地 (裏地ビニロン使用) とする。

(1) せっこうボード及びその他のボードの種類、厚さ等

\* 図示 ○

7. ホルムアルデヒド放散量：

\* F☆☆☆☆ ○ 規制対象外

(2) せっこうボードの目地工法： \* 突付け工法 (19. 7. 3)

○ 継目処理工法

● 目透し工法

(1) 普通合板は、「合板の日本農林規格」の規格品で、板面の品質は1・2等込みとし、難燃合板及び特殊合板は、それぞれ「難燃合板の日本農林規格」及び「特殊合板の日本農林規格」の規格品とする。

(2) 19. 7. 2(1)にかかわらず、防火材料の認定品の使用は指定のあったときとする。

(3) 下地の種類：図示 (19. 7. 3)

(4) 普通合板の種類等 (19. 7. 2)

表板の樹種	板面の品質	処理	厚さ (mm)
生地、透明塗料塗り * ラワン程度 ○ 不透明塗料塗り * しな程度 ○	○	○ 防虫処理	○

(5) 天然木化粧合板の規格 (19. 7. 2)

化粧板の樹種	処理	厚さ (mm)
○	○ 防虫処理	○

(6) 特殊加工化粧合板の規格 (19. 7. 2)

化粧加工の方法	表面性能	処理	厚さ (mm)
○ オーバーレイ ○ プリント ○ 塗装等	○	○ 防虫処理	○

▶ 11. 壁紙張り

(7) 合板類、MDF、パーティクルボード及び接着剤のホルムアルデヒド放散量： (19. 7. 2)

\* F☆☆☆☆ ○ 規制対象外

(8) 合板の張付けの種類別： \* B種 ○ A種 (表19. 7. 3)

(1) 材料 (19. 8. 2)

7. 壁紙の種類等：

施工部位	防火種別	種類
ライニング	* 1 - 1 ○ -	○ 紙・布 ○ ビニールクロス ● 塩化ビニル樹脂フィルム

個別認定の一例

防火種別	不燃下地	不燃石膏ボード	準不燃下地	金属下地
1 - 1	不燃	不燃	準不燃	準不燃
1 - 2	不燃	準不燃	準不燃	難燃
1 - 3	不燃	準不燃	準不燃	
2 - 1	準不燃	準不燃	準不燃	準不燃
2 - 2	準不燃	準不燃	準不燃	難燃
2 - 3	準不燃	準不燃	準不燃	

防火種別 左の数字は、旧通則認定における検定級に基づく区分

4. 壁紙のホルムアルデヒド放散量 (19. 8. 2)

\* F☆☆☆☆ ○ 規制対象外

ウ. 素地ごしらの種類 (19. 8. 3)

モルタル・せっこうプラスター面 \* B種 ○ A種

コンクリート・ALC面 \* B種 ○ A種

せっこうボード面 \* B種 ○ A種

▶ 12. 断熱・防露

(1) 共通事項 ノンフロン仕様とする。 (19. 9. 2)

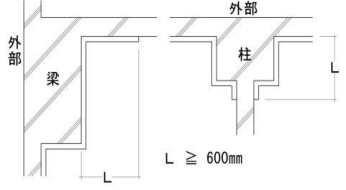
(2) 硬質ウレタンフォーム保温板他

施工部位	材 料 の 種 別	材料の類別及び品質
基礎断熱 土間下敷込	* (JIS A 9521) ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 (EPS) ● (JIS A 9521) 押出法ポリスチレンフォーム保温板 (XPS) ○	* 1号 ● 3種b (表皮付き) ○
屋根外断熱	* (JIS A 9521) 押出法ポリスチレンフォーム保温板 (XPS) ● (JIS A 9523) グラスウール	* 3種b (表皮付き) ● 18kg
外壁・天井	* (JIS A 9521) ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 (EPS) ○ (JIS A 9521) 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (XPS) ○ (JIS A 9521) 硬質ウレタンフォーム断熱材 (PUF) ○ (JIS A 9521) フェノールフォーム断熱材 (PF) ● (JIS A 9521) グラスウール	○ 種 ○ 種 号 ● 24kg/m3

☆ フェノールフォーム断熱材及び張付用断熱材の接着剤

ホルムアルデヒド放散量： \* F☆☆☆☆ ○ 規制対象外

※ 施工部位及び部位毎の厚さについては図面による。図面特記がない場合の各部位の厚さは、押出法ポリスチレンフォーム保温板２種bで下表の数値以上とし、他のものは、これと同等以上の断熱効果（熱伝導率0.034以下）を有する厚さとする。

地 区	道南・道央	道北・道東	施 工 範 囲
外気に接する床	* 50 ● 75	* 50 ○	
外気に接しない床	* 30 ○	* 30 ○	
外 壁 面	* 30 ○	* 40 ○	
最上階スラブ下端	* 40 ● 75	* 50 ○	

(3) 吹付硬質ウレタンフォーム

7. 外壁面の開口周辺部には、開口部枠材と外壁面保温板の隙間にウレタンフォームを吹付け、その厚さは、外壁面保温板と同等以上の断熱性能を有するものとする。

4. 外壁面のフォームタイの露出部分には、結露防止のためウレタンフォームを吹付ける。

9. 板状断熱材を打込んだ場合で、断熱材の継目にコンクリート「のろ」が流出したり、隙間が生じた場合は、Vカットのうえ発泡ウレタン処理をする。

(4) グラスウール断熱材は、JIS A 9521（建築用断熱材）の規格品とする。

密度 \* 高性能16Kg/m<sup>3</sup> ○            Kg/m<sup>3</sup>

(5) ロックウール保温材は、JIS A 9504（ロックウール保温材）またはJIS A9521（建築用断熱材）の規格品とし、密度は、保温板80Kg/m<sup>3</sup>フェルト及びマット 40Kg/m<sup>3</sup>とする。

(6) ブローイング工法は、JIS A 9523（吹込み用グラスウール断熱材）JIS A 9524（吹込み用ロックウール断熱材）又は JIS A 9525（吹込み用セルローズファイバー断熱材）による。

## ● 第20章 ユニット及びその他工事

項 目		特 記 事 項						
▷	1. フリーアクセスフロア	(1) 仕様 (20. 2. 2)						
		施工箇所	寸法	高さ	耐震性能	所定荷重	帯電防止性能	漏えい抵抗
			○ 500×500		○ 1.0G ○ 0.6G	○ 3,000N ○ 5,000N	○ U値(クラス1) ○ U値(クラス2)	○ R≥1×10Ω6 ○
			○ 500×500		○ 1.0G ○ 0.6G	○ 3,000N ○ 5,000N	○ U値(クラス1) ○ U値(クラス2)	○ R≥1×10Ω6 ○
		(2) 性能 (20. 2. 2)						
		* 標準仕様書20. 2. 2による ○ 図示						
		(3) 寸法精度 (20. 2. 2)						
		* 標準仕様書20. 2. 2による ○ 図示						
▷	2. 可動間仕切	(1) 仕様 (20. 2. 3)						
		構造形式	表面材質	パネル表面仕上げ	遮音性能	不燃材料の認定		
		○ スタッド式(内蔵) ○ スタッド式(露出) ○ パネル式 ○ スタッドパネル式	○ 鋼板	○ マシン樹脂塗料又は アクリル樹脂塗料焼付  ○	○ 0 ○ 12 ○ 20 ○ 28 ○ 36	○ あり ○ なし		
		(2) ホルムアルデヒド放散量 * F☆☆☆☆ ○ 規制対象外						

	(3) パネル内に取り付ける建具 (20. 2. 3) <input type="radio"/> あり (図示) <input type="radio"/> なし																																
▶ 3. 移動間仕切	(1) 仕様 (20. 2. 4) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <tr> <th style="width: 15%;">走行方法</th> <th style="width: 15%;">操作方法</th> <th style="width: 20%;">パネル圧接装置</th> <th style="width: 20%;">遮音性</th> <th style="width: 30%;">表面仕上げ</th> </tr> <tr> <td> <input type="radio"/> 平行方向  <input type="radio"/> 二方向         </td> <td> <input type="radio"/> 手動式  <input type="radio"/> 電動式  <input type="radio"/> 部分電動式         </td> <td> <input type="radio"/> プッシュ式  <input type="radio"/> ハンドル回転式         </td> <td> <input type="radio"/> 一般タイプ                            (36db未満)  <input type="radio"/> 遮音タイプ                            (36db以上)         </td> <td> <input type="radio"/> 焼付塗装         </td> </tr> </table>	走行方法	操作方法	パネル圧接装置	遮音性	表面仕上げ	<input type="radio"/> 平行方向 <input type="radio"/> 二方向	<input type="radio"/> 手動式 <input type="radio"/> 電動式 <input type="radio"/> 部分電動式	<input type="radio"/> プッシュ式 <input type="radio"/> ハンドル回転式	<input type="radio"/> 一般タイプ (36db未満) <input type="radio"/> 遮音タイプ (36db以上)	<input type="radio"/> 焼付塗装																						
走行方法	操作方法	パネル圧接装置	遮音性	表面仕上げ																													
<input type="radio"/> 平行方向 <input type="radio"/> 二方向	<input type="radio"/> 手動式 <input type="radio"/> 電動式 <input type="radio"/> 部分電動式	<input type="radio"/> プッシュ式 <input type="radio"/> ハンドル回転式	<input type="radio"/> 一般タイプ (36db未満) <input type="radio"/> 遮音タイプ (36db以上)	<input type="radio"/> 焼付塗装																													
	(2) 取付部品・ハンガーレール・ランナーの取付け下地の補強： * 取付全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する。  <input type="radio"/> _____ (20. 2. 4)																																
	あと施工アンカー類を使用する場合の材質、寸法等 * 図示 <input type="radio"/> _____ (20. 2. 5)																																
▶ 4. トイレブース	(1) 表面材 <input type="radio"/> メラミン樹脂系      ● ポリエステル樹脂系 (2) 脚部 形状      * 幅木タイプ <input type="radio"/> _____ 材質      * ステンレス製 <input type="radio"/> _____																																
▶ 5. 手すり	(3) ホルムアルデヒド放散量      * F☆☆☆☆ <input type="radio"/> 規制対象外 (1) 材種 <input type="radio"/> ステンレス製SUS304 (20. 2. 6) <input type="radio"/> アルミニウム合金製 <input type="radio"/> 鋼製																																
▶ 6. 階段滑り止め	(2) 仕上げ <input type="radio"/> _____ (1) 材種      * ステンレス製 (20. 2. 7) (2) 取付け工法 <input type="radio"/> 埋込み工法      * 接着工法 (3) 巾 <input type="radio"/> 30mm <input type="radio"/> 35mm <input type="radio"/> 40mm (外部) _____ (内部) * ステンレス製及び黄銅製のものはピン材付入りとする。																																
▶ 7. 黒板及びホワイトボード	(1) 黒板 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <tr> <th style="width: 15%;">区分</th> <th style="width: 35%;">種類</th> <th style="width: 15%;">色</th> <th style="width: 35%;">形式</th> </tr> <tr> <td>* 焼付け</td> <td><input type="radio"/> 鋼製黒板</td> <td>* 緑</td> <td><input type="radio"/> 平面</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/></td> <td><input type="radio"/> ほうろう黒板</td> <td><input type="radio"/></td> <td><input type="radio"/> 曲面</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table> <p style="margin-top: 5px;">※アルミニウム枠、チョーク溝、チョーク入れ、チョーク粉入れ付き 標準仕様書20. 2. 9によるほか、優良道産品認定品も可とする。</p> (2) ホワイトボード <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <tr> <th style="width: 15%;">区分</th> <th style="width: 35%;">種類</th> <th style="width: 15%;">色</th> <th style="width: 35%;">形式</th> </tr> <tr> <td>*</td> <td>* ほうろう</td> <td>* 白</td> <td><input type="radio"/> 平面</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/></td> <td> </td> <td><input type="radio"/></td> <td><input type="radio"/> 曲面</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table> <p style="margin-top: 5px;">標準仕様書20. 2. 9によるほか、優良道産品認定品も可とする。</p>	区分	種類	色	形式	* 焼付け	<input type="radio"/> 鋼製黒板	* 緑	<input type="radio"/> 平面	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ほうろう黒板	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> 曲面					区分	種類	色	形式	*	* ほうろう	* 白	<input type="radio"/> 平面	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/> 曲面				
区分	種類	色	形式																														
* 焼付け	<input type="radio"/> 鋼製黒板	* 緑	<input type="radio"/> 平面																														
<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ほうろう黒板	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> 曲面																														
区分	種類	色	形式																														
*	* ほうろう	* 白	<input type="radio"/> 平面																														
<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/> 曲面																														
▶ 8. 鏡	(1) 施工箇所      * 図示 <input type="radio"/> _____ (20. 2. 10) (2) 厚さ      * 5mm <input type="radio"/> _____																																
▶ 9. 表示	(20. 2. 11) (1) <input type="radio"/> 衝突防止表示      ( * 図示 <input type="radio"/> _____ ) (2) <input type="radio"/> 法令に基づく表示      ( * 図示 <input type="radio"/> _____ ) (3) <input type="radio"/> 室名札      ( * 図示 <input type="radio"/> _____ ) (4) ● ピクトグラフ      ( * 図示 <input type="radio"/> _____ ) (5) ● 案内板      ( * 図示 <input type="radio"/> _____ )																																

▷ 10. タラップ	(1) 材料の種類及び仕上げ (20. 2. 12) * ステンレス製SUS304 ( * 研磨等不要 ○ 研磨等 ) ○ アルミニウム合金製 ( * 研磨等不要 ○ 研磨等 ) ○ 鋼製 ( * 研磨等不要 ○ 研磨等 )																								
▷ 11. 煙突ライニング	(1) ○ 煙突用成型ライニング材 (20. 2. 13) 適用安全使用温度 : ○ °C (2) エ法 ( )																								
▷ 12. ブラインド	(1) ブラインドの形式 ○ 横形 ○ 縦形 (20. 2. 14) (2) 種類及び開閉方式等 * 図示																								
▷ 13. ロールスクリーン	(1) 操作方法 ○ スプリング式 (20. 2. 15) ○ コード式 (チェーン式) ○ 電動式 (2) 幅及び高さ * 図示 (3) 防炎性能等の材質や品質等 * 図示 (4) 巻取りパイプ、ウェイトバー、操作コード又は操作チェーンその他の材料 * 製造所の仕様による ○																								
▷ 14. カーテン及びカーテンレール	(1) カーテンのシングル・ダブルの別、引き分け等の形式、 (20. 2. 16) 開閉操作方式 : 図示による (2) カーテン用生地等 * 図示 (3) カーテンレール (20. 2. 16) * アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成型材																								
▷ 15. 肢体不自由者用手すり (既製)	(1) 材種 * ステンレス製 ○																								
▶ 16. 建物周囲砂利敷き及び軒下縁石	(2) 表面仕上 * 塩化ビニル樹脂又はナイロン樹脂 ○ HL 仕上 (1) 建物周囲の砂利敷きはB種とする。 (2) 軒下縁石の寸法及び断面は設計図面による。図面特記がなければ、コンクリートブロックの寸法120×150×600mmとし、基礎断面は下図による。 (21. 3. 1)																								
▶ 17. 点検口	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施工部位</th> <th>種</th> <th>寸 法 (mm)</th> <th>鍵</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">天井</td> <td>○ アルミニウム製</td> <td>○ 450×450</td> <td>○ あり</td> </tr> <tr> <td>○ 木製</td> <td>○ 600×600</td> <td>○ なし</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">床下</td> <td>● アルミニウム製</td> <td>○ 450×450</td> <td>○ あり</td> </tr> <tr> <td>○ 木製</td> <td>● 600×600</td> <td>● なし</td> </tr> <tr> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">○</td> <td>○ 450×450</td> <td>○ あり</td> </tr> <tr> <td>○ 600×600</td> <td>○ なし</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 床下点検口は裏面ウレタン発泡とする。</p>	施工部位	種	寸 法 (mm)	鍵	天井	○ アルミニウム製	○ 450×450	○ あり	○ 木製	○ 600×600	○ なし	床下	● アルミニウム製	○ 450×450	○ あり	○ 木製	● 600×600	● なし		○	○ 450×450	○ あり	○ 600×600	○ なし
施工部位	種	寸 法 (mm)	鍵																						
天井	○ アルミニウム製	○ 450×450	○ あり																						
	○ 木製	○ 600×600	○ なし																						
床下	● アルミニウム製	○ 450×450	○ あり																						
	○ 木製	● 600×600	● なし																						
	○	○ 450×450	○ あり																						
		○ 600×600	○ なし																						
▷ 18. 屋上緑化	(1) 植栽基盤 : (23. 5. 2) ○ 屋上緑化システム ○ 屋上緑化軽量システム (2) その他必要な事項は、図面による。図面に指示が無い場合は、システム製作所の仕様による。																								
▷ 19. 棟番号	図面図示の箇所に ( * 設置 ○ 記入 )																								
▶ 20. 換気口	室内 * プラスチック製 寸法φ150 床下 * 鋳鉄製 寸法160×375 ○ 樹脂製																								
▷ 21. 連絡板	BL規格品 ○ 6戸用 ○ 戸用																								



▷ 22. 家屋段階調査	<div>○ 次のそれぞれの工事終了後、家屋の調査を行うこと。</div> <div>○ 杭工事      ○ 土工事      ○ 躯体工事</div> <div>・ 調査は「補償コンサルタント登録規定（昭和59年9月21日建設省告示第1341号）」による事業損失部門に登録している業者に調査させること。</div> <div>・ 調査箇所は、当該敷地に隣接する敷地の家屋とする。 調査戸数 _____ 戸</div> <div>・ 調査内容は、工事監督員と協議すること。</div>
--------------	---

○	第21章	その他
---	------	-----

項 目	特 記 事 項
-----	---------

▷ 1. 概数等発注	<div>(1) 次に示した数量は概数であり、必要に応じて設計変更するものとする。 なお、設計に対して過大な出来高数量に変更するものではないことに留意すること。</div> <div>(2) この工事においては、設計変更図書の作成（設計変更図面の作成及び工事数量の算出）を受注者に行わせることがある。</div> <div>(3) 概数として取り扱っている事項の施工に当たっては、施工前に工事監督員と協議すること。 なお、数量の確認ができない場合を除き、施工前に数量を確定すること。</div> <div>(4) 概数として示した仮設工の工事数量は、標準的な工法により算出したものであるため、取り合い等によって新たに必要となる項目についても概数として取り扱うことがある。</div> <div>(5) 概数</div> <div>7. 工事数量総括表細目別内訳の備考欄に「概数」又は「概」と表示された項目・数量</div> <div>1. 次の項目・数量</div>
------------	---

区 分	設計数量（単位）		確定数量（単位）	
	積込・運搬量	処分量	積込・運搬量	処分量



## 工 事 概 要

項 目	特 記 事 項						
▶ 1. 電気工作物の種類	● 一般用電気工作物    ○ 事業用電気工作物(自家用電気工作物)						
▶ 2. 工事種目 【一般建物】							
名 称	新 営	改 修	施工の範囲				備 考
電灯設備	● 一式	○ 一式	● 配管	● 配線	● 器具付		
動力設備	○ 一式	○ 一式	○ 配管	○ 配線	○ 器具付		
電熱設備	○ 一式	○ 一式	○ 配管	○ 配線	○ 器具付		
雷保護設備	○ 一式	○ 一式					
受変電設備	○ 一式	○ 一式					
静止形電源設備	○ 一式	○ 一式					
発電設備	○ 一式	○ 一式					
構内情報通信網設備	○ 一式	○ 一式	○ 配管	○ 配線	○ 器具付		
構内交換設備	○ 一式	○ 一式	○ 配管	○ 配線	○ 器具付		
情報表示設備	○ 一式	○ 一式	○ 配管	○ 配線	○ 器具付		
映像音響設備	○ 一式	○ 一式	○ 配管	○ 配線	○ 器具付		
拡声設備	○ 一式	○ 一式	○ 配管	○ 配線	○ 器具付		
誘導支援設備	○ 一式	○ 一式	○ 配管	○ 配線	○ 器具付		
テレビ共同受信設備	○ 一式	○ 一式	○ 配管	○ 配線	○ 器具付		
火災報知設備	○ 一式	○ 一式	○ 配管	○ 配線	○ 器具付		
中央監視制御設備	○ 一式	○ 一式	○ 配管	○ 配線	○ 器具付		
防犯入退室管理設備	○ 一式	○ 一式	○ 配管	○ 配線	○ 器具付		
構内配電線路設備	● 一式	○ 一式	● 配管	● 配線	○ 器具付		
構内通信線路設備	○ 一式	○ 一式	○ 配管	○ 配線	○ 器具付		
【道営住宅】							
名 称	新 営	改 修	施工の範囲				備 考
電 灯 ・ コンセント設備 (住戸内)	○ 一式	○ 一式	○ 配管	○ 配線	○ 器具付		
動力設備	○ 一式	○ 一式	○ 配管	○ 配線	○ 器具付		
幹線設備	○ 一式	○ 一式	○ 配管	○ 配線	○ 器具付		
雷保護設備	○ 一式	○ 一式					
受変電設備	○ 一式	○ 一式					
共用電灯設備	○ 一式	○ 一式	○ 配管	○ 配線	○ 器具付		
電話配管配線設備	○ 一式	○ 一式	○ 配管	○ 配線	○ 器具付		
呼出設備	○ 一式	○ 一式	○ 配管	○ 配線	○ 器具付		
テレビ共同受信設備	○ 一式	○ 一式	○ 配管	○ 配線	○ 器具付		
火災報知設備	○ 一式	○ 一式	○ 配管	○ 配線	○ 器具付		
誘導支援設備	○ 一式	○ 一式	○ 配管	○ 配線	○ 器具付		
構内配電線路設備	○ 一式	○ 一式	○ 配管	○ 配線	○ 器具付		
構内通信線路設備	○ 一式	○ 一式	○ 配管	○ 配線	○ 器具付		
緊急通報設備	○ 一式	○ 一式	○ 配管	○ 配線	○ 器具付		
電波障害防除設備	○ 一式	○ 一式	○ 配管	○ 配線	○ 器具付		

▶ 3. 設備概要

本工事対象建築物の設備概要は下記のとおりとする。

なお、改修工事にあつては改修工事後の設備概要を示し、本工事の対象となっていない設備については記載していない。

引込（電力）      ☐ 架空            ☒ 地中

引込（通信）      ☐ 架空            ☐ 地中

受電方式            ☒ 低圧受電（ ☒ 電灯    ☐ 動力）  
☐ 高圧受電            \_\_\_\_\_ K V

受電設備            ☐ 非常電源専用受電設備  
☐ 屋内            ☐ 屋外  
☐ キュービクル式    ☐ 高圧スイッチギア  
変圧器    単相    計    \_\_\_\_\_ K V A  
                 三相    計    \_\_\_\_\_ K V A

自家発電装置      種別            ☐ ディーゼル機関  
   ☐ ガス機関  
   ☐ ガスタービン機関  
発電機出力            \_\_\_\_\_ K V A  
燃料            ☐ 軽油            ☐ A重油  
                         ☐ 灯油            ☐ 燃料ガス

その他発電装置    ☐ 燃料電池発電装置  
☐ 太陽光発電装置  
☐ 風力発電装置

直流電源装置      ☐ 鉛蓄電池            ☐ C S 形  
   ☐ P S 形  
   ☐ M S E 形  
   ☐ 長寿命 M S E 形  
   ☐ H S E 形  
☐ アルカリ蓄電池    ☐ ポケット式  
   ☐ 焼結式  
   ☐ 焼結式シール形

直流電源装置の用途      ☐ 受変電機器制御電源      ☐ 非常用照明

U P S 装置            ☐ 常時インバータ給電方式簡易形  
☐ 常時インバータ給電方式  
☐ ラインインタラクティブ方式  
☐ 常時商用給電方式

U P S 装置の用途（ \_\_\_\_\_ ）

照明制御装置        ☒ 人感センサ  
☐ 明るさセンサ            ☒ タイマ  
☐ その他（ \_\_\_\_\_ ）

幹線設備            電灯    ☐ 単相3線式200／100V    50Hz  
                         動力    ☐ 三相3線式200V    50Hz

電熱設備	ロードヒーティング	<input type="radio"/> 単相１００Ｖ <input type="radio"/> 単相２００Ｖ <input type="radio"/> 三相２００Ｖ
	フロアヒーティング	<input type="radio"/> 単相１００Ｖ <input type="radio"/> 単相２００Ｖ <input type="radio"/> 三相２００Ｖ
雷保護設備	受雷部	<input type="radio"/> 突針 <input type="radio"/> 水平導体又はメッシュ導体
	引き下げ導線システム	<input type="radio"/> 引下げ導線 <input type="radio"/> 構造体利用引下げ導線
構内情報通信網設備		
	インタフェース	<input type="radio"/> 100BASE-TX <input type="radio"/> 1000BASE-T <input type="radio"/> その他 ( _____ )
	機器	<input type="radio"/> L２スイッチ <input type="radio"/> L３スイッチ <input type="radio"/> ルーター <input type="radio"/> メディアコンバーター <input type="radio"/> その他 ( _____ )
構内交換設備		
	回線種別	<input type="radio"/> アナログ <input type="radio"/> INS <input type="radio"/> 専用線 <input type="radio"/> 光
	交換装置	<input type="radio"/> PBX <input type="radio"/> IP-PBX <input type="radio"/> VoIPサーバー <input type="radio"/> クラウド
	実装数／容量数	局線数 _____ 内線数 _____
	電話機	<input type="radio"/> 一般形 <input type="radio"/> 多機能形 <input type="radio"/> 停電用 <input type="radio"/> IP電話機 <input type="radio"/> IP電話機(PoE給電)
情報表示設備	<input type="radio"/> マルチサイン装置 <input type="radio"/> 出退表示装置 <input type="radio"/> 時計表示装置      出力回線数 _____ 回線	
映像音響設備	<input type="radio"/> 有り <input type="radio"/> 無し	
拡声設備	<input type="radio"/> Hi形増幅器      増幅器容量 _____ W <input type="radio"/> 一般放送用 <input type="radio"/> 非常放送用 <input type="radio"/> 遠隔操作器      _____ 箇所	
誘導支援設備	<input type="radio"/> 音声誘導装置 <input type="radio"/> インターホン 其他機器 <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-left: 10px;"> <div style="display: inline-block; vertical-align: middle;"> <input type="radio"/> テレビインターホン  <input type="radio"/> 外部受付用インターホン  <input type="radio"/> トイレ等呼出装置  <input type="radio"/> 受付呼出装置           </div> <div style="font-size: 3em; vertical-align: middle; margin: 0 5px;">[</div> </div>	
テレビ共同受信設備	アンテナ	<input type="radio"/> UHF <input type="radio"/> BS・110°CS <input type="radio"/> CS

火災報知設備

(1) 自動火災報知設備

受信機 \_\_\_\_\_ 形 \_\_\_\_\_ 級 \_\_\_\_\_ 回線

- ☐ 単独盤                      ☐ 複合盤  
☐ 壁掛形                      ☐ 自立形

副受信機 \_\_\_\_\_ 台 \_\_\_\_\_ 回線

- ☐ 自動試験機能                      ☐ 遠隔試験機能  
☐ G P 型 3 級受信機 (住戸内)

発信機 \_\_\_\_\_ 形 \_\_\_\_\_ 級                      ☐ 組込形                      ☐ 露出形

警報ベル                      ☐ 露出形                      ☐ 組込形

総合盤                      ☐ 単独 (                      ☐ 露出                      ☐ 埋込)

☐ 消火栓箱組込形                      (消火栓箱は別途工事)

(2) 自動閉鎖設備

自動閉鎖装置連動制御器                      ☐ 単独盤                      ☐ 複合盤

(3) 非常警報設備

- ☐ 一体型                      ☐ 複合型  
☐ その他 (                      ☐ 非常ベル                      ☐ 表示灯                      ☐ 起動装置)

(4) ガス漏れ警報設備

☐ 電気設備工事で設置                      ☐ 機械設備工事で設置

施工の範囲                      ☐ 配管                      ☐ 配線

☐ 基台 (警報機は別途)

☐ 器具付け

基台は警報出力接点付き、アダプター付きとする。

ガス種別                      ☐ L P G                      ☐ 都市ガス

中央監視装置

- ☐ 警報盤  
☐ 簡易型監視制御装置  
☐ 監視制御装置

防犯入退室  
管理設備

- ☐ センサ                      ☐ マグネットスイッチ  
☐ バイブレーションスイッチ  
☐ パッシブセンサ  
☐ 制御部                      ☐ キースイッチ  
☐ 暗証番号入力装置  
☐ 磁気カード  
☐ I C カード  
☐ 機器類は施設管理者リース品である。

外灯設備

☐ 架空                      ☐ 地中

ポール種別

- ☐ 鋼製塗装                      ☐ アルミ                      ☐ 溶融亜鉛メッキ塗装  
☐ 埋込式                      ☐ ベースプレート式

ランプ

- ☐ L E D  
☐ その他 ( \_\_\_\_\_ )

点滅方式

- ☐ 自動式 (                      ☐ 自動点滅器                      ☐ タイマ )  
☐ 手動式

電波障害防除設備

施工方法                      ☐ 架空配線式                      ☐ 地中配線式

☐ アンテナ対策                      ☐ C A T V

受信点                      ☐ 当該施設のテレビアンテナより分岐

☐ 新設

☐ 既設電波障害防除施設より分岐



- (3) 概数として取り扱っている事項の施工に当たっては施工前に工事監督員と協議すること。

なお、数量の確認ができない場合を除き、施工前に数量を確定すること

- (4) 概数として示した仮設工の工事数量は、標準的な工法により算出したものであるため、取り合い等によって新たに必要となる項目についても概数として取り扱うことがある。

- (5) 概数

7. 工事数量総括表細目別内訳又は別紙明細の備考欄に「概数」又は「概」と表示された項目・数量

4. 次の項目・数量

区 分	設計数量（単位）		確定数量（単位）	
接地棒 14φx1,500L	2.0	本		
接地線 EM-IE5.5x1	1.0	m		
	積込・運搬量	処分量	積込・運搬量	処分量

▷ 15. 耐震措置

- (1) 「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」（日本建築センター発行）に基づき、耐震施工を行う。（100kgを超える機器については、計算書を提出すること）

○ 一般の施設    ○ 特定の施設    ○ 甲類    ○ 乙類

① 局部震度法による建築設備機器（水槽類を除く）の設計用標準水平震度（Ks）

設置場所	耐震安全性の分類			
	特定の施設		一般の施設	
	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階	2.0	1.5	1.5	1.0
屋上及び塔屋	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(1.5)
中間階	1.5	1.0	1.0	0.6
	(1.5)	(1.5)	(1.5)	(1.0)
1階及び地下階	1.0	0.6	0.6	0.4
	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(0.6)

(注) ( ) 内の数値は防振支持機器の場合に適用する

② 局部震度法による水槽類の設計用標準水平震度（Ks）

設置場所	耐震安全性の分類			
	特定の施設		一般の施設	
	重要水槽	一般水槽	重要水槽	一般水槽
上層階	2.0	1.5	1.5	1.0
屋上及び塔屋				
中間階	1.5	1.0	1.0	0.6
1階及び地下階	1.5	1.0	1.0	0.6

重要機器は、次のいずれかに該当するものをいう。また、一般機器とは重要機器以外をいう

	<p>イ. 災害応急対策活動に必要な施設等において、施設目的に応じた活動を行うために必要な設備機器</p> <p>ロ. 危険物を貯蔵又は使用する施設において、危険物による被害を防止するための設備機器</p> <p>ハ. 避難、消火等の防災機能を果たす設備機器</p> <p>ニ. 火災、水害、避難の障害等の二次災害を引き起こす恐れのある設備機器</p> <p>ホ. その他これらに類する機器 重要水槽とは重要機器として扱う水槽類、一般水槽とは一般機器として扱う水槽類を示す また、水槽類にはオイルタンク等を含む</p> <p>(2) あと施工アンカーの場合は、監督員と事前協議の上使用すること。 次の設備は防災電源（非常電源）として関係法令等に適合したものであること。</p> <p>○ キュービクル等    ○ 蓄電池    ○ 発電装置</p> <p>図中に特記がある場合、及び住戸内を除き「電気設備工事（配・分電盤等）標準仕様書 北海道建設部建築局建築整備課令和元年版」を適用する。</p>
▷ 16. 防災電源（非常電源）	
▷ 17. 配分電盤・端子盤類	
▶ 18. 塗装工事	<p>金属管の塗装箇所      * 無し</p> <p>○ 有り（ _____ ）</p>
▶ 19. 電線及びケーブル	<p>環境配慮形を使用することを原則とする。</p>
▷ 20. 直線接続材（低圧）	<p>標準仕様書に記載のあるほか下記による。</p> <p>* J C A A A 1 0 2                  * J C A A K 1 1 0 1</p>
▷ 21. 直線接続材（高圧）	<p>標準仕様書に記載のあるほか下記による。</p> <p>* J C A A A 3 0 5</p>
▶ 22. 位置ボックス	<p>図面に特記がある場合を除き標準仕様書の使用区分による。</p> <p>● 気密処理を行う。</p>
▶ 23. 配線器具用プレート	<p>図中に特記がない場合は下記による。</p> <p>住戸内      ○ 合成樹脂製</p> <p>その他      ○ アルミ合金製                  ○ 合成樹脂製</p> <p>● ステンレス製                  ○ ネジ止め</p>
▷ 24. フロアプレート	<p>床ボックスに取付のもの（二重床を除く）は水平高低調整形プレートを用いる。</p>
▷ 25. つりボルト	<p>床下ピット等の湿気のある場所に使用するつりボルトは亜鉛メッキ又はステンレス製とする。</p>
▶ 26. ボルト・ナット等	<p>屋外又はそれに類する場所で使用するボルト、ナット等は亜鉛メッキ又はステンレス製とする。</p>
▷ 27. プルボックス	<p>天井内隠蔽部分及び高所取付のプルボックスの蓋に用いるビスは脱落防止ビスとする。</p>
▶ 28. 結露防止	<p>(1) 断熱材は可能な限り欠損させないこと。ただしこれによりがたい場合は、同等以上の処理を行う。</p> <p>(2) 断熱処理箇所を使用するインサートは断熱インサートとする。</p>
▷ 29. 呼び線	<p>長さ1m以上の通線を行わない配管には、導入線（樹脂被覆鉄線等）を挿入する。</p>



● 電力設備工事

項 目	特 記 事 項																																
▷ 1. フロアコンセント	床： ○ アップ形                      ○ プラグ収納形 ○ 上下可動形                      ○ ハイテンションアウトレット 床（○Aフロア）： ○ アップ形                      ○ プラグ収納形 ○ ハーネス式 材質： ○ アルミ合金                      ○ 銅合金                      ○ 樹脂 床（ステージ）： ○ プラグ収納形（アルミ合金鋳物プレート製）																																
▶ 2. タンブラスイッチ	● 大角形連用 （ ○ 住戸内                      ● 共用部                      ○                      ） ○ ワイドハンドル形 （ ○ 住戸内                      ○ 共用部                      ○                      ） 道営住宅階段用は位置表示灯付きとする。																																
▶ 3. コンセント	特殊コンセントは表示及びプラグ付きとする。 ● 大角形連用 （ ○ 住戸内                      ● 共用部                      ○                      ） ○ ワイド形 （ ○ 住戸内    ○                      ） ● 単一形 （ ○ 住戸内                      ● 共用部                      ○                      ）																																
▷ 4. 住戸内分電盤 【道営住宅】	住戸内の分電盤は、樹脂製でリミッタースペース付きとし、主幹ブレーカーは中性線欠相保護機能付漏電遮断器とする。																																
▷ 5. インバータ装置の 規約効率	三相可変速電動機用インバータ装置の規約効率は、原則として下表の数値以上とする。 <table><tr><td></td><td>0.4</td><td>0.75</td><td>1.5</td><td>2.2</td><td>3.7</td><td>5.5</td><td>7.5</td></tr><tr><td>インバ<sup>＊</sup>タ効率(%)</td><td>85.0</td><td>87.0</td><td>88.5</td><td>89.5</td><td>90.0</td><td>90.5</td><td>91.0</td></tr></table> <table><tr><td>電動機出力(kW)</td><td>11</td><td>15</td><td>18.5</td><td>22</td><td>30</td><td>37</td><td>45</td></tr><tr><td>インバ<sup>＊</sup>タ効率(%)</td><td>91.5</td><td>92.0</td><td>92.5</td><td>93.0</td><td>93.5</td><td>94.0</td><td>94.5</td></tr></table> ・電動機の供給電圧は200V又は400V ・インバータ効率は100％負荷時の効率		0.4	0.75	1.5	2.2	3.7	5.5	7.5	インバ <sup>＊</sup> タ効率(%)	85.0	87.0	88.5	89.5	90.0	90.5	91.0	電動機出力(kW)	11	15	18.5	22	30	37	45	インバ <sup>＊</sup> タ効率(%)	91.5	92.0	92.5	93.0	93.5	94.0	94.5
	0.4	0.75	1.5	2.2	3.7	5.5	7.5																										
インバ <sup>＊</sup> タ効率(%)	85.0	87.0	88.5	89.5	90.0	90.5	91.0																										
電動機出力(kW)	11	15	18.5	22	30	37	45																										
インバ <sup>＊</sup> タ効率(%)	91.5	92.0	92.5	93.0	93.5	94.0	94.5																										
▷ 6. 雷保護設備適用規格	○ J I S A 4 2 0 1 : 2 0 0 3 保護レベル                      ○ I                      ○ II                      ○ III                      ○ IV ○ J I S A 4 2 0 1 : 1 9 9 2																																
▷ 7. 幹線                      【道営住宅】	○ プレハブケーブル                      ○ EM-CETケーブル                      ○ I E																																
▶ 8. 接地極	A種・B種・C種接地は銅板（900×900×1.5t）とし、それ以外の接地は銅又は銅覆鋼製接地棒とする。 (2) 接地極上端の埋設深さは、凍結深度以上とする。ただし、凍結深度0.75m未満の場合は、埋設深さを0.75mとする。																																
▶ 9. 接地極埋設標	形状は、140H×90W×1.0tとし、文字は刻記、腐食加工とし、設置者名は「北海道」とする。 材質はステンレス製とする。																																
▶ 10. 分電盤等の予備配管	予備の配線用遮断器が4個以下の場合は、（PF22）相当を1本以上、5個以上の場合は、（PF22）相当を2本以上を二重天井内まで立ち上げるものとする。ただし、シャフト内は適用しない。																																
▷ 11. 電動機等への接続	別途工事の電動機等への配線接続は本工事とする。																																

▷ 12. 住戸内の屋内配管及びボックス	○ 内装プレハブ（該当箇所の配管及びボックスについて、専門業者と協議すること。）
▶ 13. 一般照明の照度測定	○ 内装在来工法 明るさセンサによる照度制御をおこなう室については、JIS C 7612「照度測定方法」に準拠し、照度測定をおこなうこと。 測定箇所については、監督員と協議の上決定すること。

●	構内配電線路設備 構内通信線路設備
---	----------------------

項 目	特 記 事 項
▶ 1. 標識シート	(1) シートは、繊維補強付樹脂シートとし、2倍以上重ね合わせ、おおむね2mの間隔で用途又は電圧種別（通信線路は用途）を表示する。
▶ 2. ケーブル標識	(2) 埋設シートを設ける範囲は次による。 ○ 高圧又は特別高圧      ● 低圧      ○ 通信線路 高圧用・低圧用；コンクリート製（80角×300）の頂部に矢印（赤）を刻印したもの。 通信用；コンクリート製（80角×300）の頂部に矢印（黄）を刻印したもの。 鉄製（舗装面用）；25φ
▷ 3. 高圧柱上機器仕様	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div> <u>        </u> K V </div> <div> <u>        </u> A </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div>○ 耐塩形</div> <div>○ 重耐塩形</div> <div>○ 過電流ロック付</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div>○ 地絡保護装置付</div> <div>○ 密閉形</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div>○ 耐塩形</div> <div>○ 重耐塩形</div> </div>
▷ 4. 高圧ケーブルの屋外端末処理仕様	
▷ 5. 端末処理者銘板	屋内外とも、高圧ケーブルの端末処理者銘板を取り付けること。
▷ 6. ハンドホール	ハンドホールにケーブル支持金物（亜鉛メッキ軽量形鋼同等品）を2本以上取り付け、接地する。（低圧を除く）
▷ 7. ケーブル保護管	内外面溶融亜鉛めっき厚鋼電線管とする。（土中は防食テープ巻き）
▷ 8. 外灯遮断方式	外灯ポール内には配線用遮断器（防水仕様）を設置する。
▷ 9. 外灯金属部の接地	ポールごとに接地極を設置する。
▷ 10. 土工	発生土等の処理 ○ 構外搬出（約 <u>                </u> km） 捨て場所（ <u>  </u> ） 捨て土ならし      ○ 有り      ○ 無し ○ 構内敷ならし      ○ 構内指示場所に堆積 埋め戻し ○ 掘削土の良質土      ○ （ <u>  </u> ） 管周囲の保護 ○ 山砂      ○ 掘削土の良質土

● 機器取り付け高さ

項 目		特 記 事 項	
▶ 1. 機器の取付高さは図示のほか下記を標準とする。			
【一般建物】			
	名 称	測 定	取 付 高 (mm)
共 電 通 力	取引用計器	地上～窓中心	1, 8 0 0～2, 0 0 0
	引込開閉器	床上～中心	1, 8 0 0
電  灯	分電盤	〃	1, 5 0 0 (上端 1, 9 0 0 以下)
	スイッチ	〃	1, 1 5 0
	コンセント (一般)	〃	5 0 0
	〃 (和室)	〃	2 0 0
	〃 (台上)	台上～中心	1 5 0
	〃 (土間)	床上～中心	8 0 0～1, 3 0 0
	ブラケット (一般)	〃	2, 1 0 0～2, 5 0 0
	〃 (踊場)	〃	2, 5 0 0
	〃 (鏡上)	鏡上端～中心	1 5 0
動 力	壁掛形制御盤	床上～中心	1, 5 0 0 (上端 1, 9 0 0 以下)
	開閉器箱	〃	1, 5 0 0
	操作スイッチ	〃	1, 3 0 0
電  話	端子盤	床上～下端	5 0 0
	保安器箱	床上～中心	2, 0 0 0
	壁付位置ボックス	〃	5 0 0
	〃 (和室)	〃	2 0 0
	壁付インターホン	〃	1, 1 5 0
	壁付位置ボックス	〃	1, 1 5 0
	〃 (和室)	〃	2 0 0
時 計 拡 声	壁掛形親時計	〃	1, 5 0 0 (上端 1, 9 0 0 以下)
	子時計	〃	2, 3 0 0
	壁掛形スピーカ	〃	2, 3 0 0
	アッテネーター	〃	1, 1 5 0
表  示	表示盤	〃	2, 3 0 0
	壁付発信器	〃	1, 1 5 0
	ベル・ブザー・チャイム	〃	2, 3 0 0
	壁付ボタン	〃	1, 1 5 0
	多目的便所呼出ボタン	〃	1, 0 0 0
共 同 レ ビ 受 信 機	分配器箱	床上～上端	1, 9 0 0
	テレビアウトレット	床上～中心	5 0 0
	〃 (和室)	〃	2 0 0
	収容箱	床上～上端	1, 9 0 0
火 災 報 知	受信機・副受信機	床上～中心	1, 5 0 0
	総合盤	〃	1, 3 0 0
	発信機	〃	1, 3 0 0
	電鈴	〃	2, 3 0 0

【道営住宅】

	名 称	測 定	取 付 高 (mm)
電 灯	分電盤(共用等)	床上～中心	1, 500～2, 100
	分電盤(住戸用一般)	"	1, 650
	分電盤(住戸用 車いす対応)	"	1, 200
	スイッチ	"	1, 000
	コンセント(一般)	"	400
	" (和室)	"	300
	" (台上)	台上～中心	150
	" (冷蔵庫用)	床上～中心	1, 800
	" (給湯器・洗面台用)	"	1, 300
	ブラケット(一般)	"	2, 100～2, 500
	" (踊場)	"	2, 500
電 話	壁付位置ボックス	床上～中心	400
	" (和室)	"	300
表 示	壁付発信器	"	1, 000
	ベル・ブザー・チャイム	"	1, 900～2, 300
	多目的便所呼出ボタン	"	1, 000
イ ン タ ー ホ ン	壁付インターホン	"	1, 000
	壁付位置ボックス	"	1, 000
共 同 レ ビ 受 信 機	テレビアウトレット	"	400
	" (和室)	"	300
火 災 報 知	受信機	床上～操作部	800～1, 500

●	工 事 概 要
---	---------

項 目	特 記 事 項			
▶ 1. 工事種目	名 称	新 設	改 修	摘 要
	空気調和設備工事	○ 一式	○ 一式	
	暖 房 設 備 工 事	● 一式	○ 一式	
	冷 房 設 備 工 事	○ 一式	○ 一式	
	換 気 設 備 工 事	● 一式	○ 一式	
	排 煙 設 備 工 事	○ 一式	○ 一式	
	給 油 設 備 工 事	○ 一式	○ 一式	
	自動制御設備工事	○ 一式	○ 一式	
	屋外給水設備工事	● 一式	○ 一式	済
	屋内給水設備工事	● 一式	○ 一式	
	屋外排水設備工事	● 一式	○ 一式	済
	屋内排水設備工事	● 一式	○ 一式	
	屋内給湯設備工事	○ 一式	○ 一式	
	衛生器具設備工事	● 一式	○ 一式	
	消 火 設 備 工 事	○ 一式	○ 一式	
	屋外ガス設備工事	○ 一式	○ 一式	
	屋内ガス設備工事	○ 一式	○ 一式	
		○ 一式	○ 一式	
		○ 一式	○ 一式	
		○ 一式	○ 一式	

※ 種目は●印を付したものを適用する

※ 空気調和設備工事とは、空調機等を設置し暖冷房を行う工事をいう

※ 暖房設備工事とは、直暖や個別暖房のみの工事をいう

※ 冷房設備工事とは、個別冷房のみの工事をいう

● 機械設備共通事項

項 目	特 記 事 項																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
▶ 1. 配管 1) 配管材料																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">管 種</th><th colspan="13">施 工 区 分</th></tr> <tr> <th>冷 温 水</th><th>冷 却 水</th><th>蒸 気</th><th>温 水</th><th>給 油</th><th>冷 媒</th><th>給 水</th><th>給 湯</th><th>排 水</th><th>通 気</th><th>消 火</th><th>ガ ス</th><th>雨 水</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>○ 配管用炭素鋼鋼管(白)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○ " (黒)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○ 圧力配管用炭素鋼鋼管(黒)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○ 塩ビライニング鋼管(V A)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○ " (V B)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○ 排水用塩ビライニング鋼管</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○ 耐熱性塩ビライニング鋼管</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○ 外面被覆鋼管</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○ ナイロンコーティング鋼管</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>● ステンレス鋼管</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>●</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○ 銅管(M)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○ 保温付被覆鋼管</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○ 被覆鋼管</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>● ビニル管(V P)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○ " (V U)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○ 樹脂管</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○ 耐火二層管</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>● ポリエチレン管</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>●</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○ 合成樹脂製可とう電線管</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○ 鉛管</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○ コンクリート管</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○ 鋳鉄管</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	管 種	施 工 区 分													冷 温 水	冷 却 水	蒸 気	温 水	給 油	冷 媒	給 水	給 湯	排 水	通 気	消 火	ガ ス	雨 水	○ 配管用炭素鋼鋼管(白)														○ " (黒)														○ 圧力配管用炭素鋼鋼管(黒)														○ 塩ビライニング鋼管(V A)														○ " (V B)														○ 排水用塩ビライニング鋼管														○ 耐熱性塩ビライニング鋼管														○ 外面被覆鋼管														○ ナイロンコーティング鋼管														● ステンレス鋼管							●							○ 銅管(M)														○ 保温付被覆鋼管														○ 被覆鋼管														● ビニル管(V P)								●	●	●				○ " (V U)														○ 樹脂管														○ 耐火二層管														● ポリエチレン管							●							○ 合成樹脂製可とう電線管														○ 鉛管														○ コンクリート管														○ 鋳鉄管														○														○														<p>※ 該当項目に●印をつける。</p> <p>2列書きになっている部分は左側屋外配管、右側屋内配管とする 水道直圧及び高置タンクまでは10kとし、他は各種配管の水圧検査圧力値を超える最高許容圧力を有するバルブとする</p> <p>配管途中若しくは隠ぺい、埋戻し前又は配管完了後の塗装又は被覆施工前に行う</p> <p>圧力値、保持時間は、標準仕様書第2編 2.9.2から2.9.5による 試験終了後、報告書を工事監督員に提出すること</p> <p>4) ねじ加工 ( 蒸気還水管 )</p> <p>5) ステンレス鋼管継手の種類</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 類</th><th>冷 温 水</th><th>冷 却 水</th><th>温 水</th><th>給 水</th><th>給 湯</th><th>消 火</th><th>備 考</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>● プレス</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>ダブルプレス</td></tr> <tr><td>○ 拡管式</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○ 溶接</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○ ハウジング継手</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	種 類	冷 温 水	冷 却 水	温 水	給 水	給 湯	消 火	備 考	● プレス							ダブルプレス	○ 拡管式								○ 溶接								○ ハウジング継手							
管 種		施 工 区 分																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	冷 温 水	冷 却 水	蒸 気	温 水	給 油	冷 媒	給 水	給 湯	排 水	通 気	消 火	ガ ス	雨 水																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
○ 配管用炭素鋼鋼管(白)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
○ " (黒)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
○ 圧力配管用炭素鋼鋼管(黒)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
○ 塩ビライニング鋼管(V A)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
○ " (V B)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
○ 排水用塩ビライニング鋼管																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
○ 耐熱性塩ビライニング鋼管																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
○ 外面被覆鋼管																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
○ ナイロンコーティング鋼管																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
● ステンレス鋼管							●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
○ 銅管(M)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
○ 保温付被覆鋼管																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
○ 被覆鋼管																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
● ビニル管(V P)								●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
○ " (V U)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
○ 樹脂管																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
○ 耐火二層管																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
● ポリエチレン管							●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
○ 合成樹脂製可とう電線管																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
○ 鉛管																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
○ コンクリート管																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
○ 鋳鉄管																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
種 類	冷 温 水	冷 却 水	温 水	給 水	給 湯	消 火	備 考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
● プレス							ダブルプレス																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
○ 拡管式																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
○ 溶接																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
○ ハウジング継手																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				

## 6) 埋設配管

- 防食処理 ○ 土中  
 ○ ペトロラタム系防食テープ ( )  
 ○ ブチルゴム系絶縁テープ ( )  
 ○ コンクリート内  
 ○ プラスチックテープ ( )

地中埋設標・埋設表示テープ・屋外配管埋設深さ

	地中埋設標		埋設表示テープ		屋外配管埋設深さ		
					車両道路	道路以外	凍結深度
給水配管	●	要	●	要	GL- m以上	GL-0.8m以上	GL-0.6m以上
	○	不要	○	不要			
ガス配管	○	要	○	要	GL-0.6m以上	GL-0.3m以上	
	○	不要	○	不要			
油配管	○	要	○	要	GL-0.6m以上	GL-0.3m以上	
	○	不要	○	不要			

要の場合、地中埋設標は図示する箇所、埋設表示テープは屋外埋設配管部分に適用する

## 7) 溶接部の検査

- 目視検査 ○ 非破壊検査 (溶接部の種類 : )  
 (検査の種類 : )  
 (配管種別 : )  
 (使用圧力 : )  
 (抜き取り率 : )

詳細は標準仕様書の当該事項による

## 8) 配管洗浄

- 冷温水管 ● 給水管 ( ○ 1次側 ● 2次側 )  
 ○ 冷却水管 ○ 給湯管 ○ 受水タンク ○ 高置タンク  
 ○ 貯湯タンク ○ 給湯用膨張タンク  
 高周波洗浄もしくは同等以上の方法による  
 飲料水管の場合は、端末において遊離残留塩素が0.2mg/L以上検出されるまで消毒を行う

## ▶ 2. 保温

標準仕様書第2編3.1.4及び5のうち保温材及び外装材は次による  
 断熱材は、特定フロン、代替フロン等、オゾン層を破壊する物質を含有していないこと

## 1) 配管

- 保温材 ○ グラスウール ( )  
 ○ ロックウール ( )  
 ● ポリスチレンフォーム ( )
- 外装材 ⅴ) 屋内露出  
 ○ 合成樹脂製カバー ( )  
 ○ アルミガラスクロス ( )  
 ○ その他 ( ) ( )
- ⅵ) 機械室・書庫・倉庫  
 ○ アルミガラスクロス ( )  
 ○ その他 ( ) ( )
- ⅶ) 天井内・パイプシャフト内及び空隙壁中  
 ● アルミガラスクロス ( )  
 ○ その他 ( ) ( )
- ⅷ) 床下・暗渠内  
 ● 着色アルミガラスクロス ( )  
 ○ アルマツト ( )  
 ○ 保温なし ( )  
 ○ その他 ( )

2) ダクト

外気取入用ダクト及び排気用ダクトは保温を行う

保温材

☐ グラスウール ( )  
☐ ロックウール ( )  
☐ ポリスチレンフォーム ( )  
☐ その他 ( )

外装材

イ) 屋内露出

☐ 合成樹脂製カバー ☐ カラー亜鉛鉄板  
☐ 溶融アルミニウム—亜鉛鉄板 ☐ ステンレス鋼板  
☐ アルミガラスクロス ☐ その他 ( )

ロ) 機械室・書庫・倉庫

☐ アルミガラスクロス ☐ カラー亜鉛鉄板  
☐ 溶融アルミニウム—亜鉛鉄板 ☐ ステンレス鋼板  
☐ 合成樹脂製カバー ☐ その他 ( )

ハ) 天井内・パイプシャフト内及び空隙壁中

☐ アルミガラスクロス  
☐ その他 ( )

ニ) 外気取入用ダクト及び排気用ダクト

☐ アルミガラスクロス  
☐ その他 ( )

範囲

イ) 外気取入用ダクト ・ 全て

ロ) 排気用ダクト ☐ 全て

☐ その他 ( 外壁より1.5m以内 )

3) 機器類

☐ 冷温水ヘッダー ☐ 冷水ヘッダー ☐ 冷温水タンク  
☐ 冷水タンク ☐ 温水タンク ☐ 蒸気ヘッダー  
☐ 温水ヘッダー ☐ 熱交換器 ☐ 還水タンク  
☐ 膨張タンク

保温材

☐ グラスウール ☐ ロックウール  
☐ その他 ( )

外装材

☐ カラー亜鉛鉄板 ☐ 溶融アルミニウム—亜鉛鉄板  
☐ ステンレス鋼板 ☐ その他 ( )

4) 冷媒被覆銅管

外 径	6.35	9.52	12.7	～	50.8
被覆厚					

5) 煙道  
排気筒

保温材

☐ ロックウール ☐ その他 ( )

外装材

☐ カラー亜鉛鉄板 ☐ 溶融アルミニウム—亜鉛鉄板  
☐ ステンレス鋼板 ☐ その他 ( )

6) 消音内貼り

施工方法は標準仕様書の当該事項による

施工箇所は図示したダクト及びチャンパー類とする

使用材料

☐ グラスウール ☐ その他 ( )

厚さ

☐ 25mm ☐ 50mm

消音内貼チャンパーの寸法は外法寸法とする

ラス押え

☐ 有 ( ) ☐ 無

イ. 屋内露出は、室内環境対応・配慮形塗料又は水性系塗料の合成樹脂調合ペイントとする。

但し煙道、煙突は耐熱塗装とする。

ロ. 裸管

☐ 合成樹脂調合ペイント ☐ アルミニウムペイント  
・ 蒸気管 機械室内は、アルミニウムペイント  
居室及び隠ぺいは、さび止めペイント

ハ. 支持金物及び架台類

☐ 合成樹脂調合ペイント ☐ アルミニウムペイント

ニ. ダクト

☐ 合成樹脂調合ペイント

ホ. その他

☐ アルミニウムペイント ☐ 調合ペイント

▶ 3. 塗装

イ. 屋内露出は、室内環境対応・配慮形塗料又は水性系塗料の合成樹脂調合ペイントとする。

但し煙道、煙突は耐熱塗装とする。

▶ 4. ダクト及びダクト付属品

1) ダクト

方式

☐ 低圧 ☐ 高圧1 ☐ 高圧2  
☐ その他 ( )

工法

☐ アングルフランジ ( )  
☐ コーナーボルト ( )  
( ☐ 共板フランジ ☐ スライドオンフランジ )

Page(80 / 87)

機械設備202304適用



	種別	○ 鉄板 ( ) ○ スパイラルダクト ( ) ● 硬質塩化ビニル管 (VU) ( ) ○ 矩形 (アングルダクト工法) ( ) ○ その他 ( )
2) チャンバー等	イ. 外壁に面するガラリに直接取付けるチャンバー、ホッパーには排水を設ける ロ. シーリングディフューザーには下記の接続ボックスを設ける イ) ネック径200φ以下 : 400×400×250H ロ) " 200φをこえるもの : 500×500×300H ハ. 線状吹出口には、下記の接続ボックスを設ける イ) BL-S、BL-D : 200×(長さ+100)×300H ロ) BL-T、BL-K : 250×(長さ+100)×300H ニ. 天井付制気口には、特記なき場合(制気口寸法+100)×250Hの接続ボックスを設ける	
3) 防雪フード	イ. 材質 ステンレス鋼板製 ○ SUS430 ● SUS304 ○ その他 ( ) ロ. 板厚 ( ) mm	
4) 排気フード	イ. 幕板 ○ 本工事 ステンレス鋼板製 ○ SUS430 ○ SUS304 ○ 別途工事 ○ ( ) mm	
5) セルフード	● 丸形フード ○ 防風形フード ○ その他 ( ) 材質 ● ステンレス製 ○ アルミニウム製 ○ その他 ( )	
6) 風量測定口	取付箇所 1. 特記した風量調整ダンパーの上流又は下流 2. 送排風機、空調機に近接した風道の部分 3. 外気取入風道の部分 4. その他指定部分	
▶ 5. 制気口	1) 吹出口・吸込口 材質 ● 樹脂製 ( ) ○ 鋼板製 ○ アルミニウム材製 ○ その他 ( )	
▶ 6. 貫通部の処理	1) 穴埋補修 穴埋補修は無収縮モルタル又はロックウール保温材で補修する なお、ロックウール保温材の場合は脱落防止の措置を施す 2) 防火区画の処理 イ. 不燃材料の配管で貫通する場合は、その隙間をモルタル又はロックウール保温材で埋める ロ. 不燃材料以外の配管で貫通する場合は、建築基準法令に適合する工法とする ハ. スパンドレイルについてセルフフードは抵触しない事	

▶ 7. 吊り及び支持

▶ 8. スリーブ

▷ 9. はつり及び穴あけ  
(改修工事等)

▷ 10. インサート  
及びアンカー

▷ 11. 耐震措置

イ. インサート金物は、吊りボルトに対し、適正なサイズのものを選  
定する

ロ. 断熱材使用箇所におけるインサート金物は、断熱インサート金物  
とする

ハ. 吊り用ボルトは、ピット内及び床下は被覆全ねじ又は丸鋼とする

イ. 標準仕様書（第2編 第2章の2.2.27）による

ロ. 外壁の地中部分で水密を要する部分のスリーブ  
※つば付き鋼管スリーブ  
○非加硫ブチルゴム系止水材（使用部位：                    ）

既存のコンクリート床、壁等の配管貫通部の穴あけは、原則として、  
ダイヤモンドカッターによる

口径は、原則として管の外径（保温されるものにあつては保温材の厚  
さを含む）より20mm程度大きなものとする

改修工事において、既存のインサート及びアンカーボルトは、原則と  
して、使用しない。やむを得ず既存のインサート及びアンカーを再使用  
する場合は、状態及び強度を確認し、十分に清掃を行ってから使用す  
る。

また、引張強度の確認試験については、工事監督員と協議する

機器の固定  
アンカーの耐震計算を行う機器等  
\* 工事監督員と協議する  
○ 無し

確認試験  
イ. あと施工アンカーの性能確認試験      ○ 行う      \* 行わない  
ロ. あと施工アンカーの施工後確認試験  
\* 行う      確認強度は工事監督員と協議する  
○ 行わない

「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」（日本建築センター発  
行）に基づき、耐震施工を行う

○ 一般の施設      ○ 特定の施設      ○ 甲類      ○ 乙類

(1) 局部震度法による建築設備機器（水槽類を除く）の設計用標準  
水平震度（Ks）

設置場所	耐震安全性の分類			
	特定の施設		一般の施設	
	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階	2.0	1.5	1.5	1.0
屋上及び塔屋	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(1.5)
中間階	1.5	1.0	1.0	0.6
	(1.5)	(1.5)	(1.5)	(1.0)
1階及び	1.0	0.6	0.6	0.4
地下階	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(0.6)

(注) (    ) 内の数値は防振支持機器の場合に適用する

(2) 局部震度法による水槽類の設計用標準水平震度（Ks）

設置場所	耐震安全性の分類			
	特定の施設		一般の施設	
	重要水槽	一般水槽	重要水槽	一般水槽
上層階	2.0	1.5	1.5	1.0
屋上及び塔屋				
中間階	1.5	1.0	1.0	0.6
1階及び	1.5	1.0	1.0	0.6
地下階				

	<p>重要機器は、次のいずれかに該当するものをいう。また、一般機器とは重要機器以外をいう</p> <p>イ. 災害応急対策活動に必要な施設等において、施設目的に応じた活動を行うために必要な設備機器</p> <p>ロ. 危険物を貯蔵又は使用する施設において、危険物による被害を防止するための設備機器</p> <p>ハ. 避難、消火等の防災機能を果たす設備機器</p> <p>ニ. 火災、水害、避難の障害等の二次災害を引き起こす恐れのある設備機器</p> <p>ホ. その他これらに類する機器</p> <p>重要水槽とは重要機器として扱う水槽類、一般水槽とは一般機器として扱う水槽類を示す また、水槽類にはオイルタンク等を含む</p>							
▶ 12. 総合試運転調整等	<p>● 風量調整      ● 水量調整      ○ 室内外空気の温度</p> <p>○ 室内外空気の湿度      ○ 室内気流及びじんあいの測定</p> <p>○ 騒音の測定      ○ 飲料水の水質の測定</p> <p>総合試運転調整完了後、機器等の運転状態の記録及び系統ごとに各測定結果をまとめた測定報告書を工事監督員に提出する</p> <p>測定報告書には、測定器名、測定日時及び測定者名を記入し、測定点を示した図面を添付する</p>							
▶ 13. 仮設工事	<p>1) 工事用水      構内既存の施設      ○ 利用できる（ * 有償      ○ 無償 ） * 利用できない</p> <p>2) 工事用電力      構内既存の施設      ○ 利用できる（ * 有償      ○ 無償 ） * 利用できない</p> <p>3) 足場      別契約の関係請負者の定置する足場、棧橋の類は、無償で利用できる</p> <p>4) 交通誘導警備員      建設機械及び車両等の出入りの際には、出入口に交通誘導警備員を配置し、一般通行者及び一般車両の安全を確保すること</p> <p>なお、配置位置及び交通誘導警備員の区分は、次による</p> <p>配置位置：図面による</p> <p>警備員詰所：（ ○ 設ける      ○ 設けない）</p> <p>表 工事現場の位置と交通誘導警備員区分</p> <table border="1"> <tr> <th>工事現場の出入り口を設ける道路（路線）</th><th>交通誘導警備員区分</th></tr> <tr> <td>市街地（DID）内の路線</td><td rowspan="2">交通誘導警備員A</td></tr> <tr> <td>北海道（各方面）公安委員会告示による認定路線</td></tr> <tr> <td>上記以外の路線</td><td>交通誘導警備員B</td></tr> </table> <p>市街地内の路線及び認定路線の場合は、交通誘導警備業務を行う場所ごとに交通誘導警備員Aを1人以上配置する。</p> <p>交通誘導警備員Aを配置できない場合で、やむを得ず受注者自らが交通誘導を行う場合は、工事監督員と協議すること。</p>	工事現場の出入り口を設ける道路（路線）	交通誘導警備員区分	市街地（DID）内の路線	交通誘導警備員A	北海道（各方面）公安委員会告示による認定路線	上記以外の路線	交通誘導警備員B
工事現場の出入り口を設ける道路（路線）	交通誘導警備員区分							
市街地（DID）内の路線	交通誘導警備員A							
北海道（各方面）公安委員会告示による認定路線								
上記以外の路線	交通誘導警備員B							
5) 指定仮設	* なし      ○ 本工事（仮設計画図による）							
▶ 14. 土工事								
1) 管周囲の保護	* 山砂の類      ○ 良質土      ○ その他							
2) 埋戻し土	* 掘削土の良質土      ○ 山砂の類							
3) 建設発生土等の処理	<p>場外搬出（約      km      捨て場所      ）</p> <p>（捨て場所住所：      ）</p> <p>（管 理 者：      ）</p> <p>捨て土均し（ ○ 有り      ○ 無し）</p> <p>○ 構内敷均し      ○ 構内指示の場所に堆積（図示による）</p> <p>○ 構外敷均し</p> <p>○ 処理費（ * 有償      ○ 無償 ）</p>							
4) 山留め施工	○ 有り（工法：      ）      ○ 無し							



● 換 気 設 備

項 目	特 記 事 項
▶ 1. 換気方式	○ 中央式      ● 局所式
▶ 2. 主要換気設備	○ 1 種      ○ 2 種      ● 3 種
	○ ユニット型空調和機      ○ 熱交換形換気扇
	○ ダクト式機械換気      ● 換気扇
	○ その他 (                      )
▷ 3. 制御方式	イ. 熱交換換気扇 給気ファン停止      ○ 無      * 0℃ ○ 5℃ ○ 10℃
▶ 4. 換気扇スイッチ	● 別途工事      ○ 本工事      ○ 図示による

● 給 水 設 備

項 目	特 記 事 項
▶ 1. 給水方式	● 水道直結直圧方式 ○ 水道直結増圧方式
	○ ポンプ直送方式 (      ○ 上水      ○ 井水      )
	○ 高置タンク方式 (      ○ 上水      ○ 井水      )
▶ 2. 屋外給水引き込み管	既設配水管 (      ○ 分水新設      ○ 既設分水以降接続      ) 既設敷地内給水引き込み管 (      ○ 分水新設      ● 既設分水以降接続      ) 配水管新設 (      ○ 負担金      ○ 専用      ○ 布設替      )
▶ 3. 量水器	● 借受品      ○ 新品購入 (水道管理者指定品)
▶ 4. 量水器柵	● 水道管理者指定品      ○ 図内規格品
▷ 5. 量水器集中検針盤 計装工事区分	* 集中検針盤から量水器までの計装配管配線は本工事 ○ その他 (                      )
▷ 6. 量水器集中検針盤 試験調整工事区分	* 集中検針盤から量水器までの通信状況確認は本工事 ○ その他 (                      )
▷ 7. 受水タンク	イ. ○ 上水用 (                      )      ○ 本工事      ○ 別途工事 ロ. ○ 井水用 (                      )      ○ 本工事      ○ 別途工事 ハ. 制御方法      フロートレススイッチ ボールタップ・定水位調整弁 その他 (                      )
▷ 8. 給水装置	ニ. 警 報      ○ 満水      ○ 減水      ○ 低水位遮断      ○ 故障 イ. 給水ポンプ ○ 揚水用ポンプ ○ 床置型      ○ 水中型 ○ 水道用直結加圧形ポンプユニット ○ 小形給水ポンプユニット ○ 床置型      ○ 水中型 ○ 吐出し圧力一定制御      ○ 末端圧力推定制御 ○ その他 (                      ) ロ. 圧力タンク ○ 自動空気補給式 ○ 隔膜式 ○ その他 (                      ) ハ. 高置タンク      ○ FRP製 (                      ) ○ そ の 他 (                      ) ニ. 制御方法      ○ フロートレススイッチ ○ 圧カスイッチ ○ その他 (                      ) ホ. 警 報 ○ 満水      ○ 減水      ○ 低水位遮断      ○ 故障
▷ 9. その他	○ (                      )

●	<b>排 水 設 備</b>
---	----------------

項 目	特 記 事 項
▶ 1. 排水方式 ▶ 2. 排水桝及び蓋	<p>● 自然流下                      ○ 強制排水</p> <p>イ. インバート桝</p> <p>○ コンクリート桝</p> <p>○ 角型    ○ 丸型    ○ 市販コンクリート管    ○ 現場打</p> <p>● 塩ビ桝【蓋    ● 塩ビ                      ○ T8】</p> <p>○ その他（                                      市・町・村・型）</p> <p>ロ. ため桝</p> <p>○ コンクリート桝</p> <p>○ 角型    ○ 丸型    ○ 市販コンクリート管    ○ 現場打</p> <p>○ 塩ビ桝【蓋    ○ 塩ビ                      ○ T8】</p> <p>○ その他（                                      市・町・村・型）</p> <p>ハ. 蓋</p> <p>○ 鋳鉄製（    ○ 耐重    ○ 重量    ○ 軽量 ）</p> <p>○ コンクリート製</p> <p>○ その他（                                      市・町・村・型）</p>
▷ 3. 浄化槽設備	<p>イ. 方式                      ○ 長時間ばっ気</p> <p>○ 回転板接触</p> <p>○ 接触ばっ気方式</p> <p>○ その他（                                      ）</p> <p>ロ. 形式    ○ 現場施工型                      ○ ユニット型</p> <p>処理対象                      ○ 汚水    ○ 雑排水</p> <p>○ その他（                                      ）</p> <p>処理水量（                      m<sup>3</sup>/日 ）                      （                      ）人槽</p> <p>放流水水質（ BOD                      ppm ）</p> <p>ハ. ブローア設置場所    ○ 機械室内                      ○ 浄化槽内</p> <p>○ その他（                                      ）</p> <p>その他    設置浄化槽型式決定後直ちに施工承諾申請図及び計算書を 工事監督員へ提出すること</p>
▷ 4. 清掃消毒	<p>イ. 作業方法</p> <p>・ 洗浄吐出圧力7 MPa、吐出量25～70ℓ/minで清掃 清掃後、消毒剤にて消毒洗浄する</p> <p>○ 屋内雑排水管    ○ 汚水管    ○ 大便器    ○ 小便器    ○ 洗面器</p> <p>○ 掃除流し    ○ 事務室流し    ○ 厨房流し    ○ グリーストラップ</p> <p>・ 洗浄吐出圧力7 MPa、吐出量40～70ℓ/minで清掃 清掃後、消毒剤にて消毒洗浄する</p> <p>○ 屋外排水管                      ○ 排水桝</p> <p>・ 洗浄吐出圧力7 MPa、吐出量40～70ℓ/minで清掃</p> <p>○ ルーフドレン管</p> <p>ロ. 消毒剤</p> <p>・ 次亜塩素酸ナトリウム溶液    濃度    100mg/ℓ</p>
▷ 5. その他	<p>換気ドレン、水抜ドレン、バルコニードレン及び耐火二層管は保温を 施さない</p>

●	<b>衛 生 器 具</b>
---	----------------

項 目	特 記 事 項
▶ 1. 衛生器具及び付属機器	図内器具表による

項 目	特 記 事 項																																																																						
▷ 1. 概数等発注	<p>(1) 次に示した数量は概数であり、必要に応じて設計変更するものとする</p> <p>なお、設計に対して過大な出来高数量に変更するものではないことに留意すること</p> <p>(2) この工事においては、設計変更図書の作成（設計変更図面の作成及び工事数量の算出）を受注者に行わせることがある</p> <p>(3) 概数として取り扱っている事項の施工に当たっては、施工前に工事監督員と協議すること</p> <p>なお、数量の確認ができない場合を除き、施工前に数量を確定すること</p> <p>(4) 概数として示した仮設工の工事数量は、標準的な工法により算出したものであるため、取り合い等によって新たに必要となる項目についても概数として取り扱うことがある。</p> <p>(5) 概数</p> <p>7. 工事数量総括表細目別内訳又は別紙明細の備考欄に「概数」又は「概」と表示された項目・数量</p> <p>4. 次の項目・数量</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th colspan="2">設計数量（単位）</th> <th colspan="2">確定数量（単位）</th> </tr> <tr> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td> <td>積込・運搬量</td> <td>処分量</td> <td>積込・運搬量</td> <td>処分量</td> </tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	区 分	設計数量（単位）		確定数量（単位）																																	積込・運搬量	処分量	積込・運搬量	処分量																														
区 分	設計数量（単位）		確定数量（単位）																																																																				
	積込・運搬量	処分量	積込・運搬量	処分量																																																																			